

一九二九年九月二十一日

佛國

レルワ、ポリユー氏原著

版



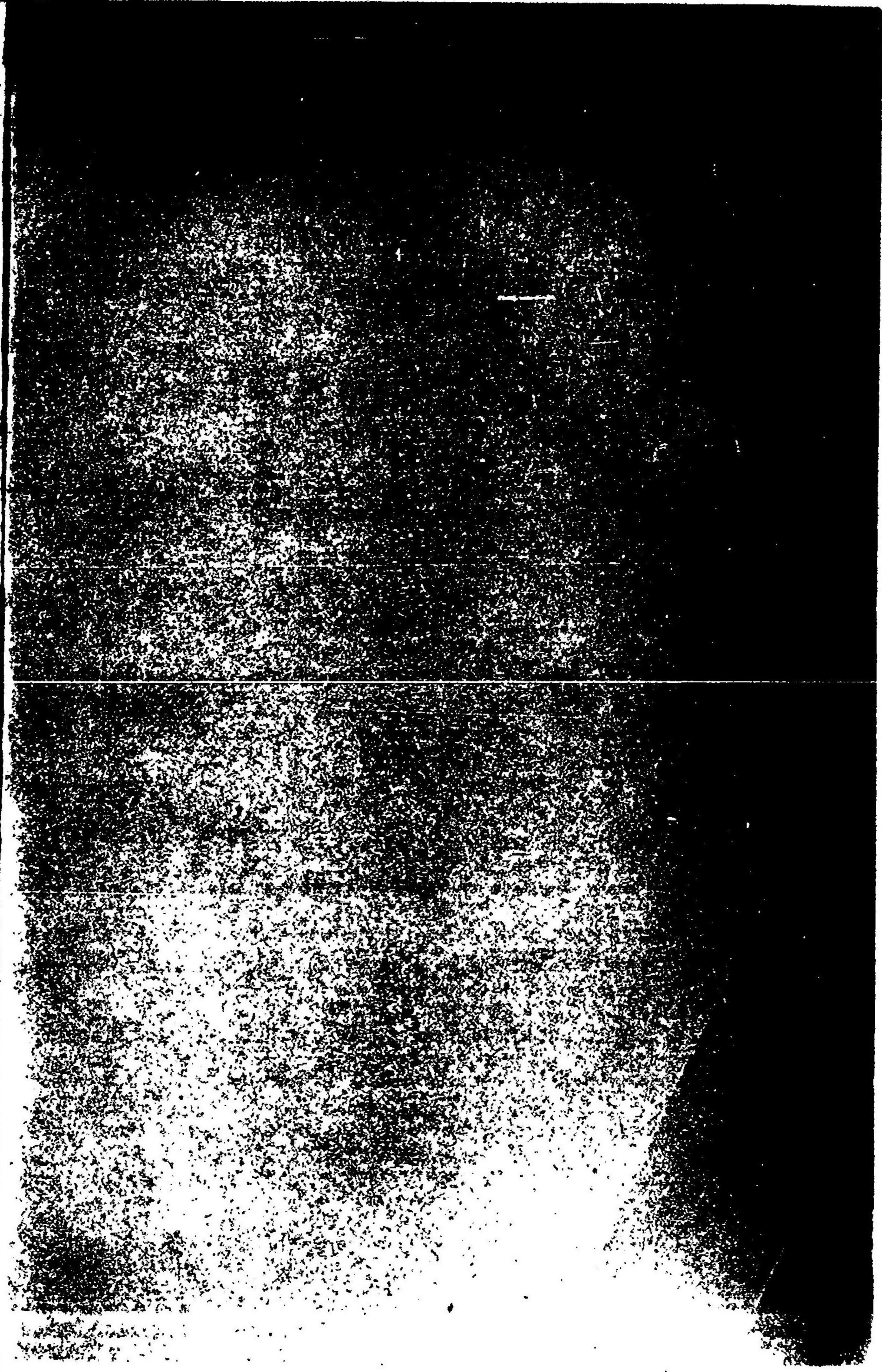
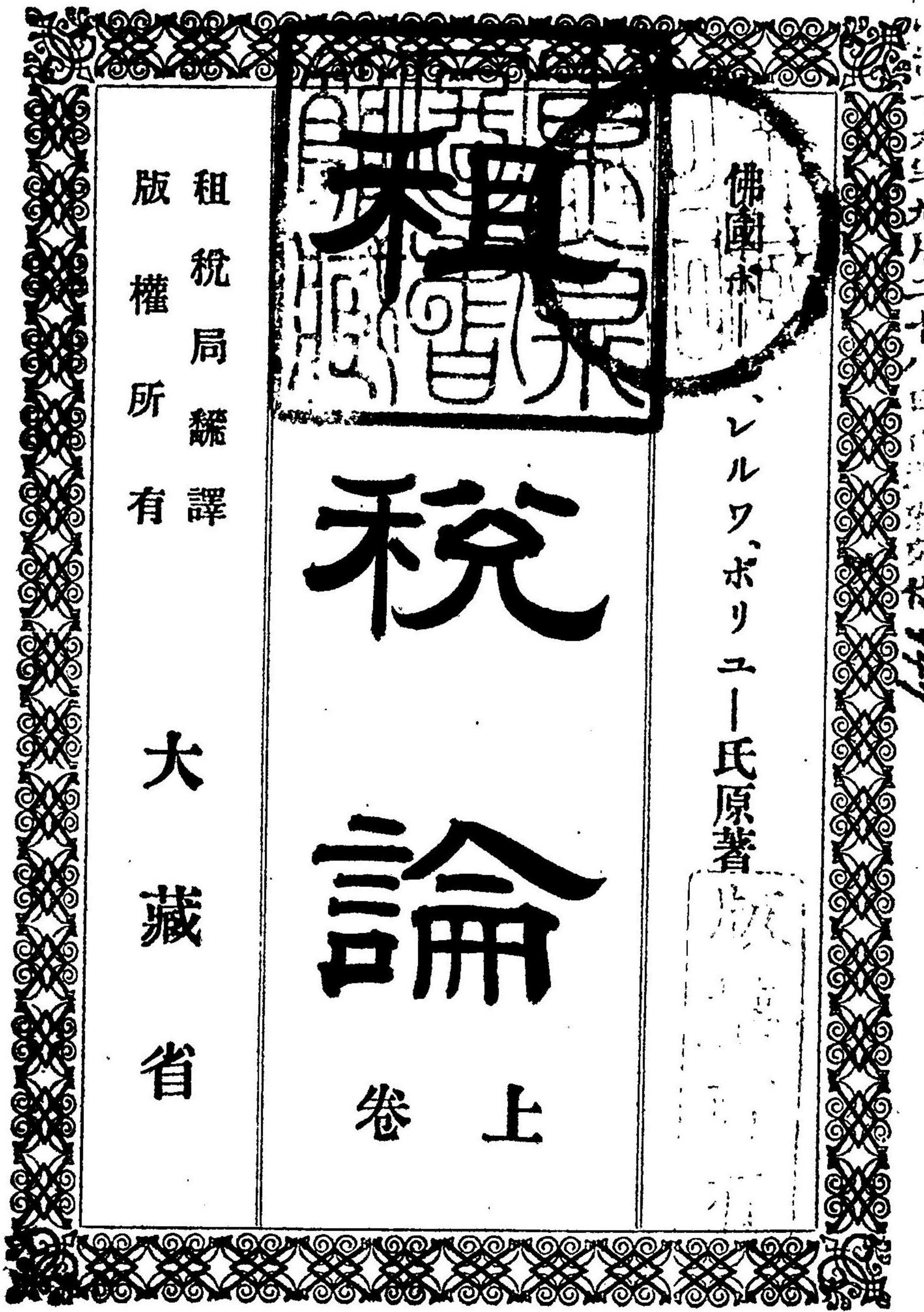
# 税

# 論

卷上

租稅局 翻譯  
版權 所有

大藏省



租稅論緒言

此編原書財政論西曆一千八百七十七年佛國財政學博士ポール、レルワ、ホリユ  
一氏所著ニシテ第一部官有物所出ノ收入第二部租稅第三部豫算第四部國債  
及ヒ不換紙幣ヲ論ス皆財政ノ要務ナリ而シテ其全部ヲ譯スル固ヨリ容易ノ  
事ニアラス因テ姑ク先ツ租稅部ノ諸篇ヲ譯述セントス通計十六篇第一篇ヨ  
リ第四篇ニ至ル四篇ハ租稅總論第五篇ヨリ第八篇ニ至ル四篇ハ佛國ニ於テ  
所謂四大直稅即チ分頭及動產稅、地租、門窓稅、營業稅等ヲ論說シ第九篇ヨリ第  
十二篇ニ至ル四篇ハ驕奢稅歲入稅資本稅、記錄稅及印紙稅、通信運送稅ヲ論說  
シ第十三篇ヨリ第十六篇ニ至ル四篇ハ關稅內國消費稅、地方稅、租稅輕減、稅率  
ノ效驗、收入増加、租稅ノ負擔、轉轉ノ顯象、諸級人民ノ負擔ヲ結論セリ委曲辨明  
頗ル該悉ト爲ス今租稅部十六篇譯成ル仍テ租稅論ト題シ印行シ以テ財政ニ  
從事スル者ノ考鑑ニ備フ

租  
稅  
局

租税論目次

第一篇 總論

租税義解

租税義解ノ辨妄

租税ハ政府ノ職務ト人民ノ義務ノ交換ニアラサルヲ

租税ハ公安保護料ニアラサルヲ

租税ハ只ニ行政費及ヒ國ノ資本ヲ改進スルカ爲メ一

般ノ費用ニアラサルヲ

租税ハ只政府ノ費用ヲ支給スル爲メ國民之ヲ拂フニ

過キサルヲ

租税ノ善不善

租税ハ一度ヒ徵收スルモ遂ニ人民ニ歸スヘシトナス  
ハ非ナリ

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

重税ノ説アダムスミス氏トマクグラツク氏ト相合ハサル	十六丁
最輕ノ租税ハ必シモ最良ノ租税ニアラサル	二十三丁
租税ハ有益ナル仕拂法トナル	二十四丁
租税ハ國家ノ集合貯蓄ノ一種タルヘク又一種タラサルヘカラサル	二十四丁
租税ニアラサレハ施コス能ハサル專業少ナカラサル	二十四丁
租税徴課ノ程度	二十六丁
國税ト國民ノ歳入ノ比例	二十七丁
輕税	二十八丁
白耳義國ノ租税	三十丁
不輕不重税	
英國ノ租税	

重シト雖尙堪ユヘキノ税	三十三丁
佛國ノ租税	
第二篇 總論 比例税及累進税	
特別税ノ要竝ニ普通税ノ要	三十九丁
英國地方税ノ例	四十丁
特別税法ノ弊	四十一丁
アダムスミス氏ノ租税四則	四十六丁
比例税並ニ累進税	四十八丁
累進税論者ノ説	四十九丁
負擔平均ノ辨妄	五十三丁
累進税ノ法ハ情論ニシテ條理ナキ	五十四丁
政府カ各級ノ人民ニ盡ス所ノ職務ノ費用	五十九丁
政府カ盡ス所ノ職務ノ費用ト私立會社カ盡ス所ノ職務ノ費用ノ對比	六十一丁

累進税ノ臆懼ナルヲ

累進税ハ富民ノ財産ヲ掠奪スルヲ

累進税ノ弊害

累進税ハ收入ヲ得ル能ハサルヲ

巨大ノ資本歳入ハ寡數ナルヲ

普魯士國「アインコムメンストイヤ」ノ例

合衆國ノ例

瑞士國諸州ノ累進税

瑞士國ノ實踐ハ累進税ノ善美ナルヲ證スルニ足ラサ

ルヲ

瑞士國ノ累進税ハ薄斂ニシテ通例低度ニ止マルヲ

累進税ノ收入ハ比例税ニ大異ナキヲ

累進ノ外形ヲ有スル税法ノ例

佛國等ノ動産税

六十四丁

七十一丁

七十二丁

七十二丁

七十三丁

七十四丁

七十五丁

八十二丁

百三丁

百三丁

百三丁

百四丁

百四丁

百四丁

下等歳入ノ税ヲ除シ次等歳入ノ税ヲ輕減スルハ累進税

ニ異ナルヲ

百九丁

第三篇 單税及複税 資本税及歳入税

單税ノ説

百十四丁

ヴォーバン氏ノヲ

百十四丁

フィシオクラット黨ノヲ

百十五丁

充分ノ收入ヲ得ル時ハ單税ニ利アルヲ

百十八丁

單税ハ決シテ行フヘカラサルニアラサルヲ

百十九丁

或ル場合ニ於テハ單税ヲ以テ政府ノ經費ヲ得ルニ足

百十九丁

ルヘシ

百年以來平和無事ナレハ佛國ノ國費地方費方今ノ如

百二十丁

ク大ナラサルヘキヲ

百二十六丁

單税ト並ヒ行フヲ得ヘキ財源

百二十六丁

白耳義ト雖方今ハ單税ヲ行フヘカラサルヲ

百三十五丁

單稅ハ特ニ直稅ニ於テスヘキヲ  
 直稅ヲ重課スルハ平等ナリ難ク且ツ收入ヲ得ルノ難  
 キヲ  
 百三十七丁

フイシオクヲツト黨租稅說ノ辨妄  
 近來不動資本ニ單稅ヲ課セントスルノ說  
 百四十七丁

ヴォルターヤ氏ノ寓言  
 百四十九丁

百般ノ租稅ノ負擔ハ必ス土地若クハ資本ニアリテ是  
 等ノ利益ヲ減スヘントナスノ妄ヲ辨ス  
 百五十一丁

消費稅ヲ廢シテ更フルニ地租單稅若クハ資本單稅ヲ  
 以テスレハ地主ヲ苦ムヘキヲ  
 百五十五丁

單稅若クハ複稅ノ基礎トナスニ資本稅ヲ以テスヘキカ  
 歲入稅ヲ以テスヘキカ  
 百五十八丁

資本稅ヲ利トスル說  
 百六十四丁

資本稅ハ歲入稅ノ平等ナルニ及ハサルヲ  
 百六十四丁

百七十七丁

資本稅ハ政治上社會上ノ不便アルヲ  
 資本稅ハ國民ノ小部分ニ課シテ大部分ニ課セサルヲ  
 百七十八丁

資本ノ價格ヲ知ルハ歲入價格ヲ知ルヨリ難シ  
 百八十一丁

巨額ノ國債ヲ有シ巨萬ノ兵ヲ備フル所ノ政府ハ單稅ヲ  
 以テ國費ヲ補フニ足ラス  
 百八十七丁

資本單稅ノ實施スルニ難ク煩惱ニ堪エサルハ歲入單  
 稅ヨリ甚シ  
 百九十二丁

百九十三丁

第四篇 直稅及間稅

各租稅ヲ論スルニ之ヲ孤視スヘカラス宜ク他ノ共行租  
 稅ヲ對照スヘシ  
 百九十六丁

政府ニ於ケル直稅間稅ノ義解並ニ經濟上ノ義解  
 直稅ノ利益不便  
 百九十八丁

直稅ヲ以テ勞力者ニ課スルノ難キヲ  
 二百一丁

直稅ヲ重課スル時ハ徵收難ク不平均甚シカルヘキヲ  
 二百三丁

二百四丁

直稅收入高自然ノ増加ハ間稅增加ノ間斷ナク且ツ巨  
大ナルニ及ハサルヲ 二百五丁

直稅ノ屈伸力ハ遙ニ間稅ニ及ハサルヲ 二百六丁

英國ノ例證 二百七丁

英國消費稅收入高ノ増加ハ歲入稅ヨリ速カナルヲ 二百十五丁

歲入稅ハ直稅中最モ屈伸力ノ大ナルヲ 二百十五丁

地地利ニ於ケル例證 二百十六丁

佛國ノ例證 二百二十丁

直稅ノ屈伸力ナキハ方今ノ諸國ニ於ケルカ如ク經費  
増加シテ止サル者ニ大不便ナルヲ 二百二十四丁

困難ノ時ニ當テ間稅ノ收入ヲ減スルヲハ世人カ想像  
スル如ク甚シカラサルヲ 二百二十五丁

千八百七十年千八百七十一年ニ於ケル佛國ノ實證 二百二十五丁

千八百七十二二千八百七十五年ニ於ケル西班牙ノ例 二百二十五丁

證

直稅徵收ノ易キハ獨リ賦課ノ輕キ時ニアリ賦課重キニ  
過レハ殆ト徵收スル能ハサルヲ 二百二十九丁

革命政府ノ時ニ於ケル佛國ノ例證 二百三十二丁

英佛戰爭ノ時ニ於ケル英國ノ例證 二百三十五丁

困難ノ際ニ當リ直稅ヲ増課スルモ妨ケナキ場合アルヲ  
クリミアノ戰役ニ英國ハ租稅ヲ増課シテ經費ノ一部  
ヲ補ヒシヲ 二百四十二丁

直稅ノ負擔ハ人民カ之ヲ覺ユルヲ直接ニシテ多少政府  
ノ非行ヲ抑止スルノ功アリトナスノ說 二百四十六丁

實際ノ經歷ニ據ルニ此言タル空妄ニ過キサルヲ假令  
ヒ少シク其形アルモ過實ノ言タルヲ 二百四十六丁

國民歲入ノ三分若クハ四分ヲ徵收シテ國費ニ給スルニ  
足ルニアラサレハ間稅ヲ廢スル能ハサルヲ 二百四十九丁

間税ノ第一不便

被税者ノ財産若クハ歳入ニ比例セサルヲ  
諸間税ノ並行宜キヲ得ル時ハ不平均ヲ減スルヲ得ヘ  
キヲ

二百四十九丁  
二百四十九丁

間税ハ皆必シモ分頭税ニアラサルヲ

二百五十二丁

間税ニ被税者ノ財力ト多少相比例スル者多キヲ

二百五十三丁

消費税ハ通例被税物ノ量ニ據テ課スヘキモ其品位ニ

二百五十四丁

據ル能ハサルヲ

二百五十五丁

間税ノ第二不便

營業ヲ束縛シ其發達ヲ妨クルヲ

二百五十六丁

マクラツク氏ノ説

二百五十九丁

マクラツク氏自ラ所論ニ反スルヲ

二百六十二丁

ダヴィット、ウエルズ氏クリフ、レスリー氏ノ反對説

二百六十五丁

アルコール税ノ如キ某間税ハ大不便アルヲ

二百六十六丁

間税ノ第三不便

南北戦争前後合衆國ノアルコール税ノ景況

二百六十六丁

間税ノ第三不便

人為ヲ以テ工業ノ配賦ヲナシ大製造家巨商ヲ惠シ

二百七十二丁

中小ノ製造家商賈ヲ苦ムルヲ

二百七十二丁

第三不便ノ理由

二百七十二丁

間税ノ第四不便

徴收費ノ割合直税ヨリ大ナルヲ

二百七十三丁

英國ノ例證

二百七十四丁

間税ノ徴收費ハ世人カ想像スル如ク大ナラサルヲ

二百八十一丁

佛國ノ例證

二百八十一丁

間税ノ第五不便

數萬ノ壯夫ヲシテ不生産ノ業ニ就シムルヲ

二百九十一丁

間税ノ第六不便

道德破壊ノ原因タルヲ

二百九十二丁



間税ノ利益ト稱スル世説 二百九十三丁

人民カ負擔ヲ覺エサルヲ 二百九十四丁

之ヲ拂フト拂ハサルトハ被税者ノ隨意タルヲ 二百九十四丁

被税者ノ爲メニ至便ナル時ニ於テ之ヲ拂フト 三百二丁

右ノ諸利益ハ虛妄ナリ或ハ過實ナルヲ 三百三丁

間税ノ眞利益 三百三丁

一切ノ歳入大小トナク之ヲ課スルニ容易ナルヲ 三百三丁

國富ノ發達ニ從テ收入ヲ増加スルヲ 三百四丁

國ニ巨額ノ負債アリ巨萬ノ常備軍ヲ置ク者ハ間税ヲ課セサレハ國費ヲ給スルニ足ラサルヲ 三百五丁

第五篇 直税 分頭税

直税ハ時トシテハ人ニ課シ時トシテハ物(資本若クハ歳入)ニ課スルヲ得ルヲ 三百八丁

分頭直税 三百八丁

分頭税ハ普通ニシテ數多ノ方法アレリ 三百八丁

分頭税ハ上下同一ノ税額ヲ拂ハシメ参政權ノ代價トナスヲ 三百九丁

マサチューゼツ州ノ例 三百九丁

分頭税ヲ以テ歳入ノ多少ニ應セシメントスル傾向アルヲ 三百十二丁

等級分頭税即チ等級税ハ通例歳入税ノ初級タルヲ 三百十三丁

以太利普魯士瑞士諸州ノ例 三百十五丁

普魯士等級税ノ組織 三百十九丁

普魯士等級税ノ收入高ハ歳入税ニ勝ルト雖増加ハ之ニ及ハサルヲ 三百二十三丁

前條ノ理由 三百二十三丁

等級分頭税ノ害 三百二十六丁

佛國ノ分頭税 三百二十七丁

佛國分頭税ノ沿革

分頭税ハ動産税ト分ツヘキ  
 分頭税ノ税率ヲ増加スヘキ  
 分頭税ヲシテマサチューゼツ州ニ於ケルカ如ク参政  
 權ノ代價トナス

第六篇

財産税 地租

地租ノ特別ナル性質  
 地代即チ純歳入  
 土地ノ被税物ニ適當ナル三理由  
 開化ノ度ニ從ツテ地租法ヲ異ニスル  
 土地ノ廣狹ニ比例スル租税  
 土地ノ肥瘠ニ從ツテ等級ヲ定メ同級ニ同率ヲ課スル租  
 税

三百二十六丁  
 三百三十六丁  
 三百三十七丁  
 三百三十八丁  
 三百三十八丁  
 三百三十九丁

未開家畜若クハ菓樹ノ數ニ由テ課スル租税  
 惣歳入高ニ課スル租税即チ十一税  
 未開國ニ於ケル十一税ノ大不便  
 十一税ハ耕耘ノ進歩ヲ妨ケ農業ニ資本ヲ用ユル者ヲ抑  
 制スル  
 耕耘ノ進歩ニ從ツテ惣歳入ト純歳入ノ差ヲ減縮スル  
 十一税收入ノ困難  
 土耳其ノ例  
 十一税ハ凶年ニ當リテ却テ重キ  
 地租ノ良法  
 地租ハ土地ノ賣買價格ニ比例シ若クハ地主ノ純歳入ニ  
 比例スルヲ得ヘキ  
 土地ノ賣買價格ニ課スルハ地主ノ純歳入ニ課スルニ如  
 カス

三百四十丁  
 三百四十丁  
 三百四十二丁  
 三百四十三丁  
 三百四十三丁  
 三百四十三丁  
 三百四十四丁  
 三百四十五丁  
 三百四十五丁  
 三百四十六丁

土地ノ純歳入ニ數々變動アルヲ  
 地租實際ノ負擔  
 地稅負擔三說  
 第一說ニ據レハ地租ハ農産物消費者ノ負擔ニ歸スルヲ  
 稅率非常ニ重ク徵收法惡キニアラサレハ地租ハ農産ノ  
 價ヲ左右スルニ足ラサルヲ  
 地租ノ爲メニ土地ノ耕耘ヲ減スル場合  
 土耳其ノ例  
 往時佛國ニ於ケル同一ノ例  
 英國ノ某地方ニ於テ救貧稅ノ爲メニ土地ノ耕耘ヲ減シ  
 タル例  
 第二說地租ハ專ラ土地ノ純歳入ノ負擔タルヲ  
 第三說舊置ノ地租ハ現今地主ノ負擔トナラス又消費者  
 ノ負擔トナラス地租設置ノ際ニ於ケル地主ノ財産ノ一

三百四十六丁  
 三百四十八丁  
 三百四十九丁  
 三百四十九丁  
 三百五十一丁  
 三百五十一丁  
 三百五十二丁  
 三百五十二丁  
 三百五十四丁  
 三百五十四丁

部ヲ剝奪スルニ止マルヲ  
 第三說ノ辨妄  
 地租ト家屋稅ハ通例負擔ノ歸スル處ヲ異ニスルヲ  
 地租ハ地主ノ負擔ニ歸シ消費者ニ負擔セシムル能ハサ  
 ルヲ  
 家屋稅ハ繁榮ナル國ニ於テハ消費者即チ家屋ノ借主ニ  
 歸スル傾向アルヲ  
 地租ハ一定不動ナルヲ要スルカ將タ動搖セシムヘキカ  
 地租ハ動搖セシムル時ハ却テ平均スルヲ得ヘキヲ  
 地租ハ配賦法トセンカ將タ取分法トセンカ  
 取分法ノ大利益  
 地租ヲ動搖セシムルモ甚ダシキニ過キサレハ敢テ農業  
 ノ進歩ヲ妨クルニ足ラサルヲ  
 歐洲諸國ノ地租

三百五十五丁  
 三百五十七丁  
 三百五十九丁  
 三百五十九丁  
 三百五十九丁  
 三百五十九丁  
 三百六十丁  
 三百六十丁  
 三百六十丁  
 三百六十丁  
 三百六十二丁  
 三百六十二丁  
 三百六十四丁  
 三百六十四丁  
 三百六十六丁  
 三百六十六丁

佛國ノ地租	三百六十六丁
以太利ノ地租	三百六十七丁
埃地利ノ地租	三百六十八丁
白耳義ノ地租	三百六十九丁
荷蘭ノ地租	三百六十九丁
普魯士ノ地租	三百七十丁
英國ノ地租	三百七十一丁
英國歳入税ノ甲種乙種并ニ地方ノ諸税ヲ以テ地租ニ 合算スヘキヲ	三百七十二丁
英國ノ地租ハ蓋シ佛國ノ農地ニ課スル地租ヨリ重キヲ	三百七十三丁
佛國地租ノ變遷	三百七十四丁
革命政府カ地租ヲ以テ純歳入ノ五分ノ一トナセシハ十 一税并ニ封建時代ノ諸税ヲ廢セシヲ以テ重シト云フヘ カラサルヲ	三百七十五丁

委員總會ハ却テ地主ノ負擔ヲ減セシヲ	三百七十六丁
千八百二十一年ニ至ル迄漸次地租正税ヲ減セシヲ	三百七十八丁
不動産歳入ノ増加	三百八十丁
純歳入ニ比例シテ地租ノ次第ニ減スルヲ	三百八十二丁
佛國地主不平ノ理由	三百八十三丁
佛國ノ地主ハ革命政府カ租税ヲ減セシヲ記慰セサルヲ	三百八十四丁
佛國ノ地主ハ資本ノ負擔スル租税ヲ願ミサルヲ	三百八十四丁
佛國ノ地主ハ副税ノ特別ナル性質ヲ願ミサルヲ	三百八十五丁
若シ配賦法宜キヲ得ハ農地并ニ建物アル土地ノ税ハ中 央政府ノ收入ニ七千萬フランク若クハ一億五千萬フラン クヲ加フヘキヲ	三百八十六丁
佛國ノ地租配賦法ハ宜キヲ得サルヲ	三百八十六丁
地租原簿	三百八十七丁
略分原簿	三百八十八丁

精分原簿 三百八十八丁

地租原簿調製ノ手續 三百八十九丁

佛國地租原簿ノ弊害 三百九十二丁

矯正ノ不充分ナルヲ 三百九十四丁

地租不平均ノ例 三百九十五丁

配賦ノ度毎ニ不平均ヲ増スヲ 三百九十八丁

某地主ハ歳入ノ四分ノ一若クハ三分ノ一ヲ拂ヒ某地主  
ハ僅カニ五十分ノ一若クハ百分ノ一ヲ拂フヲ 四百三丁

地租ヲシテ平均ナラシメ且ツ屈伸力アラシムルカ爲メ  
ニ定期ノ原簿改正ヲ要スルヲ 四百六丁

地租原簿改正ハ敢テ至難ナラサルヲ 四百六丁

英國ノ例 四百十二丁

某國ニ於テ地租ヲ賣拂フヲ 四百十五丁

英國ニ於テ地租ヲ賣拂ヒタル結果 四百十七丁

第七篇

埃及ノ「ムーカバラ」ノコ 四百二十丁

家屋税門窓税烟筒税等 動産税即チ家賃税 四百二十三丁

農地ノ租税ト家屋税ヲ分タサルヘカラサルヲ 四百二十四丁

地租ト家屋税ハ負擔ノ歸スル所ヲ異ニスルヲ 四百二十五丁

家屋税ハ通例家賃ヲ増加シテ借主ノ負擔トナルヲ 四百二十九丁

佛國家屋税ノ不平均 四百三十一丁

家屋税ノ不平均ハ地租ノ不平均ナルヨリ甚タシキヲ 四百三十一丁

定期ノ改定ナキヲ以テ家賃税收入ノ増加少ナキヲ 四百三十一丁

英佛二國ニ於テ家賃價格ノ發達速カナルヲ 四百三十三丁

統計上ノ計算 四百三十四丁

佛國ニ於テ家屋税トシテ國稅地方税ヲ合セテ家屋價格  
ノ一割五分ヲ課スルモ敢テ重キニ過クト云フヘカラス  
シテ三億「フランク」ノ收入ヲ得ヘキヲ 四百三十五丁

以太利埃地利殊ニ亞米利加ノ家屋稅ハ遙ニ佛國ノ家屋稅ヨリ重キヲ

四百三十七丁

合衆國家屋稅ノ重キハ入市稅ノ如キ地方ノ消費稅ヲ避ル路ナルヲ

四百三十八丁

亞米利加ニ於ケル市府ノ直稅ノ肝要ナル例

四百三十八丁

門窓稅若クハ烟筒稅

四百四十二丁

門窓稅等ノ不條理ニシテ不正ナルヲ

四百四十三丁

英國ノ窓稅

四百四十三丁

佛國ノ門窓稅

四百四十五丁

佛國ノ門窓稅ハ交々取分法配賦法トナリ取分配賦混交ノ性質アルヲ

四百四十六丁

門窓稅ノ變遷

四百四十六丁

門窓稅改革收入上ノ效驗

四百四十七丁

門窓稅々率

四百四十九丁

門窓稅統計表

門窓稅ノ賦課ハ不平均ヲ免レ難キヲ

四百五十九丁

門窓稅ヲ以テ家屋稅若クハ家賃稅ニ混合スヘキヲ

四百六十一丁

家賃稅即チ佛國ノ動產稅

四百六十二丁

家賃稅ハ直稅中ノ一最良法ナルヲ

四百六十三丁

家賃稅抵抗論ノ辨駁

四百六十四丁

家賃稅ヲ課スルニ幼稚家族ノ數ヲ斟酌スルモ妨ケナキヲ

四百六十四丁

簡易ナル驕奢稅ヲ以テ家賃稅ニ加フルヲ得ルヲ

四百六十六丁

家賃稅ハ上下皆同一ニ課スルヲ

四百六十八丁

小歲入ノ家賃稅ヲ除スルハ當然ナルカ

四百六十九丁

家屋稅ニ累進ノ外形ヲ有スルハ至當ナルカ

四百六十九丁

巨歲入カ家賃ニ供スル部分ハ果シテ中歲入小歲入カ之ニ宛ル部分ヨリ小ナルカ

四百七十丁

家賃税ヲ以テ平均一割トシ一割五分ノ家屋税ト并ヒ行  
 フモ敢テ重キニ過キサルヘキヲ 四百七十二丁

家賃税家屋税ノ收入ヲ以テ入市税ヲ廢スルヲ得ヘキヲ 四百七十三丁

佛國動産税ノ沿革 四百七十六丁

委員總會ノ主意 四百七十七丁

革命政府ノ時ノ改革 四百八十一丁

動産税ノ大害ハ配賦法ナルヲ以テナリ 四百八十二丁

配賦法ノ大不平均 四百八十三丁

千八百三十年王政ノ初メ動産税改正ノ銳氣足ラサリシ 四百八十五丁

佛國動産税ニ於テ分頭税ト混行スルノ害 四百八十七丁

動産税ヲ以テ分頭税ニ混スル三大不便 四百八十九丁

其例 四百九十丁

佛國大府ノ動産税法 四百九十三丁

累進形ニ付テ參事院ノ判決 四百九十四丁

動産税ノ宜キヲ得セシメント欲セハ改メテ取分法トナ  
 スノ一法アルヲ 四百九十六丁

第八篇

工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所得税 佛國營業税 取引高税 動産  
 税 工商及ヒ高尙ナル職業者ノ利益ニ特別ノ租税ヲ課スル  
 ハ可ナリヤ 四百九十七丁

該税ハ一般ノ歳入税ノ一部トナスニ非サレハ不公平ヲ  
 免レス 四百九十九丁

營業免許税ト營業税ノ別 四百九十九丁

佛國營業免許税ノ性質 五百丁

英國營業免許税ノ性質并ニ其關係 五百二丁

佛國營業税ノ起原ハ偶然ナルヲ 五百四丁

千七百九十一年以來營業正稅收入高ノ増加盛ナリシ事 五百六丁

工業商業利益稅ノ大困難 五百九丁

營業稅規則ノ漸次總密ニ至リシ事 五百十一丁

諸營業ノ階級 五百十二丁

佛普戰爭以後ノ佛國ノ營業稅 五百十五丁

千八百七十二年ノ改正 五百十六丁

千八百七十三年ノ改正案 五百二十丁

職業稅(誤リテ定額稅ト稱スル者)及ヒ比例稅 五百二十一丁

營業稅賦課法ノ四要領 五百三十丁

該稅ノ大不平均 五百三十三丁

協力營業ニ重課スルヲ 五百三十五丁

營業者ノ住居ニ營業稅ヲ課スルノ不正ナルヲ 五百三十六丁

定額稅即チ職業稅最高點廢止ノ好結果 五百三十七丁

營業稅ヲ以テ巨大ナル小賣業ノ起立ヲ妨ケントスルヲ該議ノ辨駁 五百三十七丁

營業稅ハ營業者ノ負擔トナルカ將々消費者ノ負擔トナルカ其區別 五百三十九丁

營業稅實際ノ負擔 五百三十九丁

取引高ノ稅 五百四十二丁

取引高稅ノ不平均大困難 五百四十五丁

或ル場合ニ於テハ營業稅ノ補助トシテ取引高ノ稅ヲ行フモ妨ケナキヲ 五百四十六丁

動産ノ歲入稅 五百四十六丁

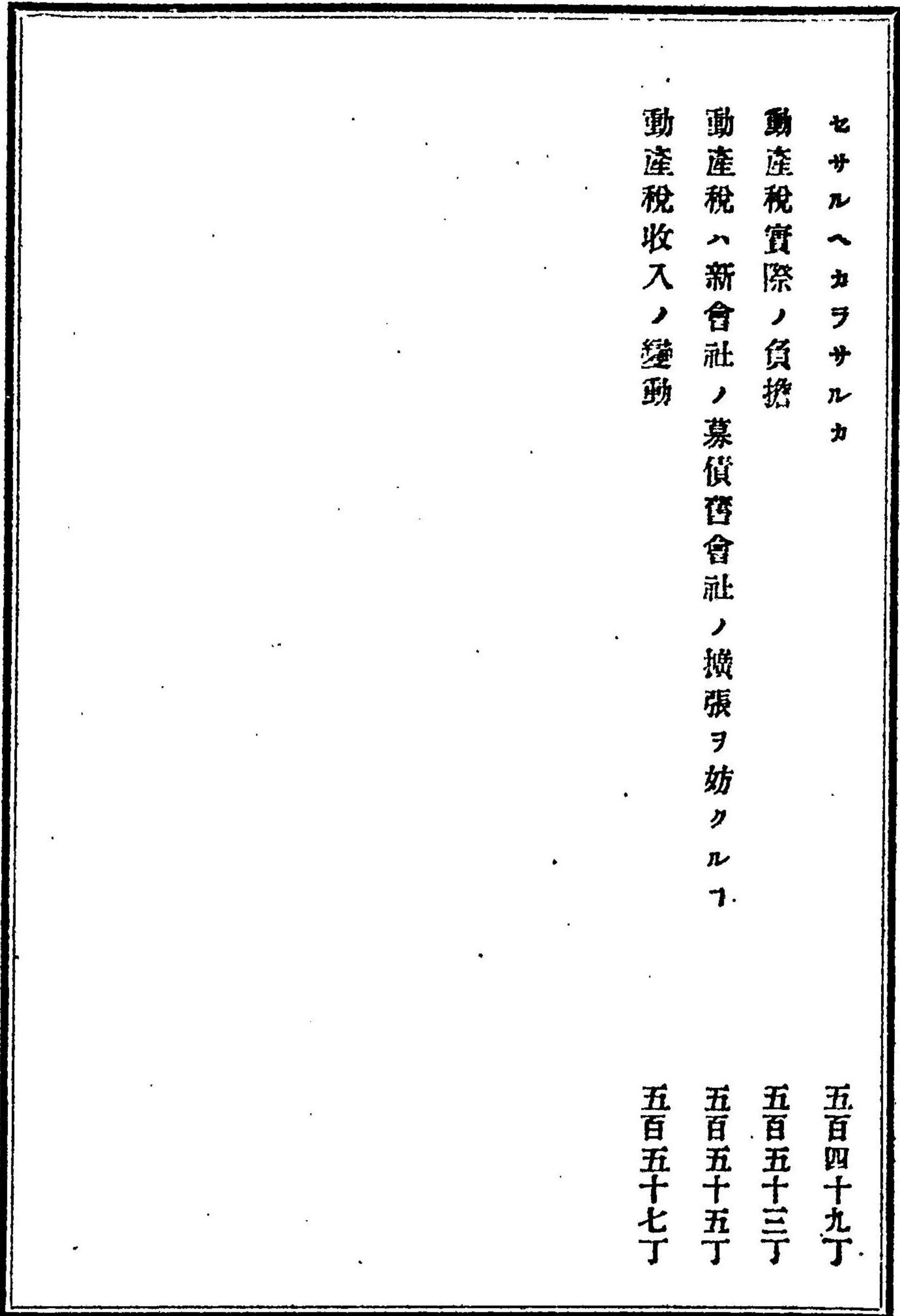
動産ノ負擔ニ付テ公衆カ見ヲ誤ルヲ 五百四十七丁

動産ノ歲入ニ租稅ヲ課スルハ無名會社カ已ニ負擔セシ者ニ再課スル者ナリ 五百四十七丁

動産稅ハ政府ノ公債證書不動産書入質貸附證書等ニ課 五百四十七丁

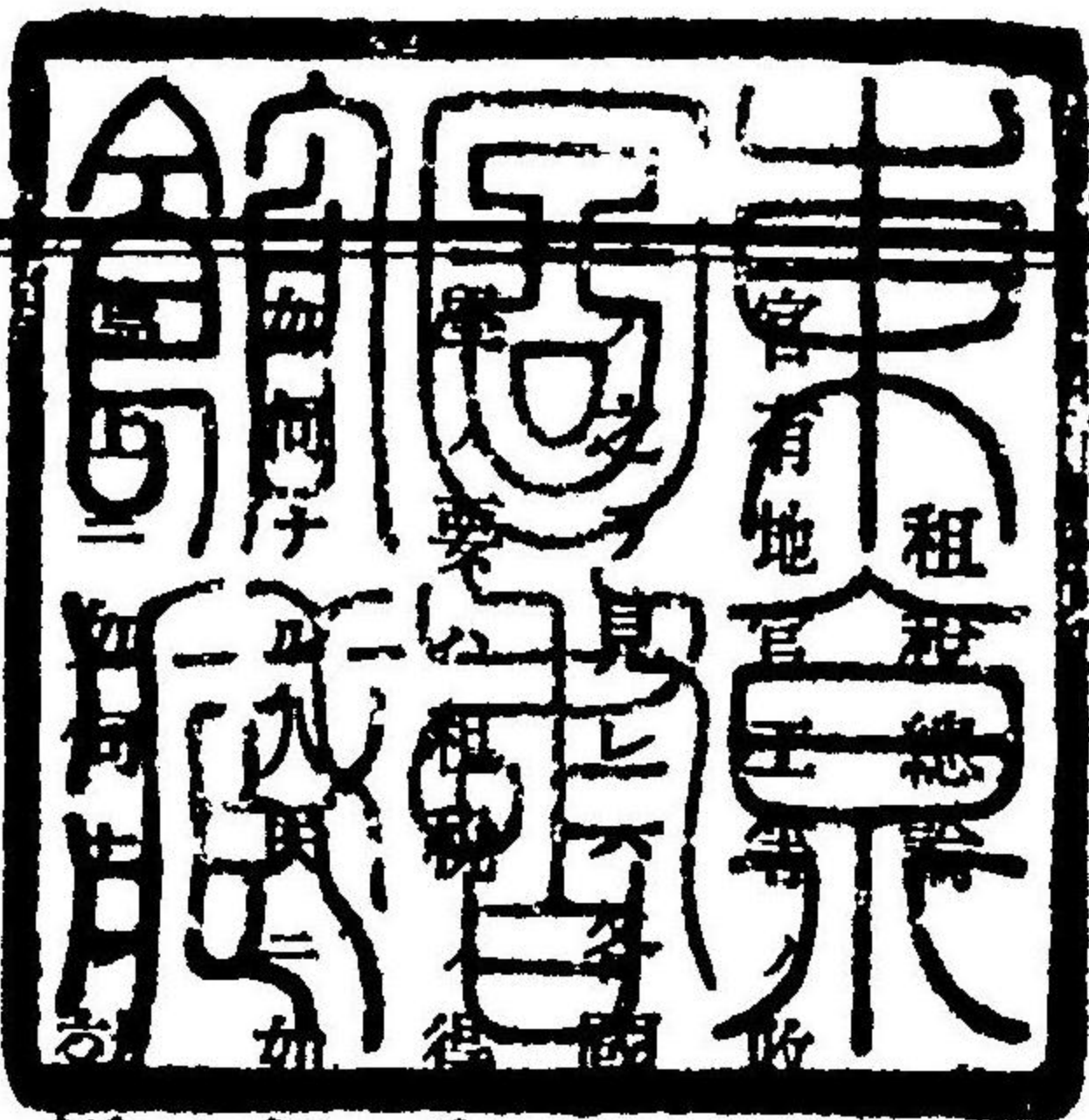


セサルヘカラサルカ	五百四十九丁
動産税實際ノ負擔	五百五十三丁
動産税ハ新會社ノ募債舊會社ノ擴張ヲ妨クルヲ	五百五十五丁
動産税收入ノ變動	五百五十七丁



租稅論

第一篇



入ハ將來政府歳入ノ一大要項タルヘシト雖方今ノ勢ヲ以  
ニ於テ歳入ノ最モ要項ヲ占ル者ハ租稅ナリ是ヲ以テ財政  
失ヲ探究シ如何ナル稅法ハ最モ官民ノ便利ナルヤ某稅ハ  
如何ナル効驗ヲ生スヘキヤ租稅ハ生産上及ヒ國民ノ自由道  
驗ヲ生スヘキヤヲ論究スルニアリ

先ツ之ヲ論スルニ當テ租稅ノ義解ヲナサ、ルヘカラス抑政府カ直接若クハ  
間接ニ人民ヨリ若干額ヲ徵收シ而シテ人民カ直ニ見ルヘキノ報酬ヲ得サル  
時ハ世人之ヲ稱シテ租稅ヲ拂フト云ヒ租稅ノ何物タルヲ解セサルニアラサ  
ルカ如シ然ルニ世ノ經濟家財政論者ハ租稅ノ義解ニ付テ一定ノ說ヲ有セス  
各自家ノ說ヲ唱ヘ經濟學財政學ノ基礎ヲシテ一ニ歸スルヲ能ハサラシメン

トス故ニ今租税ノ義解ヲ定ムルハ最モ肝要ナルヘシ  
租税ハ政府ノ費用ニ給スル爲メニ政府カ直接若クハ間接ニ人民ニ賦課スル  
者ヲ云フ而シテ此徴收セシ税金消費ノ當否被稅者カ其實ヲ解スルト否ラサ  
ルト之ヲ公益ニ用フルト私益ニ用フルトハ經濟上又社會上ニ於テハ大ニ利  
害ヲ異ニスヘシト雖租税ノ性質ニ至テハ未タ嘗テ變スル所アラサルナリ譬  
ヘハ土耳其ノ如キハ其徴收セル租税ハ殆ト外債元利ノ仕拂王室ノ奢侈ニ消  
費シ盡シ人民ハ其報酬ヲ得サルナリ然ラハ土耳其國民ノ拂フ所ノ者ハ租税  
ニアラスト云ハンカ曰ク否均ク是レ租税ナルヘシ然ラハ則チ一國ノ政府カ  
成規ニ據リテ人民ニ賦課シ政府ノ費用ニ給スル者ハ都テ皆租税ト稱スヘキ  
ナリ何ソ必シモ理論ヲ以テ強テ從來ノ語意ヲ變センヤ  
然リト雖租税ノ徴收法消費法ノ當否ニ至テハ衆說一定セス議論相反スルモ  
敢テ怪シムニ足ラサルナリ  
經濟學ノ大家スミス、ゼー、リカード氏ハ皆租税ハ人民ニ賦課シテ政府ノ費用  
ニ給スル者トセリ爾後クルセル、セニユイル、ブルードン、グラマゲラン、ヂヨ

セフガ―ニヤノ諸氏モ亦皆此大意ニ從ヒ只或ハ之ヲ詳解シ或ハ少シク添削  
セシノミニシテ今日ト雖此意ヲ變更スルコト能ハサルヘシ若シ一回此意ヲ曲  
クル時ハ却テ誤謬ヲ免レサルヘキナリ只余盡カ云ハント欲スル所ノ者ハ凡  
ソ政府ノ費用ハ宜シクカヲ極メテ社會ノ爲メニ正平ニシテ有益ナルヲ計ル  
ヘシト云フニアリ千七百八十九年ニ於テミラボーコンスタンチノウポリ氏カ委員總會ノ爲メニ公  
布ヲ作り佛國人民ノ愛國心ヲ扇動シテ國用ヲ給セシメントセシ其文ニ云ヘ  
ルアリ  
租税ヲ納ル、ハ國家人民ノ義務ニシテ其得ル所ノ利益ニ拂フ償補代價ナリ  
云々租税ハ公安ヲ買フ爲メニ人民カ各前拂ヲナス者ニシテ一般公衆ノ爲メ  
ニ各人一個ニ徴課スル者ナリ云々  
此解ハ未タ精明ニシテ盡セリト云フヘカラスト雖亦以テ迷誤ノ意ヲ見ハセ  
ルモノニシテ前世後世ノ理論家ノ義解ト同一視スヘキモノニアラサルナリ  
今租税ノ義解ヲ見ルニ概シテ之ヲ三項ニ分ツ第一說ニ曰ク租税ハ政府ノ職  
務ト人民ノ義務ト相交換スル者ナリ第二說ニ曰ク租税ハ公安保護ノ請負料

ナリ第三説ニ曰ク租税ハ行政費及ヒ國家ノ資本ヲ改進スル一般ノ費用ナリト世ノ租税ノ義解ヲ下ス者概テ此三ノ者ヲ出サルナリ此三説ノ如キハ之ヲ論スルコト頗ル奇巧ナリト雖以テ盡セリト云ヒ難シ此三説ヲ集メテ一團トナスモ未タ以テ完全ノ義解ヲ與フルニ足ラス但第三説ノ如キハ近年ノ新解ニシテ陽ニ理學上ノ語氣ヲ粧フヲ以テ之ヲ執ル者頗ル多シ

第一説ニ租税ハ政府カ盡クス所ノ職務ニ任拂フ代價ナリト云フハ未タ適切ナリト云ヘカラスマダムクレマンソルワイヤ氏ハ此意ヲ述ヘテ左ノ解ヲ下タセリ

租税ハ人民カ社會ニアリテ現在過去將來ニ於テ受クヘキ者又前世カ後世ノ爲メニ消費セシ者ノ報トシテ世ニ任拂フヘキ者ニシテ勞力若クハ貨物ヲ以テ任拂フ所ノ一國生産ノ一部ナリ

マダムルワイヤ氏ノ言ハ少シク修飾ヲ免レスト雖租税ノ義解中最モ誤リ少ナキ者ノ一ト云ヘン如何トナレハ同氏ノ義解ハ他人カ未タ嘗テ説キ及ボササル所ニ及ボシ一國ノ租税ハ唯政府カ今日盡ス所ノ職務ニ任拂フノミニア

ラスンテ其幾分カハ國債元利ノ任拂ニ供スル者ナルヲ論スレハナリ方今開明諸國ノ民タル者カ租税ヲ拂フハ唯政府ノ盡ス所ニ報ユルノミニアラヌ又前世カ後世ノ爲メニ有益ノ事ヲナセシカ爲メニ報ユルノミニアラヌ今世若クハ前世ノ人カ失擧失敗シテ國民ノ負擔ヲ大ニスト雖亦之ヲ分擔セサルヘカラサルモノナリ元來政府ハ特ニ有益ノ事ノヨリ行ハス往々失擧ヲ免レサルモノナリ然リト雖政府ノ消費スル所ノ者ハ其當否ヲ問ハス悉皆永久ニ人民ヲシテ之ヲ負ハシムルヲ以テ各國ノ負債ハ其有益ニ費セシト否ラサルト合シテ巨大ノ額ニ達シ租税收入ノ過半ハ負債元利ノ任拂ニ用フル者比々皆然リ凡ソ政府ノ所業ハ國民ノ名ニ據テ之ヲナスモノニシテ國民ハ善惡共ニ其責任ヲ負ハサルヘカラス唯現世ノ人其責任ヲ負フノミナラス國家後世其餘慶餘殃ノ存スル者ハ之ヲ負ハサルヘカラサルヲ以テ祖先ノ負債ハ其費用ノ當否ヲ問ハス後世子孫其實ニ任スヘキ者ナリ是故ニ今世ハ前世ノ爲メニ租税ヲ拂ヒ後世ハ今世ノ爲メニ租税ヲ拂フハ當然ノコトナリ然ルヲ只租税ハ政府ノ盡ス所ニ報ユルモノナリト云ハ前世ノ負債ハ今世之ヲ負ハスンテ可

ナリ今世ノ負債ハ後世之ヲ拂ハサルモ可ナリト云ニ異ナラス現ニ此義解ニ相類スル所ノ議ヲ唱ヘテ國債ノ消却ヲ拒ミシ者少カラス亞米利加合衆國ニ於テ南北ノ亂定マルヤ或ハ以爲ラク戰亂中合衆國政府ニ於テ募集セシ負債ハ以テ國債トナスヘカラスト其說ニ曰ク該戰爭タルヤ徒ニ國家ヲ殘害セシニ過キサルモナリ何ソ其國家ヲ殘害スルニ消費セシ者ヲ以テ人民ニ負ハシメ其利子ヲ拂ハシムルノ理アラランヤト此說タルヤ信義ヲ守リ國民相維持スルノ主義ニ背戻スル者ト云ハサルヲ得ス斯ノ如キ弊アルヲ以テノ故ニ余輩ハ租税ノ義ヲ解シテ只政府ノ盡ス所ニ報エル所ノ者ナリト云フハ盡セリトナサ、ル所以ナリ

然リト雖若シ此義解ノ意ヲ以テ一方ニ偏セス一般ニ云フモノナリトセハ或ハ過チナキニ近カラシ即チ國民カ納ル、所ノ租税ハ其國ニ於テ各其得ル所ノ直接若クハ間接有形若クハ無形ノ利益ニ報スル所ノ者ニシテ政府現今ノ保護若クハ過去ノ恩惠ニ報スルノミナラス又政府カ漫然募集セシ公債ニシテ未タ嘗テ利益ヲ被ラサル者ト雖國民相持ノ義務トシテ其利子ヲ拂フモノ

ナリトノ意ヲ含有スルモノトシ想シテ之ヲ見レハ不可ナル所ナカラシ又政府ノ措置其當ヲ失ヒ租税ノ徵收苛嚴ニ過クルニアリト雖概シテ被稅者ハ之カ償補ヲ得ルヲハ其拂ヒシ所ノ金額ヨリ遙ニ大ナルヘシ是ヲ以テタトヒ自國ノ政府カ重歛ヲナスモ尙能ク之ヲ忍ヒ外國ニ移住スル者ハ實ニ寡々指ヲ屈スルノ數ニ過キサルナリ然ラハ則チ政府ノ徵收ハ重シト雖尙其盡ス所ニ報エル者ナリト稱スルモ可ナルヘシ然リト雖此點ヨリ之ヲ見テ租税ハ政府ノ盡ス所ニ報エルモノナリト云フ時ハ經濟理財ノ要理ニ背戻スルノ患アリ故ニ曰ク租税ハ常ニ政府ノ職務ト人民ノ義務ノ交換ナリト云フヲ得サルナリト

第二說ニ租税ヲ以テ公安保護ノ請負料ナリト云ハ第一說ニ比スレハ遙ニ及ハサルモノト云フヘシ該說ノ如キハ只政府ノ職務ヲ以テ憲兵ト見做スノ大過アルモノナリ抑政府ノ職務ハ決シテ人民ヲ護衛スルニ止マル者ニアラス見ヨ歐洲各國政府ノ經費ハ其人民保護ニ關スル所ノ者實ニ全經費ノ一小部分ナルヲ方今佛國政府ノ經費中憲兵監獄都鄙ノ警察裁判所ノ費用ニ關スル者ハ僅ニ全額二十分ノ一ニ過キス假令ヒ之ニ海陸軍費ヲ加フルモ尙全額三

分ノ一ニ過キサルナリ而シテ海陸軍ノ事タル一ニハ國威ヲ擴張シ國名ヲ維持スルニアリテ專ラ治安ヲ保護スルニアラサル者ナリ是故ニ租稅ヲ以テ公安保護ノ請負料ナリト稱スル時ハ其區域甚々狹隘ニシテ租稅ノ意ヲ盡スニ足ラス若シ果シテ此義解ヲ以テ租稅ノ真意トセハ政府ハ有形上無形上ニ於テ一切國家ノ進歩改良ニ費ヤス所ノ者ヲ以テ人民ニ賦課スルヲ能ハスシテ通信教育會社等ノ事ヲ獎勵庇保スルヲ得サルヘシ

茲ニ又租稅ヲ以テ公安保護ノ請負料トナスハ當然ナラサルノ一理アリ夫レ保險會社ハ政府ノ外一切請負ヲ委賴シタル財產ノ損失ヲ請負フ者ニシテ火災海難凶年傳染病ノ爲メニ不動產船舶收穫家畜ヲ失フカ如キ天災ニ會スルニ當テ各人一個ノ爲メニ其損失ヲ償フ者ナリ然ルニ政府ハ假令ヒ火災海難洪水戰亂アリト雖被害者ノ爲メニ敢テ償フヲナカルヘシ偶之ヲナスモ些少ノ金額ニシテ只救助ノ爲メニスルニ過キサルナリ政府カ請負フ所ノ者ハ人民ノ權理ニシテ各人民ヲシテ他人ノ爲メニ害セラレサラシムルニアリ天災ニ遭フテ財產ヲ失ヒ若クハ他人ノ爲メニ害セラルト雖政府ハ之ヲ償フ者ニ

アラス若シ警察ノ政調ハスシテ盜賊暴行シ人民ノ財產ヲ奪フコトアレハ政府ハ此賊ヲ搜索追捕スヘシト雖既ニ其物品ヲ消費セシ後ナレハ政府ハ敢テ賊ノ爲メニ此損失ヲ償ハサルヘシ

由是觀之ハ政府ハ決シテ保險會社ノ職ヲナスモノニアラス租稅ハ決シテ公安保護ノ請負料ニアラサルナリ假令ヒ其語氣ヲ加減シテ租稅ハ保安ノ勞ニ報ユル者ナリト云フノ意ナリトナスモ未タ以テ之ヲ完全ナル義解ト云フヲ得サルヘシ如何トナレハ政府ノナス所ノ者ハ只保安ニ止マラス加之ナラス租稅ハ只前世今世ニ於テ政府カ國民ノ爲メニスル所ノ者ニ報ユルニ止ラスシテ國民相維持スルノ主義ニ據リ政府一切ノ費用ニ給スル者ナレハナリ

第三說ニ租稅ハ行政費及ヒ國家ノ資本ヲ改進スル一般ノ費用ナリト云ハ頗ル奇巧ナル義解ト云フヘシ此義解ハメニ一エヤ氏ノ說ニ成ル者トス氏ハ輒近歐洲ノ財政法ノ改正ニ與リ力アリシ者ニシテ租稅ハ專ラ資本ニ課スヘシトノ議ヲ唱ヘシ者ナリ(千八百七十四年巴里刊行メニ一エヤ氏ノ「テオリ」エ、アップカシヨン、デラムボ、スル、レカピタル」ヲ見ルヘシ)此說タルヤ遙ニ前二

説ニ優ルモノト云フヘシ然リト雖若シ行政費一般ノ費用國家ノ資本ト云ヘ  
ル語意ヲ取テ廣ク見サレハ以テ當レリト云ヒ難シ此義解タル租税ハ政府カ  
有形無形ノ職務ヲ盡ス爲メニ用フル所ノ經費ニ給スル者ナルヲ説キ他ノ費  
用ニ及ホサス然ルニ租税ノ用ヒラル、所ノモノハ決シテ此ニ止ラス必ス他  
ノ費用ノ存スルアリ唯現今ニ於テ是等ノ費用ノ存スルノミナラス將來ニ於  
テモ常ニ存スヘキナリ然ルヲ將來ニ於テハ人民學テ正良聰慧ナルヘキヲ以  
テ政府モ事ヲ行フ慎重方正ナルヘシト信スルハ思ハサルノ甚シキ者ト云フ  
ヘシ凡ソ政府ノ費用ハ其消費ノ當否ニ關セス國民タル者其實ニ任セサルヘ  
カラス假令ヒ政府カ自己ノ不明ナルカ若クハ隣國ノ失舉ニ誘ハレ誤テ國家  
ノ資本ノ改進トナラサル所ノ經費ヲ要スト雖國民ハ租税ヲ納レテ其費ニ給  
セサルノ理ナカルヘシ然ラハ則チ此義解タルヤ已ニ論セシ所ノ國債ノ償却  
及ヒ國際ノ軍費モ亦國民ノ負擔スル所ナルヲ問ハサルモノナリ  
斯ノ如ク世租税ノ義解ヲ下タス者概シテ此三項ニ歸スト雖皆未タ完備トナ  
スヲ得ス租税ハ只ニ職務ト義務ノ交換ニアラサルナリ租税ヲ以テ保險ノ請

負料ナリト稱スルハ甚タカナク却テ益非ナリ租税ヲ以テ保安ノ勞ニ報ユル  
者ナリト云フ時ハ政府ノ責任及ヒ人民ノ義務ノ一部分ニ止マル又租税ハ行  
政費及ヒ國家ノ資本ヲ改進スル一般ノ經費ナリトナスモ尙只其一部ヲ説キ  
政治上社會上實際ノ形情ヲ忽セニスル者ト云フヘシ然ラハ則チ租税ノ義解  
ハ如何シテ可ナランカ曰ク  
租税ハ政府一切ノ費用ニ給スルカ爲メニ國民ニ賦課徴收スル者ナリ  
租税ノ義解ヲ以テ片言ニシテ盡サント欲セハ右ニ如クハナシ然リト雖若シ  
此義解ヲ以テ簡易平凡ニ過クルトセハ左ノ義解ヲ用フヘシ  
租税ハ政府カ今日ニ盡シ若クハ往年ニ盡セシ所ノ職務ニ報ユル者ナリ加  
之ナラス國民相維持スルノ主義ニヨリ政府ニ係ル一切ノ經費ハ其當否善  
惡ヲ問ハス國民タル者カ負擔セサルヘカラサル者ヲ云フ  
次テ余輩ハ租税ハ善ナルモノカ不善ナルモノカヲ講究セン凡ソ租税ヲ以テ  
善ナリト云ヒ不善ナリト云フハ只ニ理論ヲ以テ決スヘキモノニアラス其事  
實如何ニ據テ決スヘキモノナリ

租税ハ國民ノ歳入ヲ減シ爲メニ人民ノ快樂ヲ殺キ若クハ營業資本ノ増加ヲ抑制スル者ナリト云ノ點ヨリシテ之ヲ見レハ租税ハ不善ナリト云フヲ得ヘク之ニ反シテ租税ヲ以テ道路海港等ヲ築ク時ハ一般人民ノ爲メニ營業ノ便ヲ開キ大ニ國家ノ利ヲ起ス者ナリト云ノ點ヨリシテ之ヲ見レハ租税ハ善ナリト云フヲ得ヘシ由是觀之ハ理論ヲ以テ斷然租税ハ善ナリ或ハ不善ナリト定ムル能ハサルカ如シ只其場合ニ據テ租税ノ効驗ヲ檢究シ果シテ社會ヲ困ムルヤ將タ其富ヲ増加スルヤヲ見テ其善不善ヲ定ムヘシ是故ニ國ノ生産ヲ盛ニスヘキ事業營ヘハ人民若クハ會社等カ私ニ企テ及フヘカラサル工事ノ如キニ租税ヲ費用スル時ハ租税ハ善ナリ之ニ反シテ租税ヲ以テ不生産無益ノ費用ニ給スル時ハ租税ハ不善ナリト云フヘキナリ第一ノ場合ニ於テハ租税ハ善ナリト云フト雖果シテ某ノ事業ハ國家ノ生産ヲ盛ニスヘキヤ否ヤハ常ニ疑ヲ免レサルヘシ如何トナレハ古今ノ經歷ニ見ルニ政府ノナス所ハ往々輕舉ノ失ヲ免カレサレハナリ

世或ハ租税ノ理ヲ推究セス猥リニ偏見ヲ以テ斷シテ曰ク租税ハ常ニ善ナリ

假令ヒ常ニ善ナラサルモ決シテ不善ナルコトナシト其說ニアリ一ニ曰ク租税ハ一度之ヲ出スト雖再ヒ被稅者ニ復シ遂ニ幸福ヲ與フル者ナリ二ニ曰ク租税ハ人民ノ勤儉努力ヲ強ヒ若クハ之ヲ獎勵スルノ効アリト世尙此說ヲ固守スル者アリ其言ニ曰ク第十八紀ノ末ニ當テ亞米利加ノ戰第十九紀ノ始メニ於テ佛蘭西ノ戰ナクンハ千八百二十年ノ比ヒニ當リ英國ノ富何ヲ以テカ能ク斯ノ如キヲ得ンヤト請フ此二說ヲ論究セン

第一說ハ最モ是ニ似テ最モ非ナリ第二說ニ至テハ少シク其實ナキニ非スト雖言ヲ飾ルル其實ニ過キ却テ大過ヲ免レサル者ト云フヘシ

租税ハ假令ヒ直接ニ之ヲ拂ヒン者ノ手ニ復セスト雖其國民中ニ落ル者ナリト云フ所ノ說ニ曰ク政府ノ費用ハ悉ク俸給若クハ勞銀ニ供スルモノナリ凡ソ人民カ政府ニ納ル、所ノ貨幣ハ役員ノ俸給ニ宛テ若クハ直接ニハ勞銀トシ間接ニハ製造家及ヒ商賈ノ物品ヲ買ヒ勞力者ノ仕拂ニ供スルヲ以テ尙所有主ニ拂ヒ戻スト云フヘシ是故ニ租税ハ一人ニ取ルモ之ニ均キ額ヲ以テ他ノ一人ニ拂ヒ戻ストヲ得ヘキ者ニシテ即チ被稅者ニ取ル者ハ政府ノ役員勞

力者物品ヲ政府ニ賣ル所ノ製造家若クハ債主ナル資本家ノ得ル所トナルト  
 假リニ斯ノ如ク論スル所ノ者ヲ以テ眞ナリト見做スモ之ニ據テ租税ハ決シ  
 テ不善ナル者ニアラスト云フコトヲ得サルナリ如何トナレハ被稅者ハ政府ノ  
 役員勞力者物品ヲ政府ニ賣ル所ノ製造家若クハ商賈及ヒ資本家ヲ利センカ  
 爲メニ損害ヲ被ルヘケレハナリ故ニ若シ租税ノ徵收額行政費及ヒ國價元利  
 ノ償却ニ要スル高ニ超ユルコトアレハ被稅者ハ不平ヲ訴フルモ妨ケナカルヘ  
 シ然ルヲ實際ニ於テハ被稅者及ヒ政府ノ役員政府ニ物品ヲ賣ル所ノ製造家  
 債主ナル資本家ハ同一體ノ人民ナリトセンカ誤レルノ甚シキ者ト云フヘシ  
 ハミルトン氏ハ該説ヲ駁シテ曰ク租税ヲ課シテ得ル所ノ貨幣ハ再ヒ之ヲ納  
 レシ者ニ拂フヲ以テ被稅者ニ於テ損失ナカルヘシト云ハ一賊ヲ捕ヘテ其白  
 狀ヲ聽クニ某商ノ金若干ヲ竊メリ然レトモ後此金ヲ以テ同シ商店ニ於テ物  
 品ヲ買ヘリト云フ故ニ其所爲ノ罪スヘキナキヲ以テ之ヲ赦サント云フト何  
 ソ異ナラント奇巧ニシテ片言能ク其意ヲ盡ス者ト云フヘシ  
 被稅者カ租税ヲ納レテ得ル所ノ償補ハ行政上若クハ租税ヲ以テ起セル有益

ノ工事ニ過キサルナリ若シ徒ニ役員ノ數ヲ増シ若クハ其俸給ヲ増シ又外面  
 ヲ修飾スル工事ノ爲メニ無益ノ費用ヲ増シテ租税ヲ増加セハ被稅者ハ其拂  
 フ所ニ對シテ充分ノ償補ヲ得サルヤ明ニシテ人民ニアリテハ不平ヲ訴フル  
 ノ理アリマクラツク氏ノ言ニ曰ク政府ノ經費ヲ減シテ租税ヲ減スルハ被稅  
 者ニアリテハ尙必需品ノ價下落シテ利ヲ公衆ニ與フルカ如キノ利アリト實  
 ニ名言ト云フヘシ然レトモ此利タルヤ費用節減ノ爲メニ政府ノ職務ヲ缺カ  
 ス若クハ之カ爲メニ有益ノ工事等ヲ妨ケサル時ニ於テノミ存スル者ト知ル  
 ヘシ

止ヲ得サルノ場合ニアラストシテ徒ニ役員ノ數若クハ其俸給ヲ増シ又利益疑  
 ナキ者ニアラストシテ政府ノ工事ニ多數ノ勞力者ヲ使用シ或ハ製造家ニ物品  
 製造ヲ命スルカ爲メニスル所ノ租税ハ國家ノ富及ヒ人民ノ幸福ノ發達ヲ妨  
 グヘシ若シ濫リニ無用ノ經費ニ人民ノ膏血ヲ絞ラス此資本ヲシテ被稅者ノ  
 手ニ存セシメハ人民ハ自ラ之ヲ以テ製造家商賈或ハ農民ノ物品ヲ買ヒ以テ  
 勞力者及ヒ營業者ニ仕拂ヒ或ハ新ニ工業ヲ起シ或ハ土地ヲ改良スヘシ其使



用ノ方法如何ヲ問ハス政府ノ費費ヲ省キテ人民ノ自ラ之ヲ用フルニ任セハ其効驗ハ必ス政府ノ自ラ之ヲ消費スルニ勝リ國民各自ノ幸福ヲ増シ一般人民ノ爲メニ利スルヲ蓋シ疑ヲ容レサルナリ元來租稅ノ收入餘リアル時ハ役員ノ數從テ増加スルノ弊アリ凡ソ役員ノ多キニ過ルハ決シテ好ミスヘキ者ニアラス如何トナレハ役員ナル者ハ給ヲ人民ノ膏血ニ仰ク者ニシテ農工商三民ノ食客ナレハナリ是故ニ役員多キニ過クル時ハ徒ニ一般ノ費用ヲ増シ人民ヲ苦シムルニ過キサルナリ

此ニ於テカ租稅ハ一旦人民ヨリ徵收スト雖後ニハ俸給トシ勞銀トシ物品買上代トシ國債ノ元利仕拂トシテ人民ニ配賦セラルヘキヲ以テ被稅者ヲ害スル者ニアラサルナリトナスノ迷妄タルヤ明ナルヘシ

アダム、スミス氏ハ千六百八十八年ノ亂ニ依リ巨額ノ軍費ヲ要シ英國ノ租稅増加セシヲ論シテ云ヘルアリ若シ英國ノ資本ヲ以テ軍費ノ一方ニ投スルノ不幸ナク國民ノ手ニ存スルヲ得セシメハ蓋シ其一大部分ハ有益ノ事業ニ用ヒラレ家屋ヲ建築シ荒蕪ヲ開拓シ既耕ノ地ヲ改良シ製造ヲ盛ニシ農工一般

ノ生産年ニ進ミ英國ノ富政府ノ歲入ヲ増加シ大利ヲ後世ニ遺セシナルヘシト此有名ナル經濟家ノ言タル只ニ英國ノ場合ニ於ケルノミナラス租稅ヲ徵課シテ無益ノ消費ニ供スル時ハ常ニ此嘆ヲ免レサルヘシ

然ルニ或ハ以爲ラクアダム、スミス氏ノ言タル過實ノ誹ヲ免レサルナリ如何トナレハ當時軍費ニ供セシ者ヲシテ人民ノ手ニ存セシムルモ人民ハ未タ必シモ全額ヲ以テ國家資本ノ増加ニ用ヒサルヘシ只ニ全額ヲ用ヒサルノミナラス其大半ハ無用ニ消費セラレシナルヘシト其言理ナキニアラス然ルニ又曰ク後日ノ實況ヨリシテ推シテ之ヲ見ルニ當時若シ英國ノ租稅斯ノ如ク重カラサルモ人民ノ勤儉ヲ盛ニシ國家ノ資本ヲ増加スルニ足ラサリシヤ明カナリトマククラツク氏ハ深ク之ヲ信シテ辨スルヲ力メリ嗚呼此說タルヤ亦偏見ヲ免レサル者ト云フヘキナリ

此說ヤ租稅ハ被稅者ヲシテ止ヲ得ス勤儉ナラシムヘシ假令ヒ勤儉ヲ強ヒサルモ多少勤儉ヲ獎勵スル者ナリトスルノ說由テ起ル所以ナリ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ該說タル多少理ナキニアラスト雖租稅ニシテ此好結果ヲ生スルハ

徵課重キニ過キヌ又之ヲ漸次ニ行フ時ニ於テノミ然リ  
 マクラツク氏ノ言ハ大ニスミス氏ノ言ニ反セリ曰ク千六百八十八年ノ亂ナ  
 カリセハ當時軍費ニ供セシ所ノ資本ノ大半ハ決シテ生セサリシナルヘシス  
 ミス氏ハ租稅増課ノ國民ニ於ケルハ尙各人一個ニ於テ家族増加シ或ハ必要  
 費額擴張セルト均キ勢力アルヲ遺忘セリト云フヘシ千七百九十三年ノ戰爭  
 ニ當テ租稅増加シ上下共ニ其重斂ヲ覺エ却テ國民ノ勉強心ヲ鼓舞シ進取ノ  
 氣ヲ獎勵シ新奇ヲ發明スルノ望ヲ振起セリ若シ國民ヲシテ重課ニ堪エサラ  
 シメハ此効驗ナカリシヤ疑ヲ容レサルナリ然ルニ當時ノ徵收ハ幸ニシテ人  
 民ノ全力ヲ倒スニ至ラヌ其稅ヤ重シト雖努力セハ以テ家産ヲ増加スルニ足  
 レリ之ヲ以テ却テ國民ノ節儉勉強ヲ作興スルノ功ヲ致セリ元來人ノ性タル  
 期望ニ據テ鼓舞セラルト雖亦恐懼ニ據テ振起ス租稅ノ如キハ則チ恐懼ニ據  
 テ人心ヲ起スモノト云フヘシ凡ソ社會ノ上位ニ立ンコトヲ欲スルノ心ハ衆庶  
 皆一ナリ之ヲ以テ租稅ノ徵收増加スル時ハ外ニシテハ現時ノ地位ヲ保ツ能  
 ハサルノ恐レアリ内ニシテハ衣食住ノ安逸今日ノ如クナル能ハサルノ恐レ

アリ此二者アルヲ以テ租稅ノ増加ハ時トシテ民ノ勉強心ヲ振起スルノ効驗  
 ヲ生ス若シ亞米利加ノ亂佛蘭西ノ戰ナクンハ英國人民ノ勤儉勉強未タ嘗テ  
 スノ如ク盛ナラサルヘシ如何トナレハ之ヲナサスシテ可ナルヲ以テナリ然  
 ラハ則チ公平無私ノ心ヲ以テ之ヲ見レハ租稅増課ノ功能ク勉強勤儉ヲ勵マ  
 シ其得ル所ハ失フ所ノ軍費ヲ償フニ餘リアリ假令ヒ是等ノ戰亂ナカラシム  
 ルモ英國資本ノ増加ハ蓋シ今日ニ過クル能ハサルヘキナリ(マクラツク氏ノ  
 「オンタキセーシヨンアンドゼフオンジグシステム」第十一葉)

マクラツク氏ノ言ニ曰ク是レ即チ「オプチヨスト」凡ソ天下ノ事必ス善ニ歸ス  
 ヘシト期望スル者之ヲ「オプチヨスト」ト云フノ説ニシテウオルシル氏ノ所謂  
 ル勤勞ハ以テ能ク百難ニ勝ツ者ナリ凡ソ人ノ體力腦力ハ止ヲ得サルニ奮フ  
 モノニシテ租稅ハ即チ止ヲ得サル者ノ一ナリ之ヲ以テ亦能ク人民ノ勉強勤  
 儉ヲ盛ニスルノ効アリト  
 マクラツク氏ハ結末ニ於テカヲ用フルニ過キ一方ニ偏スルノ愚ヲ免レスト  
 雖概シテ其説タルヤ恕スヘキ者ナリ假令ヒ第十八紀ノ戰ナカラシムルモア

ダム、スミス氏ノ言ヘルカ如ク軍費トシテ徴收セシ租税ノ全額ハ未タ必シモ貯蓄シテ國家資本ノ増加ヲ助ケサルヘシ然リト雖マクラツク氏ノ言ノ如ク假令ヒ此戰亂ナカラシムルモ英國ノ資本ハ敢テ實際其千八百十五年ニ於ケルヨリ大ナラサルヘシト云フハ又當レリト云フヘカラス如何トナレハ戰亂租税ノ功ハ能ク勤儉勉強ヲ鼓舞スルヲ知テ資本ノ發達ヲ妨クルノ實アルヲ顧ミサレハナリ蓋シマクラツク氏ハ佛國トノ戰半ハナルニ當テ製造ノ業殊ニ紡績ノ業大ニ發達セシヲ見テ此迷誤ヲ生セシナルヘシ然リト雖余輩ヲ以テ之ヲ見レハ若シ是等ノ戰亂ナカラシメハ歐洲ノ繁榮ハ蓋シ三十年ノ前ニ於テ已ニ千八百七十年ノ域ニ達スヘカリシナリ然ルニマクラツク氏ハ他ノ章ニ於テハ之ヲ論スルコト斯ノ如ク嚴急ナラス曰ク余輩ハ須ラク意ヲ該説ノ過大ナルニ注キ某ノ場合ト形情ニ於テ此事アルヲ以テ概シテ常ニ此事アリト思惟スヘカラス凡ソ人民ノ賦課ヲ増シ勤勞節儉進取ノ氣ヲ發達スルハ徐々トシテ之ヲ施コシ漸々トシテ之ヲ行フニアリ決シテ急舉暴行國民ヲシテ其重キニ堪ヘス産ヲ傾ケ家ヲ破ルノ甚シキニ至

ラシムヘカラス夫レ人ノ堪ユヘシトスル所ノ艱難ハ敢テ之ニ屈セス益精神ヲ勵マシ辛苦ヲ厭ハス千思萬考之ニ勝タンコト力ムヘシト雖到底忍フヘキノ望ナキ艱難ハ初ヨリ氣ヲ失ヒ敢テ之ニ當ルヲ欲セサルハ人ノ常情ナリ租税ノ賦課非常ニ重キ時ハ以テ民ノ勤勞ヲ獎勵スルニ足ラス初ヨリ之ヲ避ケンコト力ムヘシ孰レノ國地方ヲ問ハス租税ノ賦課非常ニ重ク勤勞節儉ヲ盡スモ能ク之ヲ納ル、能ハサルニ至レハ國民ハ却テ此勤勞節儉ヲ力メスシテ營業退歩シ國勢振ハサルニ至ル古人云ハスヤ壓制ハ能ク人ヲシテ英雄タラシメ又能ク奴隸タラシムト租税ノ事タル亦然リ其徵課ノ法ニ據テ能ク人民ノ勤勞ヲ勵マシ進取ノ氣ヲ盛ニシ以テ富ヲ致サシムヘク又能ク懶惰無氣貧困ニ陥ラシムヘシ云々

余輩カ其長文ヲ厭ハス今此ニマクラツク氏ノ言ヲ舉クル者ハ租税ノ要理ヲ論スルコト奇巧ニシテ幾許ノ眞理ナキニアラスト雖概シテ過實ノ弊ヲ免レサルヲ示サント欲スレハナリ假令ヒ租税ノ増課甚シキニ至ラサレハ人民ノ體力腦力ヲ鼓舞スルノ功アルニモセヨ其消費一國ノ爲メニセサル時ハ之ヲ以

テ無害ノ者トナスヘカラス斯ノ如クシテ人民ノ勤勞ヲ増加スルハ決シテ得策ニアラサルナリ夫レ人生ハ常ニ艱難トシテ體力精神ヲ勞スルヲ好マス靜修逸樂ヲ欲スルハ人情ノ常ナリ然ラハ則チ止ヲ得サルニ非スシテ人民ノ體カト精神ノ勞ヲ増加セント欲スルハ不可ナリ假令ヒ歐洲大陸戰亂ノ爲メニ租稅ヲ増加シ英國人民ハ其勤儉ヲ増シ却テ農工百科ノ發達ヲ致セリトナスモ其成績ハ敢テ好ム所ニアラサルナリ何トナレハ其此ニ至リシハ多少人民ノ逸樂ヲ剝奪セシヲ以テナリ

加フルニ租稅重キニ過クルノ害實ニ爭フヘカラサルモノアリ凡ソ租稅重ケレハ不正ノ事殆ト必ス起ル租稅重ケレハ其國ノ地位ヲシテ他ノ勉勵ナル國ニ及ハサラシム租稅ノ重キハ一國ノ資本ヲ外國ニ逐ヒ又人民ヲ外國ニ移スノ勢アリ或ハ以爲ラク第十七紀ノ末以來荷蘭ノ衰頹ハ租稅ノ重キニ據ル國民カ資本ヲ外國ニ置クノ風ヲ養成セシハ内地ノ租稅重ク爲メニ利益ノ割合ヲ減セシニ由ルト南北ノ戰アリテヨリ合衆國ノ租稅増加シ其弊害擧テ云フヘカラサルモノアリ千八百七十一年以後俄國ニ於テモ數種ノ工業大ニ殘害

セラレ外國ニ於テ製造所ヲ起スニ至リシハ爭フヘカラサルノ事實ナリ由是觀之ハ理論ニ於テモ實際ニ於テモ重斂ノ制ヲ以テ可トスル能ハサルナリ然リト雖余輩ハ世間ノ經濟家カ往々唱フル所ノ最良ノ租稅ハ常ニ最輕ノ租稅ニアリト云フノ說ニ左袒スル者ニアラス元來其國ノ形情ト場合ニ由リ租稅ハ實ニ最良ナル仕拂法ナリ之ヲ名トシテ往々國民ヲ苦ムル者アリト雖租稅ハ被稅者ニ直接ノ利ヲ與ヘサル脅迫貯蓄ノ一良法タルヲ得ヘシ若シ一國ノ租稅重カラズ徵收宜キヲ得保護稅ヲ以テ内國ノ營業ヲ妨ケス被稅者ニ煩勞ヲ與ヘス賦課正平ナレハ假令ヒ租稅ヲ減シ現時ノ政務ニ妨ケナキモ減稅ノ事ハ敢テ政府ノ利ニアラス却テ必シク之ヲ増加シ以テ有益ナル工事ヲ起シ若クハ教育ヲ盛ニスルニ利アリ世或ハ曰ク假令ヒ租稅輕フシテ餘裕ヲ民ニ與フルヲアルモ國民ノ負擔ハ力メテ輕キヲ要ス政府ハ濫リニ工事教育ニ關涉シテ人民ノ負擔ヲ増スヘカラスト曰ク然リ人民自ラ之ヲ爲シテ其成績能ク政府ノ所爲ニ讓ラサレハ何ソ必シモ求メテ國民ノ負擔ヲ重フセン然リト雖之ヲ實地ノ經歷ニ見ルニ鐵道ノ如キ掘割ノ如キ堤防ノ如キ築港ノ

如キ展現存ノ營業者ヲ害シ又費用ノ巨大ナル支出ノ利子ヲ償フニ足ラズト雖一般ノ公益ヲ致スヤ大ニシテ其得能ク失ヲ償フニ足ル者少カラズ斯ノ如キ事業ニ至テハ其利益常ニ直接ナラス其收入ニ至テモ其費用ヲ償フニ足ラサルモノナリ然ルニ鐵道ノ如キ小ナリト雖能ク巨大ノ利ヲ與フルモノアリ譬ヘハ小距離ノ鐵道ヲ連絡シテ諸方ニ相通セハ能ク生産輸出ノ路ヲ開キ物品ヲ遠キニ輸ス者近キニ送ル者皆共ニ大利ヲ被ルヘシ故ニ其利ノ及フ所ハ廣ク且ツ大ナリト雖其得ル所ハ遠ク且ツ間接ニシテ其利ヲ一時ニ見サルヲ以テ此輩ヲシテ鐵道建築ニ資本ヲ出サシムルヲ得サルナリ由是觀之ハ掘割海港道路時トシテハ鐵道ノ如キ事業ニ至テハ一般ノ公益タルヤ大ナリト雖各人一個ノ利ノ爲メニ起ス能ハサル所ノ者ハ政府之ニ從事スルモ可ナリ古人言ヘルアリ租稅ハ最モ有益ナル仕拂法ナリト之カ爲メニ弊害ヲ生セシ者少カラズ歐洲諸國ニ於テハ方今ニ至ルマテ往々租稅ヲ徵收シ其大半ハ經濟上社會上ニ於テ無益ノ費用ニ供セシヲ以テ租稅ハ決シテ有益ナル仕拂法ニアラスト云フモ妨ケナカルヘシ既往ヨリシテ之ヲ見レハ此言ヲ奇貨トシ

テ國民ヲ苦メシ者少カラスト雖又行政ノ宜キヲ得タル者ハ租稅ヲ以テ公益ニ給シ有益ナル仕拂法ノ名ヲ全フセシ者ナキニ非ス元來租稅ハ國家ノ集合貯蓄ノ一種タルヘク又一種タラサルヘカラス各人各戸ニ其富ヲ増サント欲シテ節儉ヲ行フト行ハサルトニ關セス政府カ人民ノ爲メニ集合貯蓄ノ意ヲ以テ租稅ヲ課シ之ヲ以テ國民ノ公有財產ヲ大ニスルハ敢テ不可トナスヘカラス若シ之ヲ以テ道路掘割海港學校ノ如キ人カヲ以テ國家ノ富ヲ増スヘキノ具ヲ盛ニセハ大ニ一般開明ノ進歩ニ補ヒアルヘシ抑開明國ノ野蠻國ニ異ナル所以ノモノヲ求メハ其公益ノ事業ニ於テ開明國ノ開明國タル所ヲ見シテ其事業ニ至テハ國民ノ集合貯蓄ニ成ルモノニシテ即チ租稅ニ出ルモノナリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ租稅ハ未タ必シモ不善ニアラス亦以テ善ナルヲ得ヘシ然ラハ則チ最良ノ租稅ハ最輕ノ租稅ニアリト言フハ豈ニ過大ノ言ニアラスヤ此說タル往時ノ濫費ヲ矯メント欲シテ却テ一方ニ偏スル者ト云フヘシ然リト雖租稅ノ賦課ハ宜ク國民所得ノ一小部分ニ止マルヘシ然ラサレハ社

會ニ一種ノ均富主義ヲ起スヘク各人一個ノ勤勞ヲ抑制スヘク已ニ論セシカ  
 如ク國家ノ資本人民ヲ外國ニ逐フニ至ラン  
 租稅徵課ノ程度ハ豫メ理論ヲ以テ定ムルヲ得ヘキヤ請フ之ヲ論セン  
 論者或ハ此ニ程度ヲ定ムルヲ得ヘシトナスカ如シ其言ニ曰ク租稅ニ最低點  
 アリ最高點アリ最低點トハ行政上ニ於テ欠クヘカラサル額是ナリ之ニ反シ  
 テ最高點トハ人民若クハ會社カ之ヲ行フニ難ンスル所ノモノニシテ政府カ  
 之ヲナスニ易キ百般有益ノ事業ヲ起スニ要用ナル總額是ナリト(ウイーギユ  
 氏ノ「トレイター」デ、サンボ、アン、フランス」第二卷八葉ヲ見ルヘシ)  
 此說タル奇巧ナリト雖不幸ニシテ實地ニ迂濶ナリ論者ハ何等ノ事務ヲ以テ  
 行政上ニ欠ク可ラサル者トナスカ余輩ハ之ヲ定ムルニ苦ムナリ凡ソ八種ヲ  
 異ニシ氣候ヲ異ニシ開明ノ度ヲ異ニセハ行政ノ事務モ亦異ナラサルヘカラ  
 ス即チ匈牙利ノ魯西亞ニ於ケル魯西亞ノ墾地利若クハ以太利ニ於ケル以太  
 利ノ佛蘭西若クハ日耳曼ニ於ルカ如キ是ナリ凡ソ政府カ國家ノ人民衆庶ノ  
 財產ヲ保佑スルヤ過不及ナキ能ハス東西必ス法ヲ異ニシ南北必ス式ヲ同フ

セサルナリ願ミテ最高點ヲ見レハ何等ノ事業果シテ人民カ之ヲ行フニ難ク  
 政府之ヲナスニ易キモノナルヤ亦均ク之ヲ知り易カラサルナリ然ラハ則チ  
 此說タル奇巧ハ則チ奇巧ナリト雖以テ之ヲ用ヒント欲セハ曖昧模糊トシテ  
 未タ從フ所ヲ知ラサルナリ  
 凡ソ國民ノ歲入ト租稅ノ至當額トノ間ニ比例ヲ定ムルハ常ニ臆測ヲ免レサ  
 ルモノナリ夫レ世ノ經濟家或ハ財政家ハ往々銀行紙幣ノ發行高ト準備金ノ  
 間ニ一定ノ比例ヲ見ントヨカメリト雖某銀行ハ其準備ヨリ四倍若クハ五倍  
 ノ紙幣ヲ流通シ某銀行ノ準備ハ流通紙幣ノ半ニ過クル者アリテ實際之カー  
 定ノ比例ヲ立ルコトヲ得サルナリ  
 豫メ理論ヲ以テ是等ノ比例ヲ定ムルハ決シテ動カスヘカラサルノ要理タル  
 能ハスト雖幾許カ以テ正路ヲ示スニ足リ其益ナキニアラス即チ銀行ノ準備  
 金流通紙幣ノ三分一ニ達セサル者ハ其位地危シトス然リト雖銀行ノ準備金  
 流通紙幣ノ半ニ至ルモ敢テ萬全ノ位地ニアリト云フヲ得ス如何トナレハ銀  
 行ノ安危ハ取扱フ所ノ手形ノ性質信用ノ大小廣狹外國貿易ノ形狀爲換ノ順

逆等ニ在レハナリ

余以爲ラク租税徵課ノ程度ハ實地ノ經歷ヨリシテ其最低點ト最高點トヲ定  
ムルヲ得ヘシト然レトモ是等ノ定點ハ確定不動ノモノニアラス只之ニ近  
キ者ノミ請フ之ヲ陳セン

凡ソ人民各負擔スル所ノ租税ハ國稅地方稅協議費ヲ合セテ其歲入ノ五分ヲ  
過キサル時ハ之ヲ至當ノ稅ト云フヘシ一國ノ公債大ナラス平治無事ノ日ニ  
アリテハ其賦課宜ク之ニ過クヘカラス租税ノ徵賦國民歲入ノ一割乃至一割  
二分ヲ超エサル時ハ尙以テ之ニ堪ユヘシ之ヲ過レハ重キニ過ク假令ヒ國民  
能ク其賦課ニ堪ユルモ國家ノ富ノ進歩ハ必ス遲滯ヲ免レサルヘシ又斯ノ如  
ク租税重ケレハ徵收從テ綿密ニシテ國民其煩シキニ堪エス營業ノ自由及ヒ  
國民ノ自由ニ至ルマテ多少妨害ヲ被ルヘキナリ

白耳義英吉利佛蘭西三國ノ租税ヲ見ルニ一ハ輕ク一ハ重ク一ハ其中間ニア  
リ請フ各其形狀ヲ述ヘン

白耳義國ノ租税ハ其國稅地方稅協議費ヲ合セテ國民ノ歲入總額ノ五分ヲ過

クルヲ多カラサルカ如シ千八百七十四年ノ豫算ヲ見ルニ白耳義政府ノ歲入  
ハ實ニ二億二千九百六十四萬三千フランクナリ千八百七十五年刊行アンニ  
ユエーヤ、デ、レコノミ、ボリチーク、エ、デ、ラ、スタチヌチーク四百七葉然ルニ其  
八千四百五十萬フランクハ鐵道ヨリ收入セシ者ナルヲ以テ歲入ヨリ此額ヲ  
減セサルヘカラス是等ノ鐵道若シ政府ニ屬セスシテ人民ノ會社ニ屬スル時  
ハ此八千四百五十萬フランクハ人民カ租税ヲ以テ補ハサルヘカラサルモノ  
ナリ然ルニ白耳義政府ハ鐵道ノ辦理宜キヲ得爲メニ巨額ノ租税ヲ減セリ然  
レトモ今一步ヲ退テ其全額八千四百萬フランクヲ減セス其四分ノ三即チ六  
千三百萬フランクヲ減セハ政府カ租税ノ性質ヲ以テ收入セシモノハ凡ソ一  
億六千六百萬フランクナルヘシ又郵便電信ヨリ收入スル所ノモノハ政府カ  
利ヲ公衆ニ與ヘテ得ル所ノ代價ト見做スモ妨ケナシ殊ニ白耳義ノ如ク稅率  
輕キ國ニ於テハ是故ニ此二項ヨリ收入セシ所ノ者一千萬フランクヲ減スル  
時ハ白耳義政府カ租税ノ性質ヲ以テ收入セシ所ノ高僅ニ一億五千六百萬フ  
ランクナリ白耳義ニ於テハ入市稅ヲ廢シテ關稅葡萄酒稅蒸酒稅麥酒稅砂糖

税、郵便税ノ一部ヲ以テ市府ニ給シ千八百七十四年ニ於テ此六税ノ收入高ヨリ市府ニ給セシ者ハ實ニ二千八百八十八萬四千フランクナリ(此額ハ一億五千六百萬ノ外トナス)尙州郡市府ノ歳入ハ數種ノ財源アリ其重ナル者ヲ直税ノ副税及ヒ臨時ノ特別税トナス中央政府ノ直税收入高ハ殆ト四千萬フランクニ近シ州郡及ヒ市府ニ於テ之カ副税ヨリ得ル所ハ中央政府ノ直税ヨリ多キモ少カラサルヘシ試ニ他ノ副税ヲ合セテ六千萬フランクヲ得ルトセハ州郡及ヒ市府ノ租税ハ大凡八千二百萬フランクトナル之ヲ以テ中央政府ノ歳入一億五千六百萬フランク(政府ノ鐵道利益ノ凡ソ四分ノ三郵便電信ノ收入ハ政府ノ營業利益トシテ之ヲ除キ)ニ合ス時ハ白耳義ノ租税收入高ハ國稅地方稅協議費ヲ合セテ二億三千八百萬フランクニ過キサルナリ白耳義ノ人口ハ凡ソ五百萬幅員三百萬エクタールナルヲ以テ之ヲ見レハ其疆域ハ佛國ノ十七分ノ一人口ハ其九分ノ一ナリ然ルニ佛國ノ租税ハ平均一人ニ付凡ソ八十六フランクナリト雖白耳義ノ租税ハ一人ニ付平均僅ニ四十八フランクニ過キス思フニ白耳義國民一歳ノ收入ハ四十億フランクヲ下ラサルヘシ然ラハ

則チ二億三千八百萬フランクノ租税ハ凡ソ國民歳入ノ六分ニ當ルモノニシテ頗ル輕税ト稱スヘキナリ之ヲ歐洲全國ニ求ムルニ此ノ如ク租税ノ輕キ者ヲ見サルヘシ

英國ハ一大富國ニシテクライミヤノ役ヲ除キ六十年以來大戰ト稱スヘキ者ナク第十九紀ノ初ヨリ漸次國債ヲ減却シ國稅ノ徵收甚々重カラス然ルニ之ニ反シテ州郡市邑宗邑ノ租税ハ頗ル重シ千八百七十三年度ノ會計豫算ニ於テ國稅收入高ハ十九億二千八百萬フランク餘ニ上レリ(電信建設ノ爲メニ募集セシ公債八十萬ポンドナルヲ以テ之ヲ減除スレハ英國當年ノ國稅收入高ハ七千六百五十三萬五千ポンドナリ二十五フランク二十サンチムヲ以テ一ポンドニ均シトスレハ十九億二千八百萬フランク餘トナル)郵便稅電信料ハ眞ノ租税ニアラス只ニ政府ノ手数料ナルヲ以テ郵便稅一億五千萬フランク(電信料三千萬フランク)ヲ減除セサルヘカラス加フルニ王地ノ收入一千萬フランクヲ減スレハ國稅ノ收入高ハ十七億三千八百萬フランクトナル又地方ノ收入ハ公債募集地方所有ノ財産中央政府ノ補助金ヲ除キ直税間稅ヲ合



セテ千八百七十一年ニ於テハ六億六千六百萬フランクナリ(二千六百四十四萬四千百三十六ポンド)千八百五十九年ヨリ千八百七十三年ニ至ル迄十五年間英國統計年表ニ據ル由是觀之ハ全英國ノ國稅地方稅協議費ハ合セテ二十四億四百萬フランクトナル願テ全英國人民ノ歲入ヲ見ルニ千八百七十二年ニ於テ被稅ノ歲入總額八百二十一億五千四百萬フランク(四億八千二百三十三萬八千三百十七ポンド)ト稱ス此數タル其實際ニ及ハサルヤ疑ヲ容レサルナリ凡ソ人民ノ歲入ニ稅ヲ課スル時ハ人民ハ其歲入ノ全額ヲ告ケス其三分ノ二若クハ四分ノ三ヲ告クルハ通慣ナリ故ニ政府ニ於テ被稅歲入ノ額ト稱スル者ハ決シテ實數ニアラサルナリ今假リニ英國人民ハ其歲入ノ實額五分ノ四ヲ申告セリトセハ所得稅ヲ拂フヘキ歲入ノ總額八百五十億フランクニ下ラサルヘシ元來英國ニ於テ所得稅ヲ課スルハ人民ノ歲入二千五百フランク以上ヲ有スル者トス然レトモ實際ニ於テハ蓋シ所得稅ヲ出ス者三千フランク若クハ三千五百フランク以上ノ歲入ヲ有スル者ニシテ勞力者小農夫小商ノ如キハ悉ク所得稅ヲ免ルヘシ是等ノ免稅者ハ所得稅ヲ拂フ者ヨリ多キ

一七倍若クハ八倍ヲ下ラサルヘシ是等ノ歲入モ亦凡ソ百五十億フランクナルヘシ然ラハ則チ全英國人民ノ歲入ハ凡ソ三百億フランクナリ中央政府地方政府ノ租稅收入高ヲ以テ之ニ比スレハ英國ノ租稅ハ國民歲入ノ凡ソ八分トナル之ヲ以テ白耳義ノ租稅ニ比スレハ重シト雖佛國ニ比スレハ頗ル輕シト云フヘシ

千八百七十七年佛國政府ノ豫算收入額ハ概數二十六億七千二百萬フランクナリ然レトモ右ノ收入額ハ官有地官工官林等ノ收入五千二百萬フランク官祿稅千八百萬フランクアルザエリエンソシエテ一ヨリ借入レタル公債三百五十萬フランクヲモ算入セシモノナリ是等ノ收入ハ實ニ租稅ニアラヌ加フルニ烟草及ヒ火藥ノ粗生品買上代並ニ製造費六千三百萬フランクハ政府ノ特別費ニシテ此費用ニ給スル者ハ國民ノ收納スル租稅ト云ヒ難シ如何トナレハ假令ヒ政府ニ於テ烟草火藥ノ稅ヲ廢シ該物品ノ製造ヲ自由ナラシムルモ之ヲ消費スル者ハ常ニ其價ヲ製造者ニ拂ハサルヘカラサレハナリ故ニ收入總額ヨリ此一億三千六百五十萬フランクヲ減スレハ政府ノ租稅收入ノ

高ハ概數二十五億三千五百萬フランクトナル尙郵便稅電信料八千六百萬フランクハ租稅ノ性質ヲ有スル者ニアラス又大學校ノ收入四百五十萬フランクアルヂエリ一國ノ貢租二千四百五十萬フランクハ政府ノ歳入ニ合算スト雖一ハ政府ノ收入ニアラス一ハ佛國人民ノ納稅ニアラサルヲ以テ之ヲ減除セハ佛國人民カ負擔スル租稅ノ高ハ千八百七十七年ニ於テ二十四億二千百萬フランクナリ

願ミテ州郡市府ノ租稅ヲ見ルニ總計甚々精密ナラスシテ完全ナル計算ヲ得ル能ハス千八百七十七年ニ於テ州郡市府ノ直稅特別直稅中央政府ノ特別收入州郡ノ臨時收入ヲ合シテ三億九千萬フランクトナル然ルニ其凡ソ二千五百萬フランクハ公債募集高若クハ中央政府ノ補助金中央政府ノ補助金ハ已ニ中央政府ノ收入高ニ算入セリナルヲ以テ之ヲ減除スレハ三億六千五百萬フランクトナル市府ノ收入ハ重ニ入市稅其他數種ノ雜稅トス佛國總計表ニ據レハ千八百七十二年ニ於テ入市稅ヲ課スル市府ノ數千五百八收入高一億九千九百五十萬フランクナリト云フ此以後ニ於テハ未タ完備ノ數ヲ得ス

官報ニ據レハ入市稅ノ外百般ノ租稅ヨリ收入セル者千八百七十一年ニ於テ巴里府ノ歳入ハ三千七百萬フランクニ下ラス其他ノ市府ハ合セテ一億千七百五十萬フランクニ上レリ

是等ノ租稅ハ犬稅、銃獵稅、市場稅、屠場稅、荷庫稅、葬式稅、營業馬車稅、道路費、點燈費、掃除費等ナリ是等ノ稅ニ對シテハ政府ヨリ直接ニ特別ノ報酬ヲ得ヘキ者アルハ論ヲ待タサルナリ

若シ州郡市府ノ直稅間稅ヲ合計セハ公債ヲ募テ收入セシ者地方所有ノ財産ヨリ收入セシ者ヲ除キ凡ソ七億二千萬フランクトナル尙眞ニ租稅ノ性質ヲ有セサル者二千萬フランクヲ減除セハ佛國地方稅ノ全收入高ハ七億フランクニシテ英國ノ地方稅ニ過キタリ由是觀之ハ佛國ノ州郡市邑ノ公債ハ英國ヨリ大ニシテ市府ノ收入ハ消費稅ノ法ヲ以テ巨額ノ歳入ヲ得ルヲ英國ノ該法ヲ行ハサル者ヨリ容易ナルヤ明ナリ

佛國人民カ負擔スル所ノ者ハ國稅凡ソ二十四億二千百萬フランク地方稅七億フランク合セテ三十一億二千百萬フランクナリ然リト雖佛國人民ノ歳入

ニ至テハ其タ之ヲ知ルニ苦ム元來佛國ニ於テハ租稅ヲ以テ人民ノ歲入ニ課スルノ制ナシ只不動產稅アリテ少シク推量ノ助トナルノミ今佛國ノ行情ヲ以テ英國ニ比スレハ佛國ノ人口ハ英國ノ人口ヨリ多キヲ四百萬佛國ノ幅員ハ英國ヨリ大ナルヲ五分ノ二大工業ハ英國ニ及ハサルモ農夫ノ富ハ英國ノ企テ及フ所ニアラズ英國人民ノ富ハ一方ニ偏スト雖佛國人民ノ富ハ普ク一般ニ及フ是等ノ情狀ヲ相比較シ英國人民ノ歲入三百億フランクナルヲ以テ之ヲ見レハ佛國人民ノ歲入ハ凡ソ二百五十億フランクナリト云フモ敢テ大過ナカルヘシ二百五十億フランクノ歲入ニ課スルニ三十一億二千百萬フランクノ稅ヲ以テセハ佛國ノ租稅ハ國民歲入ノ一割二分五厘ニシテ人々ノ歲入ノ凡ソ八分ノ一ハ租稅トシテ徵收セラル、者ト云フヘシ方今ハ尙能ク斯ノ如キ重稅ニ堪エト雖今日ノ勢ニシテ租稅ノ賦課年ニ増加セハ久シカラズシテ民將ニ其弊ニ堪エサラントス若シ佛國人民ノ勤勞貯蓄減縮セズ資本外地ニ移ラサルヲ欲セハ今日ノ賦課ヲ減セサルヘカラス假令ヒ之ヲ減セサルモ決シテ之ヲ

増加スヘカラス若シ佛國人民ノ負擔三十一億二千百萬フランクニ止ラハ佛國ノ富ハ年ニ數百萬ヲ増加スルヲ以テ負擔ノ割合ハ年ニ減少スヘキナリ佛國ニ於テ人民ノ貯蓄金ノ銀行ニ入ル者年々凡ソ百二十億フランクナリ其他土地ノ改良ニ用ヒ諸營業若クハ動產ニ入ル、者モ亦敢テ此額ヲ下ラサルヘシ

斯ノ如ク三國租稅ノ行情ヲ比較スレハ各輕重アリ白耳義ハ國民歲入ノ六分ニ當リ英吉利ハ其八分佛蘭西最モ重フシテ一割二分ニ過キ各薄歛ト稱スヘキモノナシト雖又敢テ其重キニ堪エサルモノナシ只佛蘭西ノ一國ハ殆ト最高ノ點ニ達シ若シ新ニ租稅ヲ増サハ國ノ經濟ニ於テ危害ヲ免レサラントス已ニ論セシカ如ク凡ソ一國ノ施政宜キヲ得ル者ニシテ國債ヲ負フノ不幸ナケレハ其租稅ハ國民歲入ノ五分ニ過クヘカラス然ルニ又徵課輕キニ過キ四分以下ニ至ルト雖敢テ國家ノ大利ニ非サルナリ如何トナレハ政府ハ常ニ有形上無形上ニ於テ社會ノ公益ニ力ヲ盡スヲアリ加フルニ四分ノ徵賦ハ人民ニアリテモ之ヲ負フ易ク敢テ國家ノ諸營業貿易ヲ妨クルニ至ラサレハナ

リ五分ヨリ九分若クハ一割ニ至ルノ間ハ敢テ大ニ人民ヲ苦ムルニ至ラヌ一割以上ニ至テハ租税甚々重ク人民ヲ壓抑困苦セシムルノ患ヲ免レス一割五分若クハ一割六分ヲ過ギハ大ニ人民ニ害アリ國民資本ヲ外國ニ逐ヒ殆ト回復スヘカラサルニ至ルヘン方今以太利ノ租税ハ殆ト極點ニ達シ大ニ社會ヲ亂ル只ニ社會ヲ亂ルノミナラス税法モ亦從テ亂レ私曲奸計從テ起リ其弊遂ニ云フヘカラサルニ至レリ

租稅論

第二篇

租稅總論 比例稅及累進稅

前篇ニ於テ租稅ノ程度ハ理論ヲ以テ豫定スヘキモノニアラスト雖實地ノ經驗ヲ斟酌シ大凡ソ最低點最高點ノアル處ヲ論セリ次テ本篇ニ於テハ專ラ租稅徵課法ノ得失ヲ講究セントス

余輩ハ租稅ノ義解ヲ論スルニ當テ租稅ハ政府ノ費用トシテ國民之ヲ給スル者ナリ而シテ政府ノ費用トハ只ニ行政費ニ止ラスシテ國債元利ノ仕拂ニ供スル者モ亦政府ノ費用ナルヲ説ケリ此意ヲ推シテ之ヲ見レハ理論上ニ於テハ國民カ各自ニ負フ處ノ租稅ハ各政府ヨリ受ル所ノ利益ノ多少公債ヲ負擔スヘキ責任ノ輕重ニ應シテ必ス平均セサルヘカラサルカ如シ

元來租稅ニ特別稅ノ制アリ特別稅トハ中央政府地方廳郡區役所等ニ於テ公衆ノ爲メニ盡ス所ノ費用トシテ直接ニ人民カ之ヲ拂フモノヲ云フ方今開明諸國ニ於テハ該制ヲ行フ者少カラス俄國ニ於テハ郵便稅巴里府ノ掃除費ノ

如キ即チ是レ特別税ナリ第十九紀ノ初ニ當リ佛國ニ於テ道路税トシテ浴道ノ民若クハ道路ヲ使用スル者ヨリ直接ニ租税ヲ拂フノ制アリ近年セーオン州ノ一知事(後大藏卿ニ任セラレシ者)ハ該制ヲ以テ市府ノ諸税ヲ徵收センコトヲ謀レリ該制ノ最モ發達セシ者ヲ英國トナス英國ノ郡市邑宗邑ノ直税ハ過半特別税ノ制ニ據ル其實際ニ於ケルハ未ダ必シモ悉ク特別税ナラサルモ其名ニ於テハ特別税ニシテ該税ヨリ生スル所ノ利益ヲ受クヘキ者ニ課スルヲ法トス故ニ英國ノ市邑ニ於テハ點燈鋪石費下水費水道費博物館費(在院費)警察費ノ目アリ又普通費ヲ設ケテ特別税ナキ費用若クハ諸特別税ノ不足ヲ補フモノトス宗邑ハ郡市邑ノ小部分(余カ)ヲトミニストラシヨン、ロカル、アン、フランス、エ、アン、アングルテール及ヒフェイスコ氏フハンデーヤ、ストレーテン氏ノレ、タキス、ロカル、アン、アングルテール、アン、エーコス、エ、アン、イルランドヲ參考スヘシニシテ又數種ノ税アリ即チ救貧費(特別税ノ最要ナル者)國道税等ノ如キ是ナリ州郡ハ鄉村ノ宗邑ノミヲ以テ成リ市邑ヲ包有セサル者ニシテ州郡税ノ外警察費等ノ特別税アリ然リト雖英國ニ於テ特別税ノ制ハ專ラ地方

ニ存スルモノニシテ中央政府ノ徵收ニ於テハ更ニ其跡ヲ見ス

嚴ニ特別税ノ意ヲ達セント欲スル時ハ每税各其使用ヲ別ニシ甲税ノ收入餘リアリテ乙税ノ收入足ラサルモ甲乙相流用スヘカラス故ニ特別税ノ弊タルヤ會計ノ法頗ル繞密トナリ施政上ニ於テ無數ノ困難ヲ免レサルニ至ルニアリ若シ特別税ヲシテ眞ニ名實相適ハシメント欲セハ一税毎ニ別ニ局ヲ置キ役員ヲ異ニシテ事務ノ處分ヲナサ、ル可ラス萬一數種ノ租税ノ處分ヲ合セテ之ヲ一局ニ任スル時ハ甲費ノ爲メニ課セル租税ノ收入足ラス乙費ノ爲メニ課シタル租税ニ餘リアレハ乙税ノ收入ヲ以テ甲税ノ欠ヲ補ヒ相流用スルノ弊ヲ免レサルヘシ故ニ英國ノ宗邑ニ於テハ事務取扱ノ局數多アリ各相獨立シテ事務ノ處分ヲナス即チ道路檢察掛點燈檢察掛寺院事務掛埋葬委員ノ如キ皆各特別ノ税ヲ課シテ事務ノ處分ヲ異ニス

特別税ノ制ヲシテ完全ナラシメント欲セハ尙一ノ欠クヘカラサルモノアリ則チ百般ノ租税ニ各別ニ税率ヲ定メ被稅者カ得ル所ノ利益ト其拂フ所ノ租税ト相比例シテ不公平ノ事ナカルヘシ元來特別税ヲ行フ時ハ每税別ニ税率

ヲ定ムルヲ法トス殊ニ英國ノ宗邑ニ於テハ此事大ニ行ハレタリ然ルニ英國今日ノ勢ヲ見ルニ特別税率ノ法日ニ消滅シ數種ノ特別稅ハ大半皆救貧稅英國ノ救貧稅ハ地租ナリノ附屬タルニ過キスシテ尙佛國ニテ副稅ノ直稅ニ於ケルカ如キ者トナレリ是等ノ稅ニ至テハ國民モ亦其特別ニ拂フ所ノ者ハ果シテ其用ニ給セラレヤ否ヤヲ問ハサルニ至レリ故ニ英國ノ特別稅ハ多クハ只其名ヲ存スルノミ又特別稅ニアラサルナリト云フモ敢テ不可ナルナカルヘシ然リト雖英國ノ宗邑ニ於テ眞ノ特別稅ナキニアラス點燈費ノ如キハ純然タル特別稅ニシテ救貧稅ニ屬セズ別ニ稅率ヲ定メ現ニ家屋アル地ハ家屋ナキ地ニ三倍ノ稅ヲ課スルヲ法トス警察費モ亦特別稅ニシテ家屋ノ有無ヲ問ハスシテ課スルモノトス特別稅ノ制ハ理論上ヨリシテ之ヲ見レハ首尾相合フテ經濟學ノ眞理ニ適スルカ如シト雖之ヲ實際ニ施サント欲セハ計算ノ縝密ナル每稅稅率ヲ異ニスル過多ノ役員ヲ要スル賦課多クハ不公平ヲ免レサル一稅ノ收入ニ餘リアリテ一稅ノ收入足ラサル等其困難實ニ云フヘカラサルモノアリタトヘハ道路ノ爲メニ特別稅ヲ課スルニ偏重ノ患ナカラシメ

ント欲スルモ殆ト能クスヘカラス凡ソ特別稅ノ制ニ據リ道路費ヲ課スルニ二法アリ一ハ一切道路ニ關スル經費ヲ以テ浴道ノ地主ニ負擔セシムル一ハ專ラ其道路ヲ過クル諸車ニ課スルモノ是ナリ該法タルヤ孰レモ大不便ヲ免レサル者ニシテ被稅者ノ頗ル嫌厭スル所ナリマカウレ一氏ノ言ニ據レハ千六百八十八年以前英國ノ道路弊惡ニシテ通運不便ヲ極メタルハ一ニハ鄉村ナル宗邑ヲ經過スル所ノ道路修繕ハ宗邑ノ義務ナリシニ由ルト元來市府ハ鄉村ノ道路ヲ用ヒスト雖其道路ノ爲メニ得ル所ノ利益ハ敢テ鄉村ト異ナラサルモノナリ然ルニ豈ニ獨リ其修繕費ヲシテ鄉村ノ宗邑ニ負ハシムルノ理アラシヤ道路費トシテ往來ノ人民ニ徵課スルノ不便ナルハ照々トシテ論ヲ待タサルナリ

方今特別稅ノ制ハ日ニ消滅スルノ勢アリトス元來特別稅ノ性質タル決シテ國稅ニ行ハルヘキモノニアラス只郡區市邑ノ收入ニ用フルヲ得ヘキノミ凡ソ社會ノ形情進歩スレハ無形ノ事務必ス從テ増加シ特別稅ノ制ヲ行フヘカラサルニ至ルヘシ譬ヘハ海陸軍ノ如キ司法ノ如キ其他數多ノ事務アリ各之

カ爲メニ特別ノ稅率ヲ定メ特別稅ヲ行ハント欲スルモ豈ニ容易ナランヤ往古ハ裁判入費ナルモノ殊ノ外不當ニシテ訴訟人ノ困難トナレリ凡ソ開明社會ニ於テ司法ノ人民ニ盡ス所ノ者ハ只ニ訴訟人ノ爲メニアラス訴訟セサル者ト雖均ク其利ヲ被ムルモトス如何トナレハ司法ノ要ハ是非曲直ノ判決ニアラスシテ訴訟ナカラシムルニアレハナリ

英國ト雖方今ノ特別稅ハ只其名ト形トヲ存スルノミニシテ大半ハ救貧稅ト相混シ同事務官ノ手ニ任シテ處分セシムルニ至リシハ既ニ論スル所ノ如シ尙茲ニ一言スヘキモノアリ凡ソ人民カ負擔スル所ノ租稅ハ各其受ル所ノ利益ノ割合ニヨルノミナラス失政ノ責任並ニ其失政ヨリ生スル所ノ負債任拂ノ義務ノ割合ニ應スル者ナルハ已ニ論セシ所ノ如シ由是觀之ハ國民カ各負フ所ノ租稅ハ一ニハ政府ノ經費ヨリ得ル所ノ利益ノ割合ニヨリ一ニハ政府カ負債ヲ生セシ原因ノ責任ノ割合ニ據ラサルヘカラサルナリ

國民カ各負擔スヘキ失政ノ責任ハ幾許ナルヤヲ搜索シテ之ヲ證明スルハ決シテ能クシ得ヘキモノニアラス若シ之ヲ探究セント欲スル者アラハ徒ニ自

己ノ欲ニ誘導セラレ失政ノ責任ヲ以テ一ニ當時執政者ノ負フヘキモノトナシ其執政者ハ人民カ自ラ之ヲ任セシ者ナルヲ問ハスシテ遂ニ誤謬ヲ免レサル者アリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ全國一致シテ失政ノ責任ヲ負擔スルコト最モ當然ナルヘシ或ハ以爲ラク凡ソ國民トシテハ政府ヨリ利益ヲ被ルモ亦政府ノ失舉ヲ任スルモ各其歲入ノ多少ニ應スヘシ故ニ各其財力即チ歲入ニ應シテ租稅ヲ納レサルヘカラスト此說タルヤ只ニ臆測ノ見タルニ過キサルヤ明カナリト雖頗ル過ナキニ近カラシカ況ヤ佛國ノ如キ自治社會ニシテ國民各參政ノ權ヲ有スト雖富民ノ權力尙未タ盛ナラサルニ於テヤ

然ラハ則チ國民ノ財力ニ應シテ租稅ヲ納レシメント欲スルハ萬世一定ノ理ニアラス寧ロ公衆ノ意ナリト云フヘシ然リト雖實施上ニ於テハ頗ル當然ニシテ有益ナル輿論ト云フヘキナリ該意ニ從フ時ハ稅率定布ノ法ヲ簡ニシ種ヲ定ムルニ一定ノ基ヲ立ルヲ得ヘク財政上ノ良具ハ只之アルノミ國民ノ爲メニハ壓抑ヲ避ルノ城砦ナリト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ若シ人民

ノ財力ニ據ラスシテ租税ヲ課スル時ハ慮測ト不公平トヲ免レサルナリ。  
 本文ニ歳入ト云ハスシテ財力ト云フ者ハ其語タルヤ遠タリト雖寧ロ當  
 然ナルヲ覺ユレハナリ凡ソ租税ヲ歳入ニ課スルハ其歳入ノ性質如何ヲ問  
 ハス一般ニ同率ヲ以テスルモノニアラス常ニ確定セル歳入ニハ人ノ労働  
 ニヨリ生スル所ノ歳入即チ一時若クハ不定ノ歳入ニ課スルヨリ多カラサ  
 ル可ラス故ニ歳入ニ税ヲ課スルト云ヒ而シテ其性質ト不定ニヨリテ税  
 率ヲ異ニスヘキナリト云ハンヨリ却テ財力ト云ハ解シ易カルヘシ假令ヒ  
 人ノ労働ニヨリテ生スル所ノ歳入即チ一時若クハ不定ノ歳入ハ幾許カ税  
 率ヲ輕減セラルヘキノ理由アリト雖之ヲシテ全ク租税ヲ免レシムルヲ能  
 ハサルナリ然ラハ是等ノ歳入ハ一定ノ歳入税率ノ半ヲ課スレハ當然ナル  
 ヘシ

アダムスミス氏ハ租税ノ良制如何ヲ探究シ四條ノ定則ヲ置ケリ

第一 凡ソ國民タル者ハ可成丈ケ其財力ニ應シテ政府ノ費用ニ供給スヘシ  
 即チ各共有スル所ノ歳入ニ應シテ政府ニ支給スヘシ抑モ政府費用ノ一國人

民ニ於ケルハ尙一大財産取扱費ノ衆財主ニ於ケルカ如シ其財産所有主タル  
 者ハ各我所有高ニ應シテ費用ヲ給セサルヘカラス云々該説タルヤ前説ニ比  
 スレハ及ハサルヲ遠シト雖國民各租税ヲ拂フヘキノ原由ニ至リテハ論シ得  
 タル者ト云フヘシ

第二 國民ノ負フ所ノ租税ハ宜ク精確ナルヘシ決シテ粗略ナルヘカラス收  
 税ノ時節收税ノ方法收税ノ額ハ宜ク公明正大ニシテ被税者ハ勿論一般ノ人  
 民ヲシテ之ヲ知ルヲ得シムヘシ

第三 凡ソ租税徴收ノ方法若クハ徴收ノ時節ハ被税者ノ爲メ最モ便利ナリ  
 ト思フ方法若クハ時節ニ於テスヘシ

第四 凡ソ租税ヲ徴收スルニハ力メテ人民ノ出ス所ノ者ト政府ニ入ル所ノ  
 者ニ大差ナカラシムヘシ又人民カ之ヲ出シテヨリ政府ニ入ル迄ハ力メテ遠  
 カナラシムヘシ

是レ則チアダムスミス氏ノ四則ニシテ其三條ハ則チ租税ノ賦課徴收ニ關ス  
 ルモノニシテ實施上ノ則トス一ハ則チ租税ノ分配ニ關スルモノニシテ理論



上ノ則トス該條ハ往々世論ノ可否スル所ナリト雖余輩ハ今之ヲ可トセシヲ以テ之ヲ辨セサルヘカラス

世ノ累進税ノ説ヲ唱フル者ハ國民ノ財力ニ比例シテ租税ヲ課スルノ制【比例税】ヲ難シ世人往々該説ニ同フシ學者ヲ以テ自ラ任スル者ト雖亦之ニ同フシテ辨論スル者少ナカラス

抑モ累進税トハ如何ナル税法ナルヤ其據ル所ノ理論上ノ主義ハ如何ン實施上ノ効驗ハ如何ン請フ之ヲ講究セン

已ニ論セシカ如ク比例税ハ常ニ國民ノ歲入高ニ應シテ均一ニ徵課スルモノニシテ歲入ノ大小如何ヲ問ハサルナリ故ニ税率ニ變化ナク變換スル者ハ歲入ノミ然ルニ累進税ノ法タルヤ歲入高ノ大小ニ從テ税率ヲ異ニシ歲入ノ大ナル者ハ税率從テ重シ故ニ税率ハ歲入ノ増加ト共ニ増加スヘシ

或ハ云フ比例税ヲ以テ歲入ノ高ニ比例セシテ租税ヲ拂フ難易ニ比例スヘシ譬ヘハ年々一萬フランクノ歲入ヲ有スル者ニシテ一千フランクヲ拂フハ一千フランクノ歲入ヲ有シテ百フランクヲ拂フヨリ容易ナルヘシ故ニ若シ

一千フランクノ歲入ヲ有スル者ニ一割ノ税ヲ課セハ一萬フランクノ歲入ヲ有スル者ニハ一割五分乃至二割ヲ課スヘキナリト

該説タル豈ニ理ノ當然ナルモノナランヤ果シテ能ク之ヲ實際ニ行フヲ得ヘキカ能ク下民ノ負擔ヲ輕減シテ富民ヲ苦マシムルナキカ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ該説ヤ只ニ情論ニ過キサル者ニシテ敢テ理ノ據ルヘキ者ヲ見サルナリ

若シ累進ノ度ヲシテ小ナラシメンカ實際ニ於テ人民ノ爲メニ見ルヘキノ成績ヲ生セサルヘシ之ヲシテ大ナラシメンカ公衆ノ艱苦云フヘカラサルニ至ラン

元來前賢ノ説ヲ借リテ自己ノ説ヲ証スルハ道理ヲ推究シテ之ヲ証スルヨリ容易ナリ世間累進税ノ説ヲ唱フル者ハ往々前賢ノ言ヲ引証ス余輩ハ今累進税ヲ論究スルニ當テ先ツ該税ノ根據トスル所ノ者ヲ論スヘシ請フ先ツモンテスキューー氏ヨリ始メン氏嘗テアセンヌノ累進税ヲ論シテ曰ク

アセンヌノ租税ハ比例税ニアラスト雖公正ナリト云フヘシ其比例ヲ定ムルヤ均一ニ財產ニ應セスト雖家計ニ應シテ比例ヲ定メシモノナリ凡ソ國民產

業ノ度ニ三アリ必要適宜剩餘トナス必要ハ一般同一ニシテ貧富上下ノ別ナ  
 カルヘシ故ニ必要ニ税ヲ課スヘカラス適宜之ニ次ク故ニ税ヲ課スト雖剩餘  
 ヨリ少ナキヲ要ス剩餘ノ多少ニ應シテ税率ヲ定メハ剩餘ヲ防クヘシ云々  
 此言タル以テ人ヲ信服セシムルニ足ラス往古希臘ノ共和諸國ニ於テ政府カ  
 義務トセシ所ノ者ハ剩餘ヲ壓シカメテ人民ノ富ヲ平均スルニアリシハ昭々  
 トシテ歴史ニ明カナリ然ルニ方今社會ノ思考ハ大ニ之ニ反シ苟モ開明國ノ  
 議員タル者ハ政府ヲシテ擅ニ國民ノ剩餘ヲ絞吸セシムルヲ肯ンセサルナリ  
 若シ累進税ノ効驗ハ必ス國民ノ剩餘ヲ絞吸スルニ至ルヲ証明スルモノアラ  
 ハ實ニ累進税法ノ不幸ナルヘシ然レトモモンテスキュー氏カ國民ノ必要ニ  
 ハ決シテ租税ヲ課スヘカラスト云フニ至テハ余輩敢テ之ヲ捨ス是レ只ニ往  
 古ノ定説ノミニアラヌ今世モ尙唱フル所ノ者ナリ殊ニ日耳曼ノ學士等ハ之  
 ヲ唱ヘテ曰ク生存ノ最小點即チ必要ノ最小點ニ租税ヲ課スヘカラスト此言  
 タル實際ニ於テ頗ル不便ヲ免レサルニ似タリ彼ノ輩ハ何ヲ以テ生存ノ最小  
 點即チ必要ノ最小點トナスカ其意ヲ知ルヲ得サルナリ夫レ人生必要ノ最小

點ハ國ニ依テ異ナリ時代ニ依テ異ナリ決シテ萬世一定ナル者ニアラス加フ  
 ルニ佛國ノ如キ自治ノ國ニシテ上下皆國政ニ參與スルノ權ヲ有シ而シテ國  
 民ノ過半賦税ヲ免ル時ハ其不便實ニ言フヘカラサルニ至ラン  
 累進税ノ説ヲ唱フル者ハ又往々ゼアン、ヂヤツク、ルーン、氏、ベルナー、ダン、  
 サン、ビーヤ氏、コンドルセル、氏等ヲ引証ス然ルニ是等ハ皆文學士或ハ哲學士  
 ニシテ共ニ經濟ヲ談スヘキニアラス財政學士モンチオン氏ハ少シク累進税  
 ノ説ニ同フスル所アルカ如シ世或ハアダム、スミス氏ノ言ヲ舉テ氏ヲ以テ累  
 進税黨ニ加ヘント欲スルカ如シスミス氏ノ言ニ曰ク富民ヲシテ其歲入ノ比  
 例ノ餘ニ政府ノ費用ヲ補ハシムルモ敢テ大ニ不當ナリト云フ可ラスト此言  
 ヲ取テスミス氏ヲ以テ累進税ヲ唱フル者トナサント欲スルハ奇ト云フヘシ  
 氏ノ言タル只富民ヲシテ其割前ヨリ少シク多クヲ拂ハシムルモ大不當ト云  
 フヘカラスト云ニ過キスシテ敢テ別意アルニアラサルナリ何ヲ以テカ之ヲ  
 証セン曰クアダム、スミス氏ハ理論ニ拘泥セサルヲ以テ實際ニ於テ或ハ此事  
 アルモ敢テ深ク尤ムルニ足ラスト云ヒシニ過キス而シテ其自ラ置ケル定則

ト相背馳スルノ跡アルニ至リシハ不幸ト云フヘキナリ然ルニ到底氏ノ定則  
コソ其本意ノアル所トナサハルヘカラス其第一則ハ已ニ掲載セシ者ニシテ  
左ノ如シ

凡ソ國民タル者ハ可成丈ケ其財力ニ應シテ政府ノ費用ニ供給スヘシ即チ  
各其歳入ニ應シテ政府ニ支給スヘキナリ

是レ則チスミス氏ノ大主意ノアル所ナリ然ルニ之ヲ實施スルニ當テハ毫釐  
モ其理ニ反カサルヲ必セヌ富民ノ負擔ハ少シク貧民ヨリ重キモ計ラレス故  
ニ氏ハ萬一此事アルモ敢テ大不當ニアラスト云ヒシモノニシテ宜ク之ヲ行  
フヘシト云ヒシニアラサルナリ今日ノ如ク各國往々自治ノ政體ニ歸シ下民  
参政ノ權ヲ有シ富民ノ小數ナル常ニ抑壓ヲ免レサルノ勢アルヲ見ハスミス  
氏ハ蓋シ益之ヲ行フヘシト云ハサルヘシ

由是觀之ハアダム、スミス氏ハ決シテ累進稅黨ノ人ニアラサルナリ之ニ反シ  
テゼアン、バプチスト、ゼー氏コソ累進稅ノ説ヲ唱フル者ト云フヘシゼー氏ノ  
「グール、デコノミー、ボリチーク」ニ云フアリ

均一ニ比例稅ヲ課スレハ富者ニ輕ク貧民ニ重カラサルナキヲ得ンヤ今僅  
ニ一家ヲ養フニ足ル所ノ歳入ヲ得ル者ハ英邁ノ才識廣大ノ沃土巨額ノ資  
本ヲ有シテ任意ノ生活ヲ樂ムノミナラス又年々其財産ヲ増殖スル所ノ者  
ト同一ノ比例ヲ以テ租稅ヲ負擔スルノ理アラシヤ斯ノ如キ處分ヲ以テ豈  
ニ公平無偏ト云フヲ得ンヤ

ゼアン、バプチスト、ゼー氏カ累進稅ニ意アルハ「トレイ、テコノミー、ボリチ  
ーク」ニ於テ益明カナリ其言ニ曰ク一人若クハ一家ノ歳入僅ニ生ヲ送ルニ足  
ル時ハ以テ小ナリトス歳入ノ大ナル者モ尙大小數等アリ今其歳入ノ多少ニ  
從テ各其欲ヲ剝キ最少ナル者最小ノ欲ヲ緩クモ敢テ妨ケサルヘシ故ニ若シ  
各家ニ租稅ヲ賦スルニ歳入ノ小ナル者ハ其負擔ヲ輕フセント欲セハ宜ク同  
一ノ稅率ヲ以テセスシテ累進率ヲ用フヘシ譬ヘハ比例稅ヲ課シテ各歳入ノ  
十分一ヲ徵ストセハ一家三十萬フランクノ歳入ヲ有スル者ハ三萬フランクノ  
ヲ出スヲ以テ尙二十七萬フランクヲ餘ス一家ノ生計ニ一年二十七萬フラン  
クヲ有セハ敢テ人生ノ幸福ニ欠ク所ナカルヘシ之ニ反シテ三百フランクノ

歳入ヲ有スル者ハ僅ニ二百七十フランクヲ餘スノ理ナリ我佛國社會ノ形狀  
 ニテ豈二百七十フランクヲ以テ一年ノ生計ヲナスニ足ランヤ然ラハ則チ只  
 ニ同一ノ稅率ヲ以テ比例稅ヲ課スルノ公平ナラサルヤ明カナリ是レ蓋シア  
 ダムスミス氏ヲシテ富民ニ其歳入ノ比例外ニ政府ノ費用ヲ負擔セシムルモ  
 敢テ不當ニアラサルナリト云ハシメシ所以ナリ尙一步ヲ進メテ余ハ租稅ヲ  
 徵課スルニ公平ナル法ハ只累進稅ノ法アルノミト云ハン云々  
 該論タル實ニ奇怪トモ云フヘキモノニシテ其理ノ何處ニアルヲ知ラサルナ  
 リゼー氏ノ例ニ據テ一家ハ三十萬フランク一家ハ三百フランクノ歳入ヲ得  
 ルトナシ三百フランクノ歳入ヲ得ル者ハ全ク租稅ヲ免シ三十萬フランクヲ  
 得ル者ニ歳入ノ半ヲ課セハ累進稅モ亦重シト云フヘシ然レトモ佛國社會ノ  
 形狀ニ於テハ三百フランクヲ全有スルモ豈一年ノ生ヲ送ルニ足ランヤ然ル  
 ニ三十萬フランクヲ得ル者ハ其歳入ノ半ヲ出スモ尙十五萬フランクヲ餘ス  
 ヘシ之ヲ有セハ又人世ノ幸福ニ欠ク所ナカルヘシ此理ヲ以テ之ヲ推セハ累  
 進稅ハ剩餘ヲ壓抑スルニアラサレハ止マサルヘクシテモンテスキュー氏ノ

説ト何ソ異ナラン萬一政府タル者ノ義務ハ富者ヲ壓シテ貧民ヲ起シ國民ノ  
 貧富ヲ平均スルニアリトセハ宜ク累進稅ヲ行フヘシ余輩ハ再ヒ云ハン累進  
 稅ノ説タル只ニ情論ニ過キサルモノニシテ條理アルニアラス又實驗ヨリ起  
 ルモノニアラサルナリト其條理ナク又實驗ニ起ルニアラサルハ次ヲ逐テ之  
 ヲ論スヘシト雖先ツ累進稅論者ノ説ヲ講究シテ然ル後之ニ及ハントス  
 或ハロツン氏ノ言ヲ借リテ累進稅ノ防禦トナサント欲ス氏ノ言ニ曰ク  
 累進稅ハ制限アレハ可ナリ制限ナケレハ國ノ資本ヲ殘滅スルノ恐レアリ  
 或ハ曰クレオン、フォーシエル氏ハナポレオン第三世ノ大統領タルニ當リ大  
 臣ニ列シ累進稅法ヲ以テ一般ニ動產稅ヲ布カンヲ論セシニマクラツク氏  
 ハ敢テ深ク該法ヲ駁セサルニ似タリトフォーシエル氏ノ計畫ハ歳入ヲ分チ  
 テ三級トシ大ハ中ヨリ多ク中ハ小ヨリ多ク累進ノ法ニヨリ租稅ヲ課スヘシ  
 トナリ然ルニ今茲ニ其得失ヲ講究スルハ錯雜ノ患ヲ免レサルヘシ故ニ余輩  
 ハ篇末ニ於テ租稅ノ累進稅ニ似テ而シテ非ナル者ヲ論シフォーシエル氏ノ  
 計畫モ亦純然タル累進稅ニアラサルヲ辨セン

或ハ以爲ラクスチユーアルト、ミル氏モ亦斷然累進税比例税ノ可否ヲ定ムル能ハサルカ如シト余輩ヲ以テ之ヲ見レハ更ニ氏ノ狐疑アルヲ見サルナリ氏ノ言ニ曰ク

思フニ一般ノ租税ニ累進ノ法ヲ以テ金額ノ多少ニ應シテ税率ヲ異ニスルハ不可ナリト雖遺物遺産ノ税ニ於テ之ヲ行フハ至當ニシテ宜キヲ得タル者ナルヘシ

夫レ遺產税ノ事タル税ヲ歳入ニ課スルト毫釐ノ關係ナク全ク相獨立スルモノナリ歳入ニ税ヲ課スルニ至テハスチユーアルト、ミル氏ハ純然タル比例税黨ノ人ナリ只氏ハ生計費ノ最小額ハ租税ヲ免除スヘシト云ヒシノミ

其言ニ曰ク國民ノ負擔ハ平等ナルヘキノ定則ヲ論セシヲ以テ次テ歳入ニ均一ノ税率ヲ課スル時ハ果シテ平等ナルヤ否ヤヲ論究セン衆人ハ必ス云ハン小額ノ歳入ヨリ十分一ヲ出スハ巨大ノ歳入ヨリ十分一ヲ出スヨリ難カルヘシ然ラハ則チ均一ノ税率ヲ課スルヲ以テ豈ニ平等ト云フヲ得ンヤト是レ累進税即チ歳入ノ多少ニ從テ税率ヲ増減スル所ノ歳入税說ノ據テ起ル所以ナ

リ余熟之ヲ考フルニ累進税ノ說ニ多少ノ理アル者ハ重ニ富者ハ無用ノ消費ヲ省テ租税ヲ出スヘク貧民ハ小額ノ税モ尙日用ノ供給ヲ減スルニ至ルヘシト云フニアルカ如シ其不平均ヲ加減スルノ方法ハペンサム氏ノ計畫最モ其當ヲ得タル者ト云フヘシ其法國民生活ノ最小費幾許ト定メ其以下ノ歳入ヲ有スル者ハ税ヲ除シ其餘ノ歳入ニ税ヲ課スル者トス譬ヘハ一ケ年五十「ポンド」ノ金額ハ一家數口ヲ養フニ足り敢テ衣食住ニ事ヲ欠カス健康ヲ害スルニ至ラスト雖又安逸ヲ縱ニスル能ハサル者ナレハ之ヲ以テ最小費ト定メ之ニ超ユル者ハ其超越高ニ税ヲ課スヘシ若シ税率ヲ一割トセハ六十「ポンド」ノ歳入ハ純歳入十「ポンド」トシ一ケ年一「ポンド」ヲ課シ十「ポンド」ノ歳入ハ其九百五十「ポンド」ニ課スヘシ然ル時ハ貧富一定ノ税率ヲ拂フト雖歳入ノ全額ニ賦課スルニアラスシテ其剩餘ニ賦課スル者ナリ

生活ノ最小費ヲ除クノ說ト相異ナルヤ明カナリ生活ノ最小費ヲ免税スルニ當リテ其最小費ヲ定ムルニ或ハ臆測ヲ免レサルヘシト雖其他ニ於テハ毫モ臆測ヲ以テ處スル者ナシ累進税ニ至テハ終始一トシテ臆測ナ

ラサルハナシ如何トナレハ累進一階毎ニ何ニ本キテ税率ヲ定ムヘキカ只一ノ杜撰ノ外他ナカルヘシ

ウイリアウメー氏チヨセフ、ガ―ニエヤ氏モ亦累進税ヲ唱フル者ナリ殊ニガ―ニエヤ氏ハ累進法ノ短處ヲ調理シ大ニ之ヲ擴張センコトヲ力メリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レバガ―ニエヤ氏ノ銳意勤勞モ遂ニ至當無害一定ノ税法ヲ發見シテ比例税ヲ壓スル能ハサルニ似タリ

チヨセフ、ガ―ニエヤ氏ハ遂ニ迷誤ヲ免レサル者ニシテ其言フ所ハ毫モ眞理ニ適フモノヲ見ス氏ハブルードン氏ヲ引証スト雖余輩ハブルードン氏ハ果シテ累進税ヲ唱フル者タルヤ否ヤヲ知ルニ苦シムナリブルードン氏ハ千八百四十八年ニ於テ委員總會ノ一人ニシテ當時累進税ヲ行ハンコトヲ論セリ又氏ノ租税論ニ於テ家屋ノ如キ遺物ニ累進税ヲ課センコトヲ論セリ而シテ他ノ篇ニ於テハ大ニ累進税ヲ駁シ稱シテ兒戲財政或ハ偽善ナリト云フニ至ル其言ニ曰ク何ノ時ニカ累進ノ避處ヲ以テ公衆ヲ弄スルコト止マント此言タル實ニ至當痛快ト云フヘシ凡ソ累進法ヲ行フニ二様アリ一ヲ急進トシ一ヲ漸進

トス累進ノ度急ナレハ則チ歳入ノ小差ニ別ナシ漸ナレハ則チ所謂兒戲財政ニシテ遊戯ヲ以テ公衆ヲ弄スルモノナリ如何トナレハ累進漸ナレハ巨額ノ歳入ヲ有スル者少ナク加フルニ詐偽行ハレ易フシテ政府ニ收入スル所ノ者小ナルヘケレハナリ斯ノ如クナル時ハ蓋シ人民ノ欲ヲ満足セシムヘシト雖政府ノ費用ニ供スルニ足ラス大ニ下民ノ負擔ヲ減スヘシト雖大ニ經濟ノ理ニ背離スル者ト云フヘシ

斯ノ如ク諸大家ノ累進税ヲ唱フル者ヲ見ルニ只ニ情論ノ一偏ニ過キス毫モ憑據スル所ナシ豈ニ亦怪ト云ハサルヘケンヤ余輩ハ茲ニ諸説ヲ枚舉セシヲ以テ次テ其迷妄ヲ論究セン

抑モ政府ハ租税ヲ徵スルニ國民一般負擔ノ難易ヲ平等ニシ毫末ノ差ナカラシメサルヘカラサルノ理ハ何處ニアリヤ租税ヲ賦課スルニ當リ國民ヲシテ其受ル所ノ恩惠保護ノ多少ト公債ヲ負擔スル義務ノ大小ニ據テ拂ハシムヘカラストハ果シテ何ノ理ソヤ何商ニモアレ商賈カ同質同量ノ物品ヲ賣ルニ買手ノ貧富ニ應シテ估價ヲ請求シ富者ニハ貴ク貧者ニハ低ク賣ラント欲セ

ハ世人果シテ之ヲ何トカ云ハンヤ又一會社ノ破産スルニ當リ裁判官若シ其會社ニ命スルニ株主ノ貧富ニ應シテ資本ノ割戻シヲナスヘキヲ以テセハ世人ハ之ヲ何トカ云ハン果シテ之ヲ至當ノ判決ト云ハンカ恐クハ然ラサルナリ夫レ政府カ租稅ヲ課スルニ國民ヲシテ各負擔ノ難易ヲ均フセシムルハ敢テ問フ所ニアラス只問フヘキ者ハ各人一個カ受クル所ノ政府ノ恩惠保護ト國債ノ元利仕拂ヲ負フ所ノ義務ノ大小ニ應シテ徴スヘキニアリ是故ニ累進稅ノ理ヲシテ信ナラシメハ政府カ國民及ヒ人民ノ財產ヲ保護スルニ其財產ノ大ナルニ從テ比例外ニ巨多ノ經費ヲ要セサルヘカラス又政府カ巨大ノ財產若クハ財產家ニ與フル所ノ利益ハ中小ノ財產若クハ財產家ニ與フル者ヨリ比例外ニ多カラサルヘカラス然ルニ其實大ニ之ニ反シ巨大ノ財產ヲ保護スルノ費用ハ其小ナル者ヲ保護スルヨリ割合ニ小ナリ請フ之ヲ私立會社ニシテ政府ト類似ノ業ヲ執ル者ニ見シ彼ノ保險會社ノ如キハ能ク經濟ノ要理ニ從ヒ情義ヲ問ハスシテ其盡ス所ノ職務ヲ賣ル者ナリ是等ノ如キハ保險依頼人ヲシテ保險料ヲ拂ハシムル

ニ大ナル者ハ却テ保險ノ歩合ヲ小ニスル者トス譬ヘハ華美ノ巨館ハ小屋ヨリ保險料ノ割合ヲ少フスルカ如何トナレハ小屋ハ自カラ建築疎惡ニシテ危險從ツテ多ケレハナリ又例ヲ鐵道會社ニ見ルニ巨商大賈ニハ却テ割合ニ運送費ヲ減ス然レトモ尙會社ニアリテハ利アリトス如何トナレハ多數ノ荷物ヲ運輸スルハ其取扱費用少數ノ荷物ヲ運スルヨリ割合ニ小ナレハナリ私立會社ノ事務ヲナスヲ斯ノ如シ政府ノ事ハ果シテ之ニ異ナルアリヤ何ヲ以テカ政府ニ於テ保護スル時ハ巨大ノ財產ハ小額ノ財產ニ比スレハ割合ヨリ多クノ經費ヲ要シ私立會社カ之ヲナス時ハ取扱ノ事業大ナレハ却テ割合ニ小費ニシテ足ルノ理アラナヤ世ノ實況ヲ以テ之ヲ見レハ奸曲ヲナス者ハ中以上ノ人民ニ少フシテ下民ニ多キニアラスヤ中以上ノ人ハ能ク自ラ守ルヲ知ル又其臣僕アリテ之ヲ保護シ他人ニ害セラルルヲモ亦少カルヘシ大訴訟ノ爲メニハ必ス多クノ裁判官ヲ要シ小訴訟ノ爲メニハ少フシテ足リ審判ノ度數ハ必ス大訴訟ニ多ク小訴訟ニ少シト云フノ理ナカルヘシ之ニ反シテ諸國聽訟ノ狀ヲ見レハ人民ノ位地

ニヨリテ非常ニ之ヲ異ニセサルナリ  
 然リト雖政府ノ費用ハ一ニ國民ノ身體財產ノ保護ニ歸セサルナリ政府カ社  
 會ニ盡ス所ノ者モ亦少カラズ譬ヘハ教育宗教道路ノ如キアリ是等ニ於テ政  
 府ノ惠ヲ被ルハ富者ニ多ク貧民ニ少キノ理ナキハ一見ニシテ瞭然タルヘシ  
 夫レ十萬フランクノ歲入ヲ有スル者ハ學校ノ利ヲ受クルコト一千フランクノ  
 歲入ヲ有スル者ヨリ多キノ理ナシ殊ニ佛國ノ如キハ高等學校ニ於テハ收入  
 ヲ以テ支出ヲ償ナフヘク中學ニ於テハ殆ト給ヲ政府ニ仰カスシテ足リ政府  
 ノ支給ヲ仰ク者ハ只普通小學ナリトス又富民ノ美麗ナル輕車ハ道路ヲ損ス  
 ルコト下民ノ騷車ヨリ甚シキノ理ナカルヘシ尙其他政府カ社會ニ盡ス所ノ者  
 ヲ探究セハ其歸スル所皆同一ナルヘシ  
 顧ミテ公債ヲ見レハ何カ故ニ富者ハ割合ニ其負擔ヲ重フスヘキヤ殊ニ國民  
 自治ノ政體ニシテ政權人民ニアル時ハ最モ不當ナルヘシ巨大ノ財產ヲ有ス  
 ル者ハ敢テ政治上ノ特權ヲ有スルニアラス而シテ公債ヲ分擔スルノ義務即  
 チ國家失敗ノ責任ハ財產ノ大小ニ從テ重輕セハ豈ニ當然ト云フヲ得ンヤ若

シ政府ニシテ之ヲ行ナハ、是レ多數ナル下民ハ政權ニ參與スルモ敢テ其責  
 ニ任セスシテ可ナリト公認スル者ニシテ下民ハ漸次一國ノ專制主トナルニ  
 至ルノ勢ヲ免レサルヘシ

我佛國ノ公債ハ革命ノ亂ヨリ續テナポレオン第一世在位ノ時及ヒ千八百四  
 十八年ノ亂ヨリ續テナポレオン第三世在位ノ二時代ニ於テ悉ク募集セリト  
 云フモ敢テ大過ナカルヘシ然ルニ此ノ大亂ノ本ハ果シテ何處ニアリヤ誰カ  
 之ヲ富民ノ煽動ナリト云ハン當時抑壓殘害ヲ被リシ者ハ皆上位ノ國民ニシ  
 テ之ヲナセシ者ハ市府ノ共和黨村里ノ共和黨ニアラスヤ而シテ千八百十五  
 年ヨリ千八百十八年ニ至ル迄ノ平和ハ即チ中民以上ノ意望ニ成ル者ニシテ  
 此間一ノ國債ヲ起サ、リシニアラスヤ然ルニ之ヲ再亂セシ者ハ復下民ナラ  
 スヤ然ラハ則チ何ノ理アリテ共和政府ノ下ニアリテハ偏ニ國家失敗ノ責ヲ  
 以テ中以上ノ民ニ負ハシメントスルヤ余輩ハ之ヲ知ルヲ得サルナリ  
 由是觀之ハ累進稅ハ一理ノ存スルヲ見ス之ヲ社會ノ實際ニ照ラシテ論明ス  
 ルヲ得ス只ニ皮相ノ見ニシテ學者ノ言フヲ耻ル所ナリ



加フルニ累進税ノ説ハ恐ルヘキノ弊アリトス如何トナレハ其意ハ則チ國民  
 負擔ノ難易ヲ平等ニスルニアリト雖其弊ヤ遂ニ此主義ヲ去リテ社會ノ富ヲ  
 平均セント欲スルニ至ルノ傾向アレハナリ萬一如此ナル時ハ國家ノ不幸云  
 フヘカラサルニ至ラン

又累進税ノ不便ハ累進ノ税率ヲ定ムルヲ偏ニ賦測ニ出テサルヘカラサルニ  
 アリ其税率ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ定メンカ何處ニ之ヲ止メンカ知ルヲ  
 得サルヘシ若シ累進シテ止マサレハ遂ニ歳入ノ全額ヲ税スルニ至ラン試ニ  
 歳入ノ額倍スル毎ニ三倍ノ租税ヲ課ストナシ其起算點ヲ以テ五百フランク  
 ニ付五フランク即チ一分ノ率トスレハ其初メハ輕課ニシテ増進モ亦急ナラ  
 サルカ如シト雖歳入ノ全額忽チ租税ニ没セララルヘニ至ルヘシ請フ之ヲ左表  
 ニ見ヨ

歳入 フランク	税額 フランク	税率
一〇〇〇	一五	一分五
五〇〇	五	一分

二〇〇〇	四五	二分二五
四〇〇〇	一三五	三分三七五
八〇〇〇	四〇五	五分〇六二五
一六〇〇〇	一二一五	七分六
三二〇〇〇	三六四五	一割一分四
六四〇〇〇	一〇、九三五	一割七分
一二八〇〇〇	三二、八〇五	二割五分六
二五六〇〇〇	九八、四一五	三割八分四
五一二〇〇〇	二九五、二四五	五割七分六
一〇二四〇〇〇	八八五、七三五	八割六分五
二〇四八〇〇〇	二六五、七二〇五	一倍二割九分七

右ノ表ニ由テ之ヲ見レハ起算ノ税率ハ僅ニ一分ニシテ歳入ノ倍スル毎ニ税  
 額ヲ三倍スルニ過キスト雖三萬二千フランクノ歳入ヲ有スル者ハ一割一分  
 餘ノ税率トナリ十二萬八千フランクノ歳入ニハ二割五分餘トナリ二十五萬

六千「フランク」ニシテ三割八分餘五十一萬二千「フランク」ニテ五割七分餘トナ  
リ遂ニ一百万「フランク」ヨリ二百万「フランク」ニ近ツク處ニ於テ歳入ノ全額悉  
ク租税ニ没セラル

若シ假リニ起算税率ヲ以テ五百「フランク」ニ付二分トナシ歳入額ノ倍スル毎  
ニ税額ヲ三倍ストセハ六萬四千「フランク」ノ歳入ニテ三割餘ノ賦課トナリ十  
二萬八千「フランク」ニシテ五割トナリ二十五萬六千「フランク」ニシテ七割六分  
トナリ五十一萬二千「フランク」ニシテ課税ノ額五十九萬四百九十「フランク」ト  
ナルヘシ即チ一倍一割五分ノ賦課ニシテ剩餘ノ富民モ忽チ其重歛ニ堪ヘサ  
ルヘシ此ニ於テカモンテスキュー氏ノ望ニ違ハス税ヲ剩餘ニ課シテ剩餘ヲ  
破滅スルヲ得タリト云フヘシ然リト雖此事タル果シテ有益ナリヤ政府トシ  
テ宜ク行フヘキ所ナリヤ誰カ之ヲ然リト云ハンは是レ徒ニ資本ノ増加ヲ抑制  
シ貯蓄生産ヲ妨害シ其シキハ資本ヲ埋藏シ若クハ外國ニ送附シ富民ハ皆其  
富ヲ表示スルヲ欲セスシテ中世ノ猶太人ニ倣フニ至ラン  
苟モ少シク思慮アル者ハ斯ノ如キ方法ニ由テ累進税率ヲ定ムル時ハ遂ニ巨

額ノ歳入ヲ全没スルニ至ルヲ以テ實際ニ行フヘカラサルヲ知ルヘシ然ルニ  
或ハ奇巧ナル方法ヲ設ケ歳入ノ全額ニ累進算ヲ用ヒス其若干分ニ之ヲ用ヒ  
ントスセアン、パフチスト、ゼー氏頗ル該法ヲ良トス其言ニ曰ク

佛國革命ノ時ニ當リ諸學士及ヒ殊ニ國會議員等ハ累進税ノ恐ルヘキヲ唱  
ヘ或ハ之ヲ以テ國家資本ノ増加ヲ抑制シ國勢ノ進捗ヲ妨クル者トナシ或  
ハ無慮懶惰ノ民ヲ賞譽シ銳意勤勞ノ民ヲ罰スル者トセリ云々然ルニ累進  
税ノ法タル一ニアラス此ニ歳入ノ小部分ニ課スルノ法アリ譬ヘハ歳入ノ  
全額ニ累進税ヲ行ハスシテ其若干分ニ用フルカ如キ是ナリ云々

或ハ以爲ラク該法ニ由テ税率ヲ定ムル時ハ累進税ト雖決シテ歳入ノ全額ヲ  
没スルニ至ラストゾセフ、ガーニエヤ等ノ諸氏ハ則チ之ニ據リテ以テ自説  
ヲ扞護スル者ナリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ其奇巧ナル計算法ヲ用フルモ常ニ殆ト歳入ノ全額ヲ  
没スルニ至ルヘク又時トシテハ其額ヲ超ユレハ歳入ノ全額ヲ没スヘシ請フ  
試ニ之ヲ算セン

今假リニ五百フランクノ歳入ニ一分ノ税ヲ課シ一千フランクノ歳入ハ其半額五百フランクニ一分ヲ課シ餘ノ五百フランクニ二分ヲ課ストセン然ル時ハ全額ノ一千フランクニ對シテハ一分半トナルヘシ又二千フランクノ歳入ナレハ一千フランクハ一分半ヲ課シ一千フランクハ三分ヲ課シ毎ニ歳入ヲ二分シ一分ハ同額ノ平均率ヲ課シ一分ハ累進法ヲ以テ其稅率ヲ倍スル時ハ左ノ如シ

歳入總額	累進稅ヲ課セサル歳入	同上ノ收稅額	累進稅ヲ課スル歳入	同上ノ收稅額	收稅額合計	比	例
500	500	5	500	10	15	1	1
1,000	500	5	500	10	15	1	1
2,000	1,000	10	1,000	20	30	1.5	1.5
3,000	1,500	15	1,500	30	45	1.5	1.5
4,000	2,000	20	2,000	40	60	1.5	1.5
5,000	2,500	25	2,500	50	75	1.5	1.5
6,000	3,000	30	3,000	60	90	1.5	1.5
7,000	3,500	35	3,500	70	105	1.5	1.5
8,000	4,000	40	4,000	80	120	1.5	1.5
9,000	4,500	45	4,500	90	135	1.5	1.5
10,000	5,000	50	5,000	100	150	1.5	1.5
11,000	5,500	55	5,500	110	165	1.5	1.5
12,000	6,000	60	6,000	120	180	1.5	1.5
13,000	6,500	65	6,500	130	195	1.5	1.5
14,000	7,000	70	7,000	140	210	1.5	1.5
15,000	7,500	75	7,500	150	225	1.5	1.5
16,000	8,000	80	8,000	160	240	1.5	1.5
17,000	8,500	85	8,500	170	255	1.5	1.5
18,000	9,000	90	9,000	180	270	1.5	1.5
19,000	9,500	95	9,500	190	285	1.5	1.5
20,000	10,000	100	10,000	200	300	1.5	1.5
21,000	10,500	105	10,500	210	315	1.5	1.5
22,000	11,000	110	11,000	220	330	1.5	1.5
23,000	11,500	115	11,500	230	345	1.5	1.5
24,000	12,000	120	12,000	240	360	1.5	1.5
25,000	12,500	125	12,500	250	375	1.5	1.5
26,000	13,000	130	13,000	260	390	1.5	1.5
27,000	13,500	135	13,500	270	405	1.5	1.5
28,000	14,000	140	14,000	280	420	1.5	1.5
29,000	14,500	145	14,500	290	435	1.5	1.5
30,000	15,000	150	15,000	300	450	1.5	1.5

斯ノ如ク計算法ヲ折衷シ五百フランクノ歳入ニ一分ノ賦課トナシ只歳入ノ若干分ニ累進法ヲ用ヒテ制限アル累進税トナスモ其結果ハ表ニ示ス所ノ如シ右ノ如キ累進法ナレハ敢テ非常ニ急激ナル者ニアラス表中ニテハ決シテ歳入ノ全額ヲ没スルニ至ラスト雖遂ニハ非常ノ重税トナリ巨大ノ歳入ヲ有スル者ニ至テハ租税ノ額殆ト歳入ノ全額ニ達セントス此表ニ據テ之ヲ見レハ四千フランク以下ノ歳入ハ其負擔政テ重シト云フヘカラス其最モ重キモノモ尙僅ニ三分三七ニシテ方今佛國ノ動産税ノ率ニ達セス之ヲ以テ今日ノ財產讓與税ニ比スルモ尙未タ及ハサルナリ四千フランクヨリ一萬六千フランクニ至ルマテハ稍々重ク其最モ重キ者ハ七分五九ニシテ少シククライミヤノ戰役中ニ於ル英國ノ所得税ニ超ユルノミ然ルニ三萬二千フランクニ至テ遽ニ重ク其税率一割一分三九トナリ六萬四千フランクニシテ一割七分〇八ヲ拂フニ至ル一割七分餘ノ税率ニ至リテハ既ニ重キニ過キ却テ殆ト其功ナク衆皆其富ヲ蔽匿スルニ至ルヘシ其歳入大ナルニ從テ負擔益重ク遂ニ歳入ノ全額ヲ官ニ没スルニ至リテ止ムヘシ即チ十二萬八千フランクノ歳入ハ二

割五分餘ヲ拂ヒ二十五萬六千フランクハ三割八分四四ヲ拂フ五十一萬二千フランクノ歳入ニ至レハ五割七分餘ヲ剝キ百萬フランクノ歳入ヨリ八割六分ヲ奪フ國民ノ歳入此額ヲ過クレハ皆官ニ没セラルヘシ世ノ經濟家ニシテ累進税法ニ左袒スル者ハ實ニ思ハサルノ甚シキ者ト云フヘシ世ノ學者或ハ以爲ラク假令ヒ三割四割五割若クハ八割ノ税ヲ拂フモ巨大ノ財產家ハ尙下民ニ比スレハ幸福ナルヘシト是レ其レ或ハ然ラン然リト雖若シ政府ニ於テ其歳入ノ過半ヲ徵收セハ被税者ハ果シテ信實ニ之ニ從ヒ詐僞ヲ行フナカラシカ外國ニ移ルノ患ナカラシカ假令ヒ若シ各國悉ク累進税法ヲ行フカ若クハ政府ノ嚴密ナルカ爲メニ移住成ラス詐僞行フ能ハサルモ巨大ノ財產家ハ失望シテ貯蓄勤勞ヲ拋擲シ浪費逸樂ヲ事トスルニ至ルヤ必セリ或ハ云ハン累進ヲ輕フスヘシト曰ク理ニ於テハ則チ然リト雖之ヲ輕フスレハ實際ニ於テ累進ノ功ヲ失フヘシ此ニ舉クル所ノ累進税率ニシテ政府ニ得ル所既ニ甚々小ナリ如何トナレハ税ヲ課スルニ國家ノ最多數ナル他國ハ兎モアレ佛國ニ於テハ小歳入ノ民最モ多シ小歳入ハ輕ク中歳入ハ輕重偏

セス大歳入特リ重キヲ以テナリ佛國ノ巴里府ハ富民ノ集ル所其歳入十億フランクト稱ス若シ之ニ制限アル累進税ノ制ヲ用ヒハ非常ノ巨額ヲ收歛スルニ至ルヘシ實ニ制限アル累進税ノ法ハ制限ナキ累進税ニ比スレハ尙可ナリト雖敢テ性質ニ異ナルアルニアラス其不條理ナルハ均シク一ナリ只甲ハ少シク乙ニ勝ルノミ

プルードン氏カ累進税ヲ稱シテ兒戯ナリ共和遊戯ナリトセシハ眞ニ其然ルヲ知ル又恐クハ之ニ過ル至當ノ評アラサルナリ元來累進税ハ實際ニ於テ國庫ニ收入ヲ得ルノ法ニアラス其理ニアリ第一各國共ニ殊ニ佛國ニ於テハ巨大ノ歳入ヲ有スル者ハ實ニ寥寥タル者ニシテ其總額ハ全國民歳入ノ全額ニ比スレハ九牛ノ一毛トモ云フヘキモノナリ第二累進税ヲ行フ時ハ巨大ノ歳入ヲ有スル者ハ政府ノ掠奪ヲ恐レ必ス之ヲ蔽匿スヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ政府ノ措置不公平ナルヲ以テ變詐百出衆觀然トシテ敢テ之ヲ恣トセサルニ至ラン

方今世ノ財政統計ヲ見ルニ巨額ノ歳入ヲ得ルハ未タ必スシモ二十萬若クハ

三十萬フランクノ歳入ニ二割乃至三割ノ税ヲ課シ百萬フランクノ歳入ニ五割乃至六割ノ税ヲ課スルニアラサルナリ普魯士國ニ於テハ歳入ノ多少ニ由リテ國民ヲ數等ニ分チテ歳入税ヲ課シ同等ノ者ハ則チ同額ノ税ヲ出ス該制ニ據レハ毫モ累進税ノ質ヲ有セスト雖上下ノ階級ニ從テ税率ヲ加減スルヲ以テ多少富者ニ重ク貧民ニ輕キノ實アリ是等ノ統計ヲ見ル時ハ社會上ニ於テ頗ル緊要ナル事實ヲ徵スルニ足ル余輩カ茲ニ有スル所ノ者ハ千八百五十二年ノ表ニシテ稍今日ノ實況ニ異ナルヘシト雖又其概況ヲ知ルニ足ラン該表ニヨレハ普魯士ノ人口ハ大凡ソ一千八百萬ニシテ一千ターラ即チ三千七百五十萬フランク以上ノ歳入ヲ有スル者ハ僅ニ四萬四千四百七人ナリト云此四萬四千四百七人ノ拂フ所ノ租税ノ全額ハ一千ターラ即チ三千七百五十萬フランク以下ノ歳入ニ同率ヲ課シテ得ル所ノ總額三分ノ一ニ達セス由是觀之ハ巨額ノ收入ヲ得ヘキ歳入ハ獨リ一千ターラ以下ノ歳入ニアルヤ明カナリト右ノ四萬四千四百七人ノ中凡ソ半數二萬千七百八十三人ノ歳入ハ千四百一ターラ五千二百五十萬フランク以下ニアリ而シテ此四萬四千四百七人ノ六分ノ

五ハ皆一萬五百「フランク」(二千八百「ターラ」)以下ノ歳入ヲ有スル者ナリ。普魯士全國ニ於テ四萬五千「フランク」(二萬二千「ターラ」)以上ノ歳入ヲ有スル者ハ僅ニ四百四十四人ナリ。其中七萬五千「フランク」(三萬「ターラ」)以上ノ歳入ヲ有スル者百六十人十五萬九千「フランク」(五萬二千「ターラ」)以上ノ歳入ヲ有スル者二十九人四十五萬「フランク」(十二萬「ターラ」)以上ノ歳入ヲ得ル者僅ニ七人ノミ。本文ノ統計ハ「テパリユー」氏ノ「トレーター」デ「ザムボ」第一卷四百五十一葉ノ表ニ據ル。

右ノ統計ニ由リテ之ヲ觀レハ累進稅ヲ行フモ巨額ノ歳入ヲ得ル能ハサルヲ明カナルヘシ之ヲ苦シム者ハ只獨リ國民ノ極微分ナル富者ニ過キス蓋シ普魯士ニ於テ一萬「フランク」以上ノ歳入ハ全國國民歳入十五分ノ一ニ達セサルヘシ「ゼアン」バプチスト「ゼー」氏ノ言ニ據レハ普魯士全國ニ於テ三十萬「フランク」ノ歳入ヲ有スル者ハ千八百五十三年ニ於テ僅ニ十三人ノミ。然ラハ則チ收入ノ點ヨリシテ之ヲ見レハ累進稅ハ「ブルードン」氏ノ所謂ル兒戲ナリ。國庫ノ收入ヲ得ルノ法ニアラサルナリ。其收入スル所ハ遂ニ比例稅ニ

如カス而シテ社會百般ノ不便ヲ生スヘシ。或ハ云ハン普魯士ハ貧國ナリ此ニ察ル所ノ統計ハ千八百五十三年ノ舊表ナリ。爾後該國ノ富増加セシハ必然ニシテ今日富民ノ數必ス他日ニ倍セント曰ク然リ方今該國ノ富ハ増加シ千八百五十三年ニ比スレハ巨額ノ歳入ヲ有スル者多シ然リト雖其數實ニ僅少ニシテ全國國民歳入ノ總額ニ比スレハ極メテ小部分ニ過キス千八百六十四年ニ於テハ三千七百五十「フランク」以上ノ歳入ヲ有スル者六萬八千百一十一人即チ十一年前ニ比スレハ二分ノ一ヲ増加セリ。然リト雖此輩ノ拂フ所ノ者ハ尙未タ三千七百五十「フランク」以下ノ歳入ニ同率ヲ課シテ得ル所ノ總額ノ三分ノ一ニ過キス然ルニ普魯士ノ如キハ未タ歐洲ニ於テ小産家ノ最多ナル者ニアラサルナリ。又亞米利加合衆國ニ於テハ南北ノ亂終リ國民ノ歳入ニ稅スルヲ始ム其法半ハ累進ノ制ニ從ヒ千八百六十六年ノ稅率ハ六百弗ヨリ五千弗ニ至ル迄ノ歳入ニ課スルニ五分ヲ以テシ五千弗(二萬五千「フランク」)以上ノ歳入ハ等ヲ分チ七分五及ヒ一割ノ稅ヲ課セリ。當年該稅ノ收入高ハ七千二百九十八萬二千弗

即チ三億六千五百萬フランクニシテ其三千四百五十萬一千弗即チ一億七千二百五十萬フランクハ五千弗即チ二萬五千フランク以上ノ歳入ヨリ得ル所ノ者ナリ斯ノ如ク富者ニ課スル所ノモノハ小歳入ニ比スレハ二分ノ一乃至一倍ヲ加フト雖其收入高ハ全收入高ノ半額ニ及ハス若シ其除税額ナル六百弗以下ノ歳入ヲ合セテ之ヲ算セハ合衆國ニ於テモ五千弗即チ二萬五千フランク以上ノ歳入ハ全國民歳入ノ十分一ヲ過クヘカラス然リト雖當時合衆國ニ於テ不換紙幣アリテ三割乃至四割ノ下落ヲ致セリ而シテ其歳入ハ紙幣ヲ以テ之ヲ算ス

千八百六十六年二月十六日ニ於テ金貨三割七分二五同年九月十七日ニハ金貨騰貴シテ四割五分トナレリ

加フルニ合衆國ニ於テハ貨幣ノ價格勞力ニ比シテ常ニ歐洲ニ如カス是故ニ是等ノ情狀ヲ斟酌セハ千八百六十六年合衆國ニ於テ紙幣ヲ以テ算セル五千弗ノ歳入ハ歐洲大陸ニ於ケル一萬二千若クハ一萬五千フランクノ歳入ト相去ル遠カラサルヘシ由是觀之ハ合衆國ニ於テ富民ノ小數ナルヤ知ルヘキナ

リ嘗テ合衆國ノ財政取調委員タリシダヴィット、ウエルス氏ノ言ニ據レハ千八百七十一年乃至千八百七十二年コブデンクラブ、エツセースニ刊行セル「エ、キユーリヤス、チャピトル、イン、ポリチコ、エコノミツク、ヒストリ」四百九十八葉千八百六十六年ニ於テ合衆國ノ人口ハ三千五百萬ニシテ其所得稅ヲ負擔スル者即チ家賃、家屋營繕費並ニ諸稅額ヲ除キ六百弗以上ノ歳入ヲ有スル者ハ僅ニ四十六萬七百七十人ナリ次年ニ至リ一千弗五千フランク以下ノ歳入ハ所得稅ヲ除キシヲ以テ該稅ヲ負フ者僅ニ二十五萬九千三百八十五人トナレリ同年所得稅トシテ五百弗二千五百フランク以上ヲ拂ヒシ者ハ五萬八十八人ノミ其巨額ノ歳入ハ一割ノ稅率ナリシヲ以テ之ヲ見レハ二萬五千フランクノ歳入ヲ有セシ者僅ニ五萬人餘ナルヲ知ルヘシ而シテ其二萬五千フランクハ下落セシ紙幣ノ高ナルヲ以テ歐洲ノ貨幣ニ比スレハ其實一萬五千フランクノ歳入ニ過キサルモノナリ

是故ニ合衆國ニ於ケルモ亦巨額ノ歳入ヲ有スル者ハ寥寥タル者ニシテ累進稅ヲ行フ時ハ巨額ノ歳入即チ五萬フランク以上ノ歳入殊ニ二十萬フランク

若クハ三十萬フランクノ歳入ニ重課スルカ如シト雖政府ニ收入スル所ニ至テハ其々僅少ナル知ルヘキナリ

元來歳入税ハ行ヒ難フシテ害多シ如何トナレハ詐偽行ハレ易キヲ以テナリ殊ニ巨額ノ歳入ニ至リテハ嚴密ノ究問ヲ遂クルニ非サレハ其實數ヲ知ル能ハサルモノナリ

凡ソ歳入税ノ賦課ニ三條ノ法アリ即チ第一人民ノ申告ニ據ルヲ第二政府ノ推定ニ據ルヲ第三政府ノ檢察ニ據テ定ムルト是ナリ然リト雖此三者ノ如キ皆精密ナル實數ヲ得ルニ足ラス故ニ非常ニ税率ヲ輕フシ二分若クハ三分ヲ課シ格外ノ場合ニ於テ五分若クハ六分ヲ課シ而シテ民治ノ國ニ於テハ除税歳入ノ點ヲ低フスルニアラサレハ收入ノ多キヲ望ムヘカラサルナリ

若シ歳入ニ累進税ヲ課セハ三者ノ中孰レノ法ヲ用ヒテ之ヲ課スルモ遂ニ困難ト不公平トヲ免レサルヘシ請フ詳カニ之ヲ論セン

若シ人民ノ申告ニ本キテ累進税ヲ課スレハ富民ハ税率ノ平等ナラサルヲ見獨リ其弊ヲ受クルヲ恐レテ大ニ奸詐ヲ逞フシ幾分カ其財産ヲ蔽匿シテ平均

ヲ保タンコトヲ計ルハ必然ナリ之ヲ合衆國ノ實驗ニ徵スルニ千八百六十六年ニ當テ歳入税ノ收入高大約七千三百萬弗即チ三億六千五百萬フランクニ過キス而シテ當時紙幣ノ下落三割乃至四割ナリシヲ以テ其三分ノ一ヲ減セハ其實價凡ソ二億五千萬フランクナリト云フヘシ

千八百六十六年二月十六日金貨三割七分二五同年九月十七日四割五分翌二年間金貨ノ打歩ハ凡ソ之ニ同シ故ニ收税額ノ價格ヲ金ニ比スル時ハ凡ソ三割ヲ減セサルヲ得ス

是レ則チ合衆國ニ於テ累進税ノ法ヲ以テ六百弗ヨリ五千弗マテノ歳入ニハ五分其以上ハ七分五若クハ一割ヲ課シテ收入セシ所ノ者ナリ然ルニ同年英國ノ歳入税收入高ハ凡ソ其三分ノ二即チ一億六千萬フランク六百三十九萬「ポンド」ナリ英國ノ税率ハ同一ニシテ二千五百フランク「百ポンド」以下ノ歳入ハ全ク之ヲ除シ五千フランク「二百ポンド」以下ノ歳入ハ其千五百フランク「六十「ポンド」ヲ除キ一般ニ一分六六ノ率ヲ課セシ者ナリ夫レ合衆國ノ富豈ニ大ニ英國ノ下ニアランヤ當時其人口亦英國ヨリ多シ若シ合衆國ニシテ只小額



ノ歳入ヲ除キ二分五若クハ三分ノ税率ヲ以テ均シク一般ノ歳入ニ課セハ其  
 收入スル所ハ蓋シ五分七分五一割ノ累進稅ヲ課シテ得タル所ト相下ラサリ  
 シナルヘシ然ルニ税率ノ重キ累進稅法ヲ以テ徧重ノ稅ヲ課セシカ故ニ富民  
 ノ財産ヲ蔽匿セルコト多ク却テ其收入大ナルヲ得サリシナリ  
 若シ政府ノ推定ニ據リテ累進稅ヲ賦課スレハ奴婢ノ數家屋ノ價格等ニ於テ  
 益大不公平ノ處分ヲ免レサルヘシ元來斯ノ如キ推定ノ法ハ特ニ輕稅ニシテ  
 平等ノ稅率ヲ課スル者ニ於テ獨リ之ヲ用フルヲ得ヘシ  
 若シ檢察法ヲ以テ累進稅ヲ定ムレハ人民及ヒ國家ノ資本ヲ促カシテ外國ニ  
 移ラシムルニ至ルヘシ加フルニ巨大ノ財産ヲ有スル者ハ一人ニシテ多數ノ  
 營業ニ資本ヲ用フル者アリ方今ノ世態ニテハ是等ノ如キハ概數ト雖尙其歳  
 入ノ幾許ナルヲ知ルニ由シナシ巨産ノ銀行家若クハ製造家ノ如キハ自ラト  
 雖常ニ其歳入ノ精細ヲ知ルモノニアラス基タシキハ其資本ト雖之ヲ詳カニ  
 セサル者アリ況ンヤ他人ヲヤ萬一嚴ニ意ヲ百般ノ事務ニ注キ其舉動ヲ檢シ  
 總テノ帳簿通信ヲ調査セハ稍々其大數ヲ知ルヲ得ヘキカ是故ニ該法ヲ行フ

時ハ多少信ヲ人民ノ申告ニ置カサルヲ得ス然ルニ其稅輕ク稅率平等ナルニ  
 アラサレハ詐僞必ス行ナハレ信ヲ人民ノ申告ニ置ク能ハサルヘシ若シ人民  
 ニアリテ安シテ財産ヲ蔽匿スルノ理由アルカ若クハ理由アリト託言スルヲ  
 得ヘキ時ハ必ス之ヲナシテ願ミサルヘシ今累進稅ノ如キハ即チ安シテ財産  
 ヲ蔽匿スルノ一理由ト云ヘキ者ナリ假令ヒ其一理由ナリト云フ能ハサルモ  
 理由アリト託言スルヲ得ヘキ者ナリ

由是觀之ハ累進稅ノ說タルヤ何レノ點ヨリシテ之ヲ見ルモ遂ニ善良ナルモ  
 ノニアラサルナリ理論上ニ於テハ該說タル情理ニ基キスル者ニシテ之ヲ唱  
 フル者ハ社會ノ情勢政府カ各級ノ人民ニ盡ス所ノ如何ヲ願ミサル者ナリ政  
 治上ニ於テ云フ時ハ佛國ノ如キ自治ノ社會ニ在テハ人民皆參政ノ權ヲ有ス  
 故ニ國家ノ失敗モ亦其實ニ任スヘキニ累進法ヲ行フ時ハ巨萬ノ民租稅ヲ免  
 レ百弊從テ生シ累進ヲ制限セント欲スルモ得ヘカラス課稅常ニ賦潤ニ出サ  
 ルヲ得ス議員ノ好意ハ頼ムニ足ラサルナリ之ニ反シテ比例稅ハ濫用スル能  
 ハサルノ質ヲ有スル者ニシテ基礎ヲ變スルニアラサレハ陰然之ヲ犯スノ術

X 101

ナカルヘシ理財上ニ於テハ累進税ハ眞ニ兒戲財政ニシテ其形ハ則チ收入アルニ似テ實際收入ヲ得ル能ハス事ヲ處スルニ徒ニ煩忙ニシテ實際ノ成績ナシ其之ヲ唱フル者ハ方今ノ社會ニ於テ富ノ配賦セラル、所ヲ探究セス故ニ國家ノ富民ハ非常ノ小數ニシテ只ニ全國ノ富ノ極小部分ヲ占ムルニ過キサルヲ問ハサルナリ又此輩ハ詐僞ノ行ハル、ハ只人民カ自ラ害セラレタリト思フニ出テ而シテ累進税ハ詐僞ヲ勸獎誘導スルノ實アルヲ問ハサル者ナリ

英國ニ於テピット氏ノ宰相タルニ當リ歳入ニ一割ノ税ヲ課シ人民カ大ニ其財産ヲ藏匿セシハ昭々蔽フヘカラサルノ例證ナリ

右ニ論スル所ヲ以テ之ヲ見レハ歳入ニ税ヲ課スルニ輕ク且ツ平等ノ率ヲ以テスレハ人民ノ罪ヲ犯ス者少ク弊害薄フシテ其政府ニ收入スル所ハ深刻ナル累進税ニ讓ラサルヤ明カナリ

世或ハ瑞士ノ實證ヲ舉テ余輩ノ説ヲ駁シ其實際ニ當ラサルヲ論スル者アラシ實ニ瑞士ノ諸州ニ於テハ往々累進税ヲ以テ其資本若クハ歳入ニ課スルノ

制アリ然リト雖其例ハ以テ余輩ノ説ヲ挫クニ足ラス却テ其虛ナラサルヲ證スルニ足ルヘシ余嘗テ瑞士ノ公使館ニ就キ該國ノ資本税歳入税ニ關スル百般ノ書類ヲ惠與セラレン事ヲ請ヘリ巴里駐劄ノ瑞士國全權公使博士ケルン氏ノ懇切ナル余輩ノ請求ヲ容レテ參考書類ヲ給セラル今其累進ノ性質ニ關スル者ヲ拔萃セン

瑞士國ノ中央政府ニ於テハ決シテ累進税ヲ設クルニアラス只諸州ノ權内ニ於テ此制ヲ施スノミ其賦課ノ法左ノ如シ

諸州ノ中或ハ特ニ税ヲ資本ニ課シ或ハ特ニ歳入ニ課スト雖多クハ兩税并ヒ行フヲ常トスズーリツク州ニ於テハ資本税歳入税相共ニ累進法ヲ用ヒ且ツ其法タル頗ル繞密ニシテ殆ント煩ハシキニ堪サル者ノ如シ其法一財産ノ中初ノ二萬フランクハ其二分ノ一即チ一萬フランクニ税ヲ課シ次ノ三萬フランクハ其十分ノ六次ノ五萬フランクハ十分ノ七次ノ十萬フランクハ十分ノ八其次ノ二十萬フランクハ十分ノ九餘ハ其全額ニ課スル者トス而シテ其稅率ハ皆一ナリ今假リニ五十萬フランクノ財産ヲ有スル者アリトセハ租稅ヲ

負擔スヘキ額ハ左ノ如シ

原額	被税額
初ノ 二〇〇〇〇フランク	一〇〇〇〇フランク
次ノ 三〇〇〇〇フランク	一八〇〇〇フランク
全 五〇〇〇〇フランク	三五〇〇〇フランク
全 一〇〇〇〇〇フランク	八〇〇〇〇フランク
全 二〇〇〇〇〇フランク	一八〇〇〇〇フランク
全 一〇〇〇〇〇フランク	一〇〇〇〇〇フランク
合計五〇〇〇〇フランク	四二三〇〇〇フランク

斯ノ如ク五十萬フランクノ財産ヲ有スル者ハ其四十二萬三千フランクニ税ヲ負フニ萬フランクヲ有スル者ハ其一萬フランクニ五萬フランクヲ有スル者ハ其二萬八千フランクニ税ヲ負ヒ其税率ハ皆一ナリ然ラハ則チ該法ハ巨萬ノ財産即チ一千萬若クハ一千五百萬フランクヲ有スル者ト雖ニ萬フランクノ財産ニ比シテ一倍ノ税率ヲ拂フカ如キ者ニアラス頗ル緩ナリト云フヘ

シ斯ノ如クナレハ則チ累進税モ亦敢テ嚴急ナリト云フヘカラスト雖以テ收入ヲ大ニスルニ足ラサルヘシ然ルニ小財産ハ間税ヲ負フ大ナルヲ慮ハカリテ之ヲ見レハ小財産ノ一部ヲ除シテ税セサルハ幾分カ恕スヘキモノアリ

同州ノ歲入税徵課法モ亦資本税ノ主義ニ據ル即チ左ノ如シ

歲入原額	被税額
初ノ 一五〇〇フランク	十分ノ二
次ノ 一五〇〇フランク	十分ノ四
全 三〇〇〇フランク	十分ノ六
全 四〇〇〇フランク	十分ノ八

餘ハ十分ノ十即チ其全額ニ課スル者トス  
右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ被税者ノ歲入一萬フランクニ至ルマテハ其一分ヲ免除スト雖餘ハ其全額ニ課スルヲ知ルヘシ其税率ハ歲入ノ多少ヲ問ハヌ上下皆同一ナリ今茲ニ一萬五千フランクノ歲入ヲ有スル者アリトセハ其被

税額左ノ如シ

歳入原額	被税額
初ノ 一五〇〇フランク	三〇〇フランク
次ノ 一五〇〇フランク	六〇〇フランク
全 三〇〇〇フランク	一八〇〇フランク
全 四〇〇〇フランク	三二〇〇フランク
全 五〇〇〇フランク	五〇〇〇フランク
合計一五〇〇〇フランク	一〇九〇〇フランク

斯ノ如ク一萬五千フランクノ歳入ヲ有スル者ハ其一萬九百フランクニ税ヲ負擔ス然ルニ千五百フランクノ歳入ヲ有スル者ハ僅ニ其三百フランクニ三千フランクノ歳入ハ其九百フランクニ六千フランクノ歳入ハ其二千七百フランクニ税ヲ負フ者トス是ヲ以テ之ヲ見レハ該州累進法ノ歳入ニ於ケルハ資本ニ於ケルヨリ嚴ナリト雖未タ以テ其タシキニ過クト云フヘカラス如何トナレハ其累進ハ一萬フランクニシテ止マリ大歳入ノ大半ヲ官ニ没スルカ

如キニ至ラサレハナリ故ニ其累進税ハ英國歳入税ノ法ニ二千五百フランク以下ノ歳入ハ舉テ之ヲ除シ二千五百フランクヨリ七千五百フランクニ至ル迄ハ其二千フランクニ税セサルノ法ト殆ント相類スル者ト云フヘクシテ一方ヨリシテ之ヲ論スレハ其大要ハ寧ロ比例税ニシテ小歳入ノ間税多キヲ補助スル者ナリト云フモ可ナリ然リト雖寧ロ此累進ノ制ナキニ如カス若クハ之ヲシテ二階ノ累進トセハ尙一層可ナラン如何トナレハ該制タル公衆ヲ誤導シ嚴急有害ノ累進税トナラシムルノ恐レアルヲ以テナリ是故ニ余輩ハ其害ヲ未萌ニ防クノ善ニ如カストナス

瑞士ノ諸州此類ノ税法ヲ用フル者甚々多シバーンル府ニ於テ歳入税ハ累進税ノ法ヲ用フト雖資本税ハ毫モ累進税ノ質ヲ有セス千八百六十六年ニ法律ヲ定メ千八百七十六年三月二日ノ布達ヲ以テ頒告セシ法ニヨレハ該州ニ於テ歳入ニ課スル所ノ累進税ハ左ノ如シ

四千五百フランク以下ノ歳入ハ百フランク毎ニ一フランクノ税ヲ課シ四千五百フランクヨリ九千フランクニ至ルマテハ百フランク毎ニ二フランク九

千フランク以上八百フランク毎ニ三フランクヲ課ス又千二百フランク以下  
 九百フランク迄ハ六フランクヲ課シ九百フランク以下六百フランク迄ハ四  
 「フランク五十」サンチーム六百フランク以下ハ都テ三フランクヲ課スル者ト  
 ス是ヲ以テ之ヲ見レハ「パール」府ノ歳入税ハ其等級ヲ分ツ「ズーリツク」州ノ  
 歳入税ニ於ルヨリ一層精密ナリトス尙一步ヲ進メテ之ヲ詳解スレハ四千五  
 百フランクノ歳入ヲ有スル者ハ一分ノ税即チ四十五フランクヲ負ヒ九千フ  
 ランクノ歳入ヲ有スル者ハ其四千五百フランクニハ一分ノ税即チ四十五フ  
 ランク次ノ四千五百フランクニハ二分ノ税即チ九十フランク合セテ百三十  
 五フランクヲ負ヒ一萬八千フランクノ歳入ヲ有スル者ハ其四千五百フラン  
 クニハ一分次ノ四千五百フランクニハ二分自餘ノ九千フランクニハ三分ノ  
 税合セテ四百五フランクヲ拂フヘシ然ラハ則チ一萬八千フランクノ歳入ヲ  
 有スル者ハ四千五百フランクノ歳入ニ比スレハ其額ハ僅カニ四倍ナリト雖  
 其税ハ則チ九倍ナリ九千フランクノ歳入ニ比スレハ其額ハ僅ニ二倍ナリト  
 雖其税ハ則チ三倍ナリ該制ニ於テ少シク怨スヘキ者ハ等級ノ多カラサルト

初メノ四千五百フランクノ負擔ヲ輕フスルハ小歳入ノ間税ヲ負フ事重キヲ  
 以テ之カ償補ナリトスルニアリ

グリソンス州ノ資本税徵課法ハズーリツク州ノ法ニ相類ス該州ニ於テハ財  
 産ノ大小ニ從ツテ階級ヲ分チ一萬フランクヨリ二萬フランクニ至ルマテヲ  
 一級トナシ起算率若干ヲ課ス二萬フランクヨリ四萬フランクニ至ルマテハ  
 初メノ二萬フランクヲ除キ餘ハ一千フランク毎ニ起算率ニ十分ノ一ヲ増シ  
 タル税率ヲ課ス四萬フランクヨリ七萬フランクニ至ルマテハ初メノ四萬フ  
 ランクヲ除キ餘ハ起算率ニ十分ノ二ヲ増シタル税率ヲ課ス七萬フランクヨ  
 リ十萬フランクニ至ルマテハ十分ノ三ヲ増シ十萬フランクヨリ十五萬フラ  
 ンクニ至ルマテハ十分ノ四ヲ増シ十五萬フランクヨリ二十萬フランクニ  
 至ルマテハ十分ノ五ニ至ルマテハ十分ノ五ニ至ルマテハ十分ノ五ニ至ルマテハ十  
 分ノ六四十萬フランク以上ハ十分ノ七ヲ増ス試ニ五十萬フランクノ財産ヲ  
 有ストセハ其負ノ所左ノ如シ但シ一千フランク毎ニ税ヲ負フ者トス  
 初ノ 二〇〇〇〇フランクハ 起算率

次ノ	二〇〇〇〇フランクハ	起算率	二十分ノ一ヲ加フ
全	三〇〇〇〇フランクハ	全	二十分ノ二ヲ加フ
全	三〇〇〇〇フランクハ	全	二十分ノ三ヲ加フ
全	五〇〇〇〇フランクハ	全	二十分ノ四ヲ加フ
全	一〇〇〇〇〇フランクハ	全	二十分ノ五ヲ加フ
全	一五〇〇〇〇フランクハ	全	二十分ノ六ヲ加フ
全	一〇〇〇〇〇フランクハ	全	二十分ノ七ヲ加フ
合計	五〇〇〇〇〇フランク		

右ノ等級税ハ割合ニ緩ナリト云フヘシ如何トナレハ千萬フランクノ巨産ヲ有スル者ト雖其税率一萬フランクヨリ二萬フランクニ至ルマテノ小産ノ負フ所ニ倍セサルヲ以テナリ故ニ該法タル未タ不當不正ヲ免レスト雖又敢テ非常ニ苛刻ナリト云フヲ得サルナリ

クリソンス州ノ歳入税ハ資本税ニ比スレハ重シ資本税率ハ千分ノ一ナルニ當リテ所得税ノ賦課左ノ如シ

歳入額

税率

一〇〇フランクヨリ	一〇〇〇フランクマテ	五分
一〇〇〇フランクヨリ	二〇〇〇フランクマテ	七分五
二〇〇〇フランクヨリ	三〇〇〇フランクマテ	一分
三〇〇〇フランクヨリ	四〇〇〇フランクマテ	一分五
四〇〇〇フランクヨリ	六〇〇〇フランクマテ	二分
六〇〇〇フランクヨリ	八〇〇〇フランクマテ	二分五
八〇〇〇フランク以上		三分

而シテ資本税率ニ増減アル時ハ歳入税率モ亦其割合ニ増減スル者トス該州ノ歳入税ハ累進非常ノ高度ニ上ラスシテ止ルト雖頗ル嚴急ナリト云フヘシ

フリブール州ニ於テハ人民ノ申告セシ歳入高若クハ政府ニテ承認セシ歳入高ノ一分ヲ除キ租税ヲ免除スルノ法アリ其除去スヘキ部分ハ歳入ノ多少ニ由リ五百フランクニ至ラサル歳入ハ其十分ノ八ヲ除キ五百フランクヨリ一

千「フランク」迄ハ其十分ノ六二千「フランク」ヨリ三千「フランク」マテハ十分ノ四  
 三千「フランク」以上ハ十分ノ三ヲ除ク而シテ其税率ハ通例被税額ニ四分ヲ課ス  
 ルヲ常トス是レ純然タル累進税ニ非ス寧ロ彼ノ英國ノ歳入税ニ於テ最下及  
 ヒ次等ノ歳入ハ間税ヲ負擔スルノ重キヲ以テ之カ償補トシ其幾分ヲ免除ス  
 ルト相類スル者ナリサンガル州ニ於テハ歳入ノ多少ニ從ヒ分ツテ數等トナ  
 シ累進ノ法ヲ用フ其資本税率千分ノ一ナルニ當リテ歳入税ヲ賦課スルコト左  
 ノ如シ

第一等	第二等	第三等	第四等	第五等	第六等
八〇〇ヨリ	一〇〇〇ヨリ	一五〇〇ヨリ	二〇〇〇ヨリ	二五〇〇ヨリ	三〇〇〇ヨリ
九九九「フランク」迄	一四九九「フランク」迄	一九九九「フランク」迄	二四九九「フランク」迄	二九九九「フランク」迄	三四九九「フランク」迄
一「フランク」	二「フランク」	四「フランク」	七「フランク」	一一「フランク」	一六「フランク」

歳入額

税額

第七等	三五〇〇ヨリ	三九九九「フランク」迄	一二二「フランク」
第八等	四〇〇〇ヨリ	四四九九「フランク」迄	三〇「フランク」
第九等	四五〇〇ヨリ	四九九九「フランク」迄	四〇「フランク」
第十等	五〇〇〇ヨリ	五四九九「フランク」迄	五一「フランク」
第十一等	五五〇〇ヨリ	五九九九「フランク」迄	六三「フランク」
第十二等	六〇〇〇ヨリ	六四九九「フランク」迄	七六「フランク」
第十三等	六五〇〇ヨリ	六九九九「フランク」迄	九〇「フランク」
第十四等	七〇〇〇ヨリ	七四九九「フランク」迄	一〇五「フランク」
第十五等	七五〇〇ヨリ	七九九九「フランク」迄	一二二「フランク」
第十六等	八〇〇〇ヨリ	八四九九「フランク」迄	一三八「フランク」
第十七等	八五〇〇ヨリ	八九九九「フランク」迄	一五七「フランク」
第十八等	九〇〇〇ヨリ	九四九九「フランク」迄	一七七「フランク」
第十九等	九五〇〇ヨリ	一〇〇〇「フランク」迄	二〇〇「フランク」
歳入一萬「フランク」以上ハ百「フランク」毎ニ二「フランク」五十「サンチム」ヲ拂ハ			

シム該州ノ累進法ハ他州ニ比スレハ頗ル緩ニシテ五千フランクノ歳入ヲ有  
 スル者ハ僅ニ其一分ヲ負ヒ三千フランクヲ有スル者ハ千分ノ五ヲ負フニ當  
 リテ一萬フランクヲ有スル者ハ二分ヲ負フ加之ナラス其累進甚シキニ至ラ  
 スシテ止マル如何トナレハ歳入ノ一萬フランクヲ超ユル者ハ悉ク同一ノ稅  
 率ヲ課スレハナリ

テツサン州ニ於テハ歳入稅ノ累進一層歩ヲ進ムト雖只其歳入額ノ多キニ從  
 テ階級ヲ加ヘシノミ平素徵課スル所ノ稅率ハ左ノ如シト雖止ヲ得サルヲア  
 レハ増課スルヲ得ル者トス  
 四百フランク以下ノ歳入ハ歳入稅一フランクヲ課ス

歳入額	被稅額	稅額	稅率
四〇〇一フランクヨリ	初ノ	四〇〇フランクハ	一フランク餘ハ〇分二五
八〇〇一フランクヨリ	全	八〇〇フランクハ	二フランク全 〇分五
一〇〇〇一フランクヨリ	全	一〇〇〇フランクハ	四フランク全 〇分七五

是レ則チ歳入ノ増加ニ從テ稅率ヲ累進スル者ナリ然レトモ其金額ニ累進稅  
 ヲ課スル者ニアラサルナリ歳入額四萬フランク以上ハ總テ五分ノ稅ヲ拂フ  
 ハ重シト云ハサルヲ得ス加フルニ該法ニ據ル時ハ收入高多カラサルヘシ如  
 何トナレハ五千フランクノ歳入ハ僅ニ一分ノ稅ヲ負ヒ三千フランクノ歳入  
 ハ四分ノ三ニ過キサレハナリ若シ該法ニ依テ相當ノ收入ヲ得ント欲セハ悉  
 ク其稅率ヲ三倍セサルヘカラス然ル時ハ四萬フランク以上ノ歳入ヲ有スル  
 者ハ一割五分ノ稅ヲ負擔シテツサン州ニ於テハ巨産ヲ有スル者殆ト將ニ賦  
 ヲ絶ツニ至ルヘシ

二〇〇〇一フランクヨリ	全	二〇〇〇フランクハ	一〇フランク全 一分
三〇〇〇一フランクヨリ	全	三〇〇〇フランクハ	二〇フランク全 一分五
五〇〇〇一フランクヨリ	全	五〇〇〇フランクハ	五〇フランク全 二分
一〇〇〇〇一フランクヨリ	全	一〇〇〇〇フランクハ	一五〇フランク全 三分
二〇〇〇〇一フランクヨリ	全	二〇〇〇〇フランクハ	四五〇フランク全 四分
四〇〇〇〇一フランクヨリ	全	四〇〇〇〇フランクハ	一四五〇フランク全 五分



トルゴヴィ州ニ於テモ亦歳入ノ等級ヲ分チ累進税法ヲ以テ歳入税ヲ課ス該州ニ於テモ尙他ノ州郡ニ於ケルカ如ク資本税ヲ課シ歳入税ノ税率ハ資本税税率ノ多少ニ從テ變動ス其資本税率一分ナルニ當テハ歳入税ハ左ノ割合ニ據テ徵課スル者トス

歳入額	第一等	第二等	第三等	第四等	第五等	第六等	第七等	第八等
二〇〇フランクマテ	三五サントー	四四〇	四〇〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
三五サントー		四〇〇	三六〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
五五サントー		三六〇	三二〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
一フランク		三二〇	二八〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
二フランク		二八〇	二四〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
四フランク		二四〇	二〇〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
六フランク		二〇〇	一六〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
一〇フランク		一六〇	一二〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇
一六フランク		一二〇	八〇	六六〇	八八〇	一一〇〇	四四〇	〇七〇

第九等 二二〇フランク  
 第十等 二二〇フランク  
 第十一等 二六〇フランク以上

資本税一分ナルニ當リテ右ノ税額ヲ課スル者ニシテ若シ資本税率二分ナル時ハ右ノ税額倍スル者ト知ルヘシ右ノ累進税ハ二千六百フランクノ歳入ニ至テ止リ餘ハ同一ノ率ヲ課スル者ニシテ敢テ重額ナリト云難シ小歳入ハ同税ヲ負擔スルノ割合ニ重キヲ以テ其賦課ヲ輕フスルハ當然ノ事ト云フヲ得ヘシ

ゼーゾーニ於テハ資本税ノ制アリ亦累進ノ法ヲ用フ該制ハ古來ヨリ行フ所ノ者ニシテ「ガード」ト稱シ五千フランクヨリ五萬フランクニ至ルマテノ財産ハ千分ノ五ヲ課シ五萬フランク以上ハ一分ヲ課セリ然レトモ斯ノ如キ薄税ハ以テ累進税ト稱スルヲ得ス其小産ノ賦課ヲ減スルハ至當ノ償補ニシテ尙英國歳入税ノ徵課法ト相均シキ者ト云フヘキナリ

尙他ノ瑞士諸州ニ於テ此類ノ税法ヲ行フ者少カラヌ殊ニグラリース州ソリ

ユール州オグ州ウンデルワルデシレハウト州ノ如キヲ最トナス千八百七十六年ヲシヤテル州ニ於テ歳入及ヒ資本ニ累進税ヲ課センコトヲ計レリ其法累進ヲ限リ非常ノ重税ニ至ラサルヲカム左ノ表ニ於テ被税者ノ豫算人員及ヒ各級ノ収入ヲ合セテ徵收法如何ヲ見ルヘシ

ヌシヤテル州資本税累進法ノ豫算

千八百七十四年ノ收税簿ニ據テ被税者ノ等級ヲ定ムル者ナリ但シ當年ノ租税ハ比例法ナリ

財産額	被税者人員	各級平均財産額	被税資本額	毎一千フラシク税率	収入豫算額
從 二五〇〇一五	五	三三三〇〇	一六二五〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ六	二六〇〇
從 三五〇〇一五	五七	三七五〇〇	二二七五〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ七	三三三三三
從 四〇〇〇一五	三三	四五〇〇〇	一四八五〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ八	二六七五〇
從 五〇〇〇一五	三三	五五〇〇〇	一一〇〇〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ九	三三九九〇
從 六〇〇〇一五	二八	六五〇〇〇	一一七〇〇〇〇	千分ノ二	二三四〇〇
從 七〇〇〇一五	七	七五〇〇〇	五二五〇〇〇	千分ノ二十分ノ一	一一〇二五
從 八〇〇〇一五	五	八五〇〇〇	四二五〇〇〇	千分ノ二十分ノ二	九三三〇
從 九〇〇〇一五	二	九五〇〇〇	一五〇〇〇〇	千分ノ二十分ノ三	四三三〇
從 一〇〇〇〇一五以上	一四	一六二五〇〇	二二七五〇〇〇	千分ノ二十分ノ四	五五三〇〇
全	四六六	四〇一八〇〇〇	一六八九八〇〇〇		五二二二二
全			一六八九八〇〇〇		五〇

財産額	被税者人員	各級平均財産額	被税資本額	毎一千フラシク税率	収入豫算額
從 二五〇〇一五	五	三三三〇〇	一六二五〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ六	二六〇〇
從 三五〇〇一五	五七	三七五〇〇	二二七五〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ七	三三三三三
從 四〇〇〇一五	三三	四五〇〇〇	一四八五〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ八	二六七五〇
從 五〇〇〇一五	三三	五五〇〇〇	一一〇〇〇〇〇	千分ノ一ト十分ノ九	三三九九〇
從 六〇〇〇一五	二八	六五〇〇〇	一一七〇〇〇〇	千分ノ二	二三四〇〇
從 七〇〇〇一五	七	七五〇〇〇	五二五〇〇〇	千分ノ二十分ノ一	一一〇二五
從 八〇〇〇一五	五	八五〇〇〇	四二五〇〇〇	千分ノ二十分ノ二	九三三〇
從 九〇〇〇一五	二	九五〇〇〇	一五〇〇〇〇	千分ノ二十分ノ三	四三三〇
從 一〇〇〇〇一五以上	一四	一六二五〇〇	二二七五〇〇〇	千分ノ二十分ノ四	五五三〇〇
全	四六六	四〇一八〇〇〇	一六八九八〇〇〇		五二二二二
全			一六八九八〇〇〇		五〇

右ノ計書ニ由レハ二百萬若クハ三百萬「フランク」ノ財産ヲ有スル者ト雖五萬「フランク」以下ノ財産家カ負擔スル所ノ二倍半ノ税率ヲ負フニ過キサルヲ以テ頗ル薄歛ナル累進税ト云フヘキナリ

左ノ表ハ同時ニ計書セシ所得税ノ累進法ヲ示メヌ者ニシテ合セテ各級被税者ノ數及ヒ收入豫算額ヲ表ス

ヌシヤテル州所得税累進法ノ豫算

千八百七十四年ノ收稅簿ニ據テ被稅者ノ等級ヲ定ムル者ナリ但シ當年ノ租稅ハ比例法ナリ

歲入額	被稅者人員	各級平均歲入額	被稅歲入額	每一百ツラノ稅率	收入豫算額
從 〇至 三〇〇〇	四二七一四	六〇〇	二五六二八四〇〇	一分	二五六二八四〇
從 三〇〇一至 四〇〇〇	四一〇	三三〇〇	一四三三〇〇〇	一分十十分ノ一	一五七八五
從 四〇〇一至 五〇〇〇	一九六	四四五〇	八八一八〇〇	一分十十分ノ二	一〇七〇〇
從 五〇〇一至 六〇〇〇	一〇六	五五〇〇	五八三〇〇〇	一分十十分ノ三	七五七九
從 六〇〇一至 七〇〇〇	五三	六五〇〇	三四四五〇〇	一分十十分ノ四	四八二一
從 七〇〇一至 八〇〇〇	六〇	七五〇〇	四五〇〇〇〇	一分十十分ノ五	六七五〇
從 八〇〇一至 九〇〇〇	二四	八五〇〇	二四〇〇〇〇	一分十十分ノ六	三二六四
從 九〇〇一至 一〇〇〇〇	三五	九五〇〇	三三二五〇〇	一分十十分ノ七	五六四九
從 一〇〇〇一至 一二〇〇〇	一九	一一〇〇〇	二〇九〇〇〇	一分十十分ノ八	三七六二
從 一二〇〇一至 一五〇〇〇	二五	一三五〇〇	二〇二五〇〇	一分十十分ノ九	三八四七
從 一五〇〇一至 二〇〇〇〇	一〇	一七五〇〇	一五七〇〇〇	二分	三五〇〇

從 二〇〇〇一至 三〇〇〇〇	一四	二五〇〇〇	三五〇〇〇〇	二分十十分ノ一	七三五〇
從 三〇〇〇一至 四〇〇〇〇	二	三五〇〇〇	七〇〇〇〇	二分十十分ノ二	一五四〇
從 四〇〇〇一至 五〇〇〇〇	一	四五〇〇〇	四五〇〇〇〇	二分十十分ノ三	一〇三五
從 五〇〇〇一至 以上	二	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	二分十十分ノ四	二四〇〇
	四三六六一		三一〇二七〇〇		三二四二六六

又シヤタルニ於テハ千八百七十六年三月二十四日二十五日二十六日ノ三日ニ於テ討論ノ末累進稅ノ說遂ニ寡數ヲ以テ破レ舊ニ依リ比例稅ヲ課セリ當時累進稅ヲ非トセシ者ハ七千六百二十四人ニシテ之ヲ可トシテ投票セシ者ハ僅ニ四千二人ナリ又シヤタル人民ノ爲メニハ一名舉ト稱スヘシ

右ノ計畫ハ敢テ大ニ難スヘキ者ナシト雖其主義ニ於テハ累進ヲ免レサル者ニシテ忌ヘキ者アリ讀者意ヲ用ヒテ右ノ二表ヲ玩味セハ余輩カ該篇ニ論スル所ニ於テ大ニ覺ルアラン其財產ニ於ケルモ歲入ニ於ケルモ巨大ナル者ハ實ニ一小部分ニシテ累進稅ヲ以テ收入ヲ得ル純然タル比例稅ヨリ多キヲ望ムハ笑フヘキノ至リナリ又シヤタル州民ノ私有財產ノ總額ハ凡ソ四億一

百萬フランクニシテ五萬フランク以下ノ小財産ノ全額ハ一億六千九百萬フランクナルヲ以テ之ヲ見レハ全州人民財産ノ五分ノ二餘ハ小財産ニアリ十萬フランク以下ノ財産ハ二億二千二百萬フランク全州民財産ノ半ニ過キ三(四千六百萬フランク)實ニ全州民財産ノ八分ノ一ニ達セス然リト雖該州ノ如キハ人民能ク業ヲ勵ミ開明ノ上位ニアル者ナリ

其歳入ノ狀ヲ見ルニ尙之ヨリ甚シクシヤタル州民歳入ノ全額ハ三千一百萬フランクニシテ其六分ノ五(二千五百六十二萬八千フランク)三千フランク以下ノ歳入ニアリ一萬フランク以上ノ歳入ハ僅ニ全額ノ三十分ノ一ニアリ若シクシヤタルニ於テ財産ノ大小ヲ問ハス同一ニ超算稅率即チ千分ノ一ヲ課セハ資本ノ原額ハ四億一百十八萬フランクナルヲ以テ收入高ハ四十萬千八百八十フランクヲ得ヘシ其累進稅ノ原案ニ由ル時ハ收入高五十二萬三千六百三十六フランクニシテ其多キヲ僅ニ四分ノ一ニ過キス又歳入ニ大小同一ノ稅率一分ヲ課スレハ其原額ハ三千二百七十七萬七千フランクナルヲ以テ收入高

三十一萬二千フランクトナル累進稅ヲ以テスル時ハ三十三萬四千二百六十六フランクニシテ比例稅ノ收入ヨリ多キヲ二萬四千フランクナリ(僅ニ八分)然ラハ則チ此僅々タル者ヲ得ント欲シテ危キヲ侵スハ敢テ得策ニ非サルナリ加フルニ累進ノ法ヲ行フ時ハ衆皆下級ニ入ランヲ欲シテ告ルニ實ヲ以テセス如何トナレハ歳入ヲ蔽匿シ得ル時ハ其實額ト申告額ノ差ニ課稅ヲ免レ加フルニ下級ニ入ルヲ以テ稅率輕キヲ得レハナリ又シヤタルニ於テ此法案ノ論題タルニ當リテ論者云ヘルアリズクノ累進稅ハ頗ル輕シト雖其成績タル歎スルニ堪ヘタリ該州ニ於テハ財産ヲ蔽匿スルヲ甚シク資本ノ外國ニ移ル者多クシテ近年ニ至テハ被稅資本ノ額三百萬フランクヲ減セリト

右ニ歷舉スル所ニ據テ之ヲ見レハ瑞士國諸州ノ實驗ハ以テ累進稅ノ善良ナルヲ證スルニ足ラス其行フ所ノ者ハ僅ニ累進ノ一斑ニ過キサル者ニシテ皆多クハ六千八千若クハ一萬フランクノ歳入ニ至テ止マリ未タ嘗テセアンバブチスト、ゼー氏カ望ムカ如ク數百千フランクノ歳入ヲ有スル者ニ特殊ノ苛

款ヲ加ヘント欲スル者ヲ見ス故ニ特ニ小歳入ニ輕課スルハ英國ノ歳入税ニ於ケルカ如ク間税ノ償補ト見做メモ妨ケナカルヘン加之ナラス瑞士諸州ノ實驗ヲ以テ累進税率ヲ重フスルモ收入ヲ増加スヘキヲ証セサルナリ又瑞士諸州ノ累進税ハ僅々タル收入ヲ得ンカ爲メニスル租税ニシテ税率ヲ重フシ巨額ノ收入ヲ得ンカ爲メニスル所ノ累進税ニ至テハ資本税歳入税共ニ未タ嘗テ實驗セシ者ニアラサルナリ是故ニ累進税ハ之ヲ緩ニスレハ書餅ニ過キス如何トナレハ其收入スル所ノ者ハ比例税ニ過キサレハナリ之ヲ嚴ニスレハ重キニ堪ヘサル者アリ其結果タルヤ資本ヲ蔽匿シ或ハ民ノ財産ヲ没入シ或ハ資本ヲ外國ニ移スニ至ラン

然ルニ其形ハ累進税ニシテ其實比例税ニ近キ者アリ是レ方今ノ財政論者カ未タ明カニ區別セサル所ナリ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ此類ノ税法ハ敢テ大ニ難スヘキ者ナキカ如シ請フ其例ヲ舉ケン

千七百九十一年一月十八日ノ條例ヲ以テ佛國ノ委員總會ハ家賃ニ本キテ動産税ヲ課スヘントシ累進ノ法ヲ用ヒヨリ然ルニ此法タル議員等カ果シテ累

進税ヲ行ハント欲セシニアラス又其實累進税ニアラス只其形ニ於テ累進法タルノミ該法ニ從フ時ハ下民ハ富民ニ比スル時ハ家賃ニ給スル歳入ノ部分多キ者トシ動産ノ歳入ヲシテ其比例ヲ得セシメントテ計リ家賃ノ高ニ應シテ歳入ノ等級ヲ定メ一百フランクノ家賃ヲ拂フ者ハ其歳入ヲ家賃ノ一倍ト定メ百一「フランク」ヨリ五百「フランク」ニ至ルマテノ家賃ヲ拂フ者ハ歳入ヲ其三倍トシ五百一「フランク」ヨリ一千「フランク」マテハ歳入ヲ其四倍トシ逐次ニ増加シテ一萬二千「フランク」ニ至ル其餘ハ悉ク家賃ノ十二倍ヲ以テ歳入ト見做セリ然レトモ被稅者カ地租トシテ拂ヒシ部分ハ計算額ヨリ之ヲ除キ其殘額ニ上下共ニ二十分一ノ動産税ヲ課スヘントセリ

若シ特ニ家賃ノ點ヨリ之ヲ見レハ右ノ動産税ハ累進税ナリ然ルニ當時議員ノ意ヲ推シ歳入ノ點ヨリ之ヲ見レハ純然タル比例税ナリ議員ノ意ハ則チ純然タル比例税ニシテ毫モ税率ヲ偏重ニシ富民ノ負擔ヲシテ下民ノ負擔ヨリ重カラシメント欲セシ者ニアラス只該法ハ則チ國民ノ歳入ヲ算スルノ良法ナリト思惟セシノミ之ヲ實施スルニ至テハ其當ヲ得サルヘント雖其主義ニ

於テ敢テ違背スル所ヲ見サルナリ  
 委員總會ニ於テ定メシ所ノ計算法ハ未タ以テ精密ニシテ誤リナキ者ト云フ  
 ヲ得ス若シ小歳入ヲ有スル者ハ中歳入ヲ有スル者ニ比シテ其家賃ニ費ヤス  
 所ハ果シテ多キモ之ヲ以テ巨額ノ歳入ヲ有スル者カ家賃ニ費ヤス所ハ歳入  
 ノ一小部分ニ過キサル者ナリトスルハ誤レルノ甚タシキ者ト云フヘシ我佛  
 國ノ如キ市府ノ巨館ニ住シ或ハ府外ノ城砦ヲ家トスル者ハ居住ノ爲メニ費  
 ヤス所ハ其歳入ノ六分ノ一若クハ四分ノ一甚シキハ三分ノ一ニ達スル者ア  
 リ價格百萬フランクノ巨館ヲ有スル者ノ財産ハ多クハ五百萬若クハ六七百  
 萬フランクニ過キス又五十萬フランクノ巨館ニ在ル者ハ其財産殆ント皆三  
 四百萬フランクニ過キス是ヲ以テ之ヲ見レハ富民カ家賃ニ費ス所ノ者ハ其  
 歳入ニ應セス或ハ四分ノ一ヲ費シ或ハ六分ノ一ヲ費ス者ト云フヘシ非常ノ  
 場合ニ於テ或ハ之ヨリ少キ者アルノミ是レ則チ佛國市民現時ノ景況ナリ  
 由是觀之ハ千七百九十一年ニ於テ議員カ定メシ計算法ハ精密ナルヲ得ス萬  
 一當年ニ於テハ精密ナルモ方今ニ在リテハ決シテ精密ナル能ハス然リト雖

其動産税ハ決シテ累進法ヲ以テ偏重ノ税ヲ課セントセシニアラス只其此ニ  
 至リシハ實ニ偶然ノミ

諸國ノ動産税ヲ課スル者皆多ク累進ノ形アリ然ラサレハ歳入ニ對シテ比例  
 税タルヲ得ス是レ佛國ノ大府殊ニ巴里府ニ於テ現行スル所ノ者ナリ巴里府  
 ニ於テ四百フランク以下ノ家賃ハ屢税ヲ課セス四百フランク以上ハ之ヲ分  
 チテ數級トナシ級ニ應シテ税率ヲ定ム凡ソ中等ノ家賃ヲ拂フ者ハ三分若ク  
 ハ四分ヲ課シ是ヨリ以上ハ六分若クハ七分其最モ大ナル者ハ一割若クハ一  
 割一分ヲ課ス

此徵課法ハ以テ當然トナスヘシ之ヲ以テ各種ノ直税ニ於テ小歳入ノ税ヲ除  
 スルト同意ナリト云フモ可ナルヘシ其家賃ノ多少ニ從テ税率ヲ數等ニ分ツ  
 ハ其級ヲ少フシ税率ヲ輕フシ其最モ重キ者ヲシテ決シテ家賃ノ一割若クハ  
 一割一分譬ヘハ之ヲ過キサラシメハ敢テ不可ナル所ナシ然リト雖該税ノ性質  
 タル常ニ慰測ノ恐レアリ之ヲ避ケント欲セハ其税率ヲ定ムルニ當リテ宜シ  
 ク調査ヲ精密ニシ民習ヲ考究シ以テ家賃ト歳入トヲ比較シ然ル後歳入ヲ定

△ヘシ如何トナレハ若シ租税ヲシテ家賃ニ於テ能ク累進ノ割合ヲ得セシメ  
 ハ歳入ニ於テモ亦能ク比例ヲ得ヘケレハナリ  
 累進税ヲ非トスル所ノ經濟學者デ、パリーユ―氏、ロツシー氏、マククラック氏ノ如  
 キモ該法ヲ以テ家賃ニ税スルハ敢テ非トセサル所ナリ千八百五十二年ビ―  
 ドモントノ上議院ニ於テギヨリオ氏カ論セシ所ノ者ハ能ク該法ノ眞理ヲ辨  
 シ得タル者ナリ氏ハ該税ノ累進法ハ決シテ比例税ノ精神ニ背カサル者ニシ  
 テ該國ノ條例ヲ犯スモノニアラストナシ之ヲ論シテ曰ク若クハ税率累進シ  
 テ非常ニ重ク遂ニ被税者ノ力ニ應セサルニ至ル時ハ條例ニ戻ル者ト云フヘ  
 シ然ルニ家賃ノ價格ニ基キ税法ヲ定ムル時ハ之ニ比例シテ税ヲ課スル者ニ  
 アラス故ニ家賃價格ヲ以テ被課物ト稱スヘカラス被課物ハ則チ被税者ノ歳  
 入若クハ歳入ヲ得ル所ノ財源若クハ人民ノ富ニアリ然リト雖其財源ハ未タ  
 必スシモ家賃ト相比例セサルナリト又ギヨリオ氏ハ佛國ノ千七百九十一年  
 ノ法ヲ引証シテ曰ク方今以太利ニ於ケルモ亦千七百九十一年ノ佛國ニ於ケ  
 ルモ人民カ家賃ニ費ス所ノ者ハ歳入ノ小ナルニ從テ割合ニ多キハ疑ヲ容サ

ルナリ故ニ若シ家賃ヲ以テ租税ヲ賦課スル所ノ標準トセスシテ偏ニ人民ノ  
 富ノ大小ヲ表スル者トナシテ之ヲ見レハ家賃ノ多キ者ニ税率ヲ増課スルモ  
 敢テ條例ヲ犯ス者ト云フヘカラス尤モ其累進ヲ急ニシテ被税歳入ヲ全没ス  
 ルニ至レハ之レ條例ヲ犯ス者ナリト

ギヨリオ氏ノ論スル所ハ頗ル其當ヲ得タリト云フヘシ元來中等以上ノ民ハ  
 下民ニ比シテ間税ヲ負フノ輕キヲ以テ直税ヲ負擔スルト少シク重キハ却テ  
 平均ヲ得ル者ナリト云フモ敢テ毫モ累進税ノ弊ニ陷ルノ患ナカルヘシ其外  
 形ニ於テハ累進税ニ似テ其實却テ國家ノ財政法ニ於テハ上下ノ比例ヲ平均  
 スル所ノ税法ヲ用フル者少ナカラス請フ諸國殊ニ英國カ所得税率ヲ定ムル  
 制度如何ヲ陳セン

英國ニ於テ歳入ニ新税ヲ課スル時ハ一百ポンド即チ二千五百フランク以下  
 ノ小歳入ヲ除クヲ常トス此法タル權理上實際上ニ於テ其然ルヘキノ理アリ  
 ト云フヘシ夫ノ人口ニ膾炙スル所ノ必要最低點トハ余輩ヲ以テ見ル時ハ無  
 益ノ言ナリ如何トナレハ第一人生必需ノ最低點ハ國ニ由リテ同シカラス時

ニ由テ之ヲ異ニス何ヲ以テカ能ク至當ノ點ヲ定ムルヲ得ン第二民治ノ國ニ在リテハ殊ニ我佛國ノ如キハ下民ト雖皆均ク參政ノ權ヲ有スル者ニシテ各失政ノ實ニ任セサルヘカラサル者ナレハナリ故ニ必要最低點ノ說ハ言ヘクシテ行フヘカラサルモノト云フヘシ然リト雖諸國カ歲入稅若クハ動產稅ヲ課スルニ當テ小歲入ニ稅ヲ除カント欲スルハ至當ノ理アリ凡ソ國トシテ國稅ニモアレ地方稅ニモアレ間稅ヲ以テ酒類、鹽、珈琲、砂糖、烟草ノ如キ要品ニ課セサル者ナカルヘシ該稅ハ小產者ニ重ク巨產者ニ輕キノ患アリテ負擔ノ平均ヲ得サルモノナリ故ニ其避クヘカラサルノ不平均ヲ矯メンカ爲メニ直稅ニ於テ幾許カ償補ヲ與フルハ當然ノ理ナリ然リト雖其免除ヲ行フハ常ニ極メテ歲入ノ小ナル者ニ止マラサルヘカラス英國ニ於テハ二千五百フランク（百ポンド）以下ノ歲入ハ之ヲ除シ合衆國ノ如キハ家賃ノ外紙幣ニテ六百弗以下ノ歲入ハ之ヲ除セリ然ルニ當時合衆國ニ於テ紙幣ノ價格三割ヲ失ヒシヲ以テ金貨ノ價格ハ二千五百フランクニ過キス故ニ家賃ヲ合セテ合衆國ニ於テハ二千六七百フランク以下ノ歲入ニ免除ヲ行ヒシ者ナリ佛國ノ如キハ二千

「フランク」ヲ以テ該點トセハ可ナラン多ク之ヲ免スハ得策ニアラス如何トナレハ多少歲入ヲ蔽匿スルハ常ニ免レサル所加フルニ佛國ノ如キハ富ノ分配平均ナルヲ以テ免除點ヲ大ニスル時ハ租稅ノ收入額ヲ減スルノ恐レアレハナリ

實際上ニ於テハ同一ノ直稅ヲ徵收スルノ難キ之レナリ余輩ハ後篇ニ於テ其難キ所以ヲ論スヘシ假令ヒ佛國ニ於テ下民ニ至ルマテ三「フランク」ノ分頭稅ヲ課シテ成效アリシニモセヨ普魯士ニ於テ「クラセンストイヤ」ト稱スル歲入稅ノ額ヲ以テ最下ノ歲入ニ至ルマテヲ稅セシニモセヨ直稅ヲ以テ下民ニ課スルノ難キハ皆老練家ノ見ヲ同フスル所ナリ然リト雖若シ國ニ間稅ノ法ナケレハ苟モ參政權ヲ有スル所ノ人民ハ如何ナル租稅ト雖悉ク負擔スヘキハ論ヲ待タサルナリ

英國ノ歲入稅ニ累進ノ形アル者ハ只ニ小歲入ヲ免除スルノミニアラサ中等ノ歲入モ亦時トシテハ稅率ヲ輕フシ時トシテハ歲入ノ一部ヲ除シテ稅ヲ課セサルヲ以テ多少ノ惠ヲ受クル者ナリ千八百六十一年ヨリ千八百六十三年



ノ間ハ二千五百フランク以下ノ歳入ハ悉ク税ヲ免シ二千五百フランクヨリ  
 三千七百五十フランクニ至ル迄ハ(百ポンド)ヨリ百五十ポンドニ至ル迄(一ポ  
 ンド)ニ付六ペンス即チ二分五ヲ拂ヒ三千七百五十フランク以上ハ悉ク一ポ  
 ンドニ付九ペンス即チ三分七五ヲ拂フ者トセリ千八百六十四年以後少シク  
 徴課ノ法ヲ改メ中等ノ歳入ニ税率ヲ輕減スル法ヲ廢シ百ポンドヨリ二百ポ  
 ンド即チ二千五百フランクヨリ五千フランクニ至ル迄ハ歳入ノ六十ポンド  
 即チ千五百フランクヲ除キ其餘ニ税ヲ課スヘキ者トシ二千五百フランク以  
 下ノ歳入ハ舊ニ依テ税ヲ免セリ然レトモ二千五百フランク以上ノ歳入ハ其  
 大小ヲ問ハス一般ニ同一ノ税率ヲ賦セリ故ニ中歳入ハ其千五百フランクヲ  
 無税トシ五千フランク以上ハ悉ク税ヲ課セリ千八百七十二年ニ於テ免税ノ  
 額ヲ擴ケ中等歳入二千五百フランクヨリ七千五百フランク迄ハ(百ポンド)ヨ  
 リ三百ポンド迄二千フランク(八十ポンド)ヲ以テ免税額トセリ  
 該法タル其形ハ即チ累進税ナリト雖其實ハ間税ノ不均平均ヲ平均スル者ニシ  
 テ頗ル當然ノ制ト稱スヘシ故ニ若シ佛國ニ於テ人民ノ歳入ニ税ヲ課シ二千

「フランク」以下ノ歳入ハ全ク税ヲ免シ二千フランクヨリ三千フランク若クハ  
 四千フランクニ至ル迄ハ一分五乃至二分ヲ課シ餘ハ三分乃至四分ヲ課セハ  
 余輩ハ之ヲ稱シテ良法ト云ハン

斯ノ如キ税法ハ頗ル有益ナリトス然リト雖之ヲ行フニ當テハ宜ク累進法ヲ  
 シテ專ラ財政法ノ平均ヲ得セシムルヲカムヘシ而シテ全ク税ヲ除スル者ハ  
 極メテ小額ニ止マリ中等歳入ハ税率ヲ輕減シ若クハ其一部分ノ税ヲ免スル  
 ヲ要ス然ル時ハ全國ノ租税歳入ノ大小ヲ問ハス上一般負擔ニ偏重ナク國  
 民皆應分ノ安逸ヲ樂シムニ足ラン

租稅論

第三篇

單稅及複稅 資本稅及歲入稅

單稅複稅ノ事タル世喋々其得失ヲ論スト雖皆一偏ノ理論ニ過キス未タ眼ヲ實施上ニ注キテ其得失ヲ論スル者ヲ見ス方今諸國ニ於テ行フ所ノ租稅ハ皆複稅ノ法ニアリト雖之ヲ以テ單複兩法ノ得失ヲ決スヘキニアラス凡ソ社會ノ組織者時ト共ニ變更シ學問道德ノ進歩ト共ニ轉遷ス單稅ノ法何ソ必シモ行フヘカラストナスヲ得ンヤ

世ウオウバン氏ヲ稱シテ單稅論者ノ巨擘トナスト雖未タ其當ヲ得タリト云フヘカラス氏ハ嘗テ十一ノ稅ヲ設ケ分頭稅用金州郡關稅等ノ諸稅ヲ廢センコトヲ論セリト雖尙鹽ニ輕稅ヲ課シ聊カ下民ノ負擔ヲ存シ十一稅ト並ヒ行ハシメントシ又關稅記錄稅ノ如キモ敢テ廢セント云ヒシニアラス氏ノ十一稅ハ地代作益家賃工業利益公債證書券銀私有地ノ作益等一切ノ歲入ニ二十分一ヲ課シ重キモ十分一ヲ過キサル者トナスカ如シ由是觀之ハウオウバン

氏ノ意ハ租税ヲ簡易ニセンカ爲メニ過半間税ヲ廢シ首税一ヲ定メ之ニ副フ  
 テ他ノ税ヲ課シ國民ノ負擔ヲシテ偏重ナカラシメンコトヲ計リシ者ニシテ純  
 然タル單税ニアラサルヤ明カナリ  
 第十八紀ニ當テ佛國ニ盛ナリシ經濟學ノ一派ナル「フイジオクラット」黨ハ單  
 税法ヲ主張セシ者ニシテケスチー氏ミラボー侯ノ如キ皆深ク單税法ヲ唱ヘ  
 毫モ狐疑スル所ナキカ如シ殊ニミラボー侯ノ如キハ單税若クハ單税ニ近キ  
 制ヲ設クルモ不可ナル所ナシトセシハ故ナキニアラス侯ノ説ニ以爲ラク當  
 時佛國ノ租税收入高ハ凡ソ六億フランクニシテ其徵收費ハ三億五千萬フラン  
 ンクヲ要ス故ニ政府ノ諸費ニ給スルヲ得ル者ハ僅ニ貳億五千萬フランクナ  
 リ其他政府ノ經費ハ一般ニ多キニ過ク之ヲ節減セハ政府ノ必要經費ノ額ハ  
 貳億五千五百萬フランクニシテ足ルヘシ其七千五百萬フランクハ地租ニ壹  
 億五千萬フランクハ家賃俸給ノ歲入ニ税シテ之ヲ得ヘシト「レオンスデラヴ  
 エルギユ氏」ノ「レゼコノミスト」フランセ「オー」デズウイツチエームシエーク  
 ル「百四十四葉」然ルニ若シ侯ノ計畫ニ從ヒ租税ヲ徵セハ恐クハ政府必要ノ費

額ヲ得ルヲ能ハサリシナラン

チユルゴー氏ハ「フイジオクラット」黨ノ最モ著名ナル者ニシテ黨論ヲ持シ單  
 税ヲ唱ヘシト雖其佛國ノ宰相タルニ當テハ佛國ニ單税法ヲ行フノ難キヲ説  
 ケリ千七百七十二年氏カリムーザンノ監察タルニ當リ書ヲ檢査官ニ寄セ入  
 市税ノ事ヲ論セリ其説ク所一般ノ間税ニ及ヘリ其書ニ言フアリ曰ク消費税  
 ハ一般ニ不可ナルカ如シ余ヲ以テ之ヲ見ルニ消費税ハ其徵課法ノ如何ヲ問  
 ハス之ヲ負擔スル者ハ常ニ土地ノ歲入ニアリ故ニ之ヲ改正スルモ益ナカラ  
 シ寧ロ斷然之ヲ廢シテ市府ノ費用ハ其府内及近傍ノ地主ヲシテ之ヲ負ハシ  
 ムヘシ如何トナレハ之ヲ廢スル時ハ其利ヲ得ル者ハ是等ノ地主ニアレハナ  
 リ然レトモ此事タル一大變革ニシテ之ヲ決行スルニ未タ充全ナル意見ヲ定  
 ムルヲ能ハス云々

右ノ説ニ據テ之ヲ見レハ「フイジオクラット」黨カ單税ヲ唱フル所以ハ只ニ税  
 法ヲ簡易ニセント欲スルニ止マラス又以爲ラク間税ハ被税品ノ價ヲ騰貴ス  
 ルニ足ラスシテ到底之ヲ負擔スル者ハ地主ナリト之ヲ以テ寧ロ間税ヲ廢シ

テ直ニ地租ヲ課スルノ善キニ如カストナスヤ明カナリ然ルニ此說ヤ眞理ニ  
 暗シ余輩ハ後ニ之ヲ辨スル所アラントス  
 佛國革命ノ時ニ當リ國會議員ハ「フイシオクラツト」黨ノ士甚々多カラス當時  
 議員ノ一人チユボン、デ、チムール氏ハゼアンパブチストセー氏ニ書ヲ送リテ  
 云ヘルコアリ

國會ニ於テ議事貿易財政ニ及フ毎ニ未タ嘗テ經濟學者ト激烈ナル討論ニ  
 及ハサルコナシ云々

當時國會ハ常ニ「フイシオクラツト」黨ノ說ヲ排斥スルヲカメ單稅法ヲ施コス  
 ニ至ラサリシト雖多少其勢力ニ感染シテ諸間稅ヲ廢シ各種ノ歲入稅ヲ課シ  
 頗ル單稅法ニ傾向セリ然ルニ關稅及ヒ記錄稅ハ依然トシテ之ヲ存セリ  
 世ノ經濟家多クハ單稅ヲ以テ言フヘクシテ行フヘカラサル者トナスト雖有名ナ  
 ル製造家メニエー氏ノ如キハ雜誌「公ニシ」演說ヲナシ或ハ大部ノ著述等ヲナシ  
 大ニ該說ヲ主張シ輿論ヲ動カサンコトヲカメ方今ハ單稅ノ說漸ク再燃ノ勢アリ  
 論者ハ何故ニ單稅ヲ以テ可トスルカ又或ハ何ヲ以テ之ヲ不可トスルカ請フ

今ヨリ其理由ヲ論究セン

萬一單稅法ニシテ非常ノ不公平ナク能ク租稅徵賦ノ目的ヲ達シ政府ノ經費  
 ヲ支給スルヲ得ハ租稅徵收ノ煩雜忽チ地ニ落チ生産上融通上ノ不便跡ヲ滅  
 シ政治上營業上ノ自由益擴張スルヲ得ヘク又恐クハ之ニ過タル良稅法ナカ  
 ルヘシ凡ソ人民ハ國家稅種ノ多少ニ從テ自由ヲ得ルニ大小アリ稅種少ケレ  
 ハ自由ヲ得ルコト大ナリ稅種少ケレハ人民自ラ其拂フ所ノ者ヲ知ルニ容易ナ  
 リ然ルニ租稅徵課ノ法今日ノ如クナル時ハ其稅種ノ多キ老練ノ士ト雖決シ  
 フ其稅額ヲ豫知スル能ハサルノ不便アリ加フルニ單稅法ヲ行フ時ハ租稅ノ  
 徵收費ヲ減スルコト蓋シ少ナラサルヘシ

單稅ニ於テ是等ノ利益アルハ決シテ爭フヘカラサル所ノ者ナリ然ラハ則チ  
 何故ニ單稅法ヲ行ハサルヤ此疑ヲ辨明スルニ當テハ先ツ前篇ニ論究セシ所  
 ノ租稅ノ要理ヲ再言セサルヘカラス第一租稅ハ政府必要ノ經費ヲ支ユルニ  
 十分ナル收入ヲ得サルヘカラス第二租稅ハ力メテ被稅者ノ財力ニ比例シテ  
 之ヲ課スヘシ即チ其歲入若クハ資本ニ比例スヘキヲ云フ其歲入ニ比例スヘ

キカ資本ニ比例スヘキカハ後ニ論スル所アラントス故ニ今茲ニ之ヲ決セス  
 第三租税ハカメテ被税者カ拂フ所ト國庫ニ收入スル所ノ間ニ大差ナカラシ  
 メ且ツカメテ人民ニ不便ナカラシムルヲ要ス  
 斯ノ如ク租税ヲ課スルニ收入ヲ得ルヲ公平ナルヲ徵收費ノ節減並ニ徵收ノ  
 輕易ナルヲハ租税法ノ三大要理ナリ此ニ又第三條ノ意ヲ述ヘテ一條トシ以  
 テ第四條ニ加フヘキモノアリ即チ租税ヲ賦課徵收スルニ當テハ宜ク將來ノ  
 生産ヲ抑制シ國家ノ經濟上ニ損失ヲ致サ、ルヲカムヘシ  
 若シ單税法ヲ以テ國家必要ノ收入ヲ得ヘキヤ否ヤヲ知ラント欲セハ先ツ政  
 府必要ノ經費如何ヲ見サルヘカラス其國富ニ經費甚々少キ者ノ如キハ單税  
 ヲ以テ政府ノ常費ヲ支ユルニ足ル者アラン方今佛國ノ富ハ隆盛ナリト雖政  
 府ノ經費ハ甚々大ナリ然ルニ今假リニ其實況如何ヲ問ハス暫ク空想ニ入り  
 若シ佛國人民ノ祖先ヲシテ一層聰慧ニ方今隣國ノ民ヲシテ一層賢明ナラシ  
 メハ單税ノ法必シモ行フ能ハサルニアラサルヲ論セン  
 千八百七十七年ノ豫算ニ據レハ佛國政府ノ經費ハ二十六億六千七百萬フラン

ンク(百萬以下ハ之ヲ除ク)ニシテ共十二億百萬フランクハ國債元利ノ仕拂ト  
 諸手宛料トナル者ナリ若シ佛國人民ノ祖先ヲシテ古來常ニ賢明ナラシムル  
 カ假令ヒ往古ヨリ賢明ナラサルモ八十年以來事ヲ處スル愼密ナラシメハ方  
 今佛國ノ人民ハ斯ノ如キ公債ヲ負ハサルヘシ右ノ二十六億餘ノ巨額ニハ諸  
 手宛料ヲモ合算セリト雖其額ハ僅ニ千二百萬フランクニ過キス然ラハ則チ  
 若シ此國債ナクンハ佛國政府ノ經費ハ十一億九千萬フランクヲ減スルヲ得  
 ヘキナリ

斯ノ如ク國債ノ一項ヲ除ク時ハ文武ノ恩給ヲ除ク者ナリ然レトモ本文ノ  
 如ク假想シテ戰亂等ハナキ者ト見做ス時ハ軍人ノ恩給ハ從テ生セザルヘ  
 シ文人ノ恩給ニ至テハ全廢スルヲ得ヘカラサルヘシト雖他ニ方法ヲ設ケ  
 テ政府ノ經費ヨリ除クヲ得ヘシ

若シ歐洲諸國ノ人民ハ互ニ公正ヲ以テ相遇シ信實ヲ以テ相交ラハ尙他ノ科  
 目ニ於テモ大ニ減少シ得ヘキ者アリ即チ佛國陸軍省ノ如キハ年々五億三千  
 五百萬フランクヲ要ス其費額ハ施政上緊要ナル憲兵ノ經費ヲ合算シ又假令

至平至和ヲ主トスルモ悉ク兵備ヲ撤ス可ラサル者アリ故ニ陸軍省ノ經費ハ全廢スルヲ得ヘカラサル者ナリト雖政治上ノ關係ヲシテ意ノ如クナルヲ得セシメハ一億フランクヲ以テ常備兵憲兵ノ費用ニ給スルニ足ルヘキナリ佛國ノ實況果シテ斯ノ如クナルヲ得ハ尙四億三千五百萬フランクヲ減スルヲ得ヘシ故ニ之ヲ以テ國債元利ノ仕拂高十一億九千萬フランクニ加算スレハ十六億二千五百萬フランクヲ得ヘシ加フルニ此ニ假想スルカ如キ期望スヘカラサル至安ノ世ニアリテハ海軍及ヒ植民地ノ爲メニ一億八千六百萬フランクヲ費ヤサスシテ可ナルヘシ如何トナレハ植民地ヲ有セサルモ計ルヘカラス假令ヒ之ヲ有スルモ之ヲシテ獨立セシメハ植民地ノ爲メニ負擔スル所ノ義務ヲ免ル、ヲ得ヘケレハナリ然ルニ海賊ノ患ナキヲ必セサルヲ以テ商船保護ノ爲メニ幾許カ海軍ヲ備ヘサルヘカラスト雖之カ爲メニ四千六百萬フランクヲ費ヤセハ可ナラン然ラハ則チ該省ノ經費ハ一億四千萬フランクヲ減省シ前ノ十六億二千五百萬フランクニ合算セハ總テ十七億六千五百萬フランクノ費額ヲ減スルヲ得ヘキナリ又アルチリヤ國ノ爲メニ佛國カ費

ヲ得ヘシ該國ヨリ特別收入トシテ年々二千四百萬フランクヲ得ルカ故ニ出入稍相償ノカ如シト雖經費ハ則チ經費ナルヲ以テ是亦佛國政府カ減省スルヲ得ヘキ費額トス故ニ其減少スルヲ得ヘキ費額ハ通シテ十七億九千萬フランクトナル世往々教部ノ費用ヲ以テ政府ノ負擔ト稱スルニ足ラストナス往時佛國政府ハ寺院ノ財産及ヒ歲入ヲ没入セシヲ以テ之ヲ考フレハ直ニ政府ノ負擔ト云フヘカラサルノ實アリト雖實際之カ爲メニ毎年五千五百萬フランクヲ費ヤスニアラストヤ今假想ノ域ニアリテハ其費額モ亦減スルヲ得ヘシトナスモ敢テ妨ケナカルヘシ故ニ右ノ想像說ニヨレハ佛國政府ハ十八億四千五百萬フランクノ費額ヲ減スルヲ得ヘキ者ナリ

斯ノ如ク政府ハ已ニ巨額ノ經費ヲ減スルヲ得ヘシト雖未タ以テ盡セリト云フヘカラスト他ノ諸官省ノ經費ニ於テ節減ヲ加フト雖他ニ有用ナル事務ノ擴張スヘキ者アリテ増減相償ノ者ハ暫ク措テ問ハサルモ尙租稅局費、收稅費、諸拂戻シ、租稅滯納高ノ千八百七十七年ノ豫算ニ於テ二億七千百萬フランクニ

達スル者アリ其四千六百萬フランクハ郵便事務取扱ノ經費郵船補助金ハ此ニ算入セスニシテ租税法ヲ改正スト雖省減スルヲ得ヘキ者ニアラス然ルニ其他ノ二億二千五百萬フランクハ租稅局費收稅費及ヒ諸拂戻シ高ナルヲ以テ前ニ假想セシ如ク若シ國ニ負債ナク歐洲諸國皆平和ヲ固守セハ少クモ其五分ノ三即チ一億三千五百萬フランクハ之ヲ減省スルヲ得ヘシ之ヲ以テ前記ノ節減額ニ加算セハ十九億八千萬フランクヲ得ヘシ而シテ斯ノ如キ場合ニ至レハ大藏本省ハ支出收入共ニ減スルカ故ニ大ニ省務ヲ減縮シ方今ハ二千餘萬フランクヲ要スト雖減シテ千二百萬フランクトナスヲ得八百萬フランクノ省減ヲ得ヘキハ疑ヲ容レサルナリ是故ニ若シ佛國ノ人民聰明ニシテ此百年ノ間專ラ平和ヲ主トシ諸隣國モ亦深ク道義ヲ重シ各國舉テ兵備ヲ撤シ佛國ヲシテ國債ヲ起スノ不幸ナカラシメハ佛國政府ハ十九億八千八百萬フランクノ經費ヲ減省スルヲ得然ラハ則チ佛國政府ノ經費ハ方今ノ如ク二十六億六千七百萬フランクノ巨額ヲ要セス僅ニ六億七千九百萬フランクニシテ足ラン

余輩ハ佛國經費ノ減省スルヲ得ヘキ者ヲ歷舉シ斯ノ如ク非常ノ巨額ヲ得タリト雖内務工部等ノ經費ニ至テハ未タ毫モ論及セサルナリ若シ果シテ茲ニ假想スルカ如キ實況ニ在ラハ單稅ノ法敢テ行ヒ難シト云フヘガラス加フルニ次ニ論述スル所ノ形情アレハ尙一層ノ易キヲ覺ユ夫レ一國ノ經費ハ豈ニ只ニ中央政府ノ費用ニ止マランヤ必スヤ州及ヒ郡區ノ經費ヲ通算セサルヘカラス請フ今一步ヲ進メテ地方ノ經費ハ實際ニ於テ如何又此ニ假想セシ如キ場合ニ於テハ如何ヲ見ン佛國特別費ノ豫算ヲ見ルニ州政府カ收入スル所ノ大半郡區カ收入スル所ノ一部ヲ舉ケ三億八千四百萬フランクナリトス其他水夫病院印刷局レヂオンドノル技術工藝ノ中央學校等ノ如キ特別費モ亦該表ニ於テ五千六百萬フランクト稱ス然ルニ此五千六百萬フランクハ中央政府ノ經費ニ屬スルヲ以テ敢テ問フ所ニアラス故ニ此五千六百萬フランクヲ除ケハ特別費三億八千四百萬フランクハ即チ專ラ州郡區ノ爲メニ費ス所ノ者ナリ然レトモ郡區ノ費額ハ未タ以テ盡セリ

トナスヘカラス千八百七十一年ノ計算ニ據レハ巴里府ノ費額ヲ除キ四億一千五十萬フランクナリ巴里府ノ費額ヲ加フレハ凡ソ六億一千五百萬フランクトナル然ルニ其二千百萬フランクハ中央政府及ヒ州ノ補助金ナルヲ以テ之ヲ減省スレハ郡區自ラ給スル所ノ經費ハ實ニ五億九千四百萬フランクナリトス然ルニ其一億三千二百萬フランクハ已ニ特別費豫算ニ舉クル所ナルヲ以テ之ヲ減セサレハ重複ノ患アリ故ニ地方ノ經費ハ特別費豫算中ニアル者三億八千五百萬フランク郡區ノ經費四億六千二百萬フランクヲ合セテ八億四千七百萬フランクトナル

扱余輩ハ佛國ニ於テ公債ヲ有セス施政上ニ大過失ナク理財法宜キヲ得タリト假想セルヲ以テ地方費モ亦中央政府ノ費用ト均ク大ニ減少スルヲ得ン若シ地方ニ於テ漫ニ外面ノ修飾ヲ事トセス無用ノ土木ヲ起サステ費用ヲ節減セハ毎年ノ經費ハ六億フランクニシテ足リ復タ八億四千七百萬フランクノ巨額ヲ要セサルヘシ

斯ノ如ク毫モ佛國實際ノ歴史ヲ問ハス佛國ノ政府人民ハ聰明慧智ニシテ完

全無缺ナリ隣國モ亦至聰至明ナリト假想セハ佛國中央政府ノ經費ハ六億七千九百萬フランクヲ以テ給シ郡區ハ六億フランクヲ以テ足り通計凡ソ十二億八千萬フランクニシテ辦スルヲ得ヘシ

佛國ニ於テハ單稅ノ法ヲ以テ能ク此額ヲ得ヘキカ曰ク得易カラサルナリ然リト雖敢テ決シテ得ヘカラスト云難シ殊ニ少シク他ノ收入ヲ交ヘハ未タ以テ逮ニ得ヘカラストナスヘカラス此ニ官林官有地ノ如キハ單稅ヲ行フモ之ト並ヒ存スルヲ得ヘキ者ニシテ單稅法ヲ行フトテ敢テ其收入ヲ絶ツノ理ナシ方今佛國政府ノ官林ノ收入ハ凡ソ四千萬フランクナリトス千八百七十六年佛國大藏省ノ計表ニ據レハ官林ヲ除キ他ノ官有物ヨリ收入スル所一千三百萬フランクニ達ス然ルニ該收入高ハ不動産ノ拂下ケ海陸軍ノ古兵器等ノ賣却ニ由テ收入セシ者ヲ合算スルヲ以テ此ニ假想スル場合ニ於テハ後詳カ該收入ヲ減スヘシ故ニ該目ノ收入ハ凡ソ五百萬フランクトナスヘシ然ラハ則チ官林官有地等ノ收入ハ凡ソ四千五百萬フランクヲ得ヘキナリ又官報ニ據レハ郡區ノ所有物ノ收入即チ伐木借地借家等ヨリ收入スル所ノ者千八百



12 12

七十一年ニ於テハ四十九百五十萬フランクナリ巴里府ハ元來不動産ヲ有ス  
 レトモ此ニ算入セス又州ノ所有物ノ收入ハ極メテ小額ニ過キスト雖亦此ニ  
 算セサルヲ以テ之ヲ見レハ中央政府州郡區ノ所有物ヨリ得ル所ノ收入ハ少  
 クモ一億フランクヲ下ラサルヘシ是レ以テ經費ノ一部ヲ補ヒ單稅ノ徵收ヲ  
 減スルヲ得ヘキ者ナリ

此ニ又手数料ノ如キ歳入ニシテ單稅法設置ノ爲メニ廢セラレサル者アリ即  
 チ郵便稅電信料ノ如キ是ナリ方今佛國ニ於テ郵便稅ノ收入高ハ一億千六百  
 萬フランクナリ故ニ大ニ之ヲ減シテ其手数料ニ當ル丈ケノ者トナスモ尙八  
 千五百萬乃至九千萬フランクヲ得ヘシ之ヲ以テ電信料ニ合算セハ凡ソ一億  
 「フランク」ヲ得是亦以テ幾分カ單稅ノ徵收ヲ減スヘシ

其他單稅法ヲ布クト雖收入ヲ得ヘキ數種ノ財源アリ例ヘハ大學校ノ如キ權  
 衡稅等ノ如キ是ナリ方今大學校ノ收入ハ四百餘萬フランクアリ權衡稅ノ收  
 入ハ三百萬フランクニ過ク郡區ニ於テ市場稅埋葬地稅用水費點燈費トシテ  
 收入スル所ノ者モ廢セスシテ可ナリ千八百七十一年ニ於テ是等ノ諸費ヨリ

收入セシ者ハ巴里府ヲ除キ二千六百萬フランクナリ千八百七十六年巴里府  
 ノ豫算表ニ據レハ是等ノ收入ハ四千萬フランクナリトス然ラハ則チ是等ノ  
 收入合計凡ソ七千三百萬フランクハ單稅法ヲ用フト雖尙收入シ得ヘキ者ナリ  
 假令ヒ悉ク存スルヲ得サルモ其大半ハ以テ存スルヲ得ヘシ故ニ若シ此巨額ノ  
 收入ヲ減シ僅ニ實費ニ超ユルノ額ヲ徵收ストナスモ尙五千萬フランクヲ得ヘシ  
 由是觀之ハ中央政府及ヒ地方ノ所有物ヨリ收入スル所ノ者總額一億フラン  
 ク郵便稅電信料ハ減少スト雖尙總收入高一億フランク其他租稅ノ性質ヲ有  
 セサル手数料ノ如キ雜收入五千萬フランク總計二億五千萬フランクハ單稅  
 法ヲ用フト雖尙收入スルヲ得ヘキ者ナリ故ニ佛國ノ景況果シテ此ニ假定ス  
 ルカ如ク中央政府州郡區ノ經費ヲシテ十二億八千萬フランクヲ過キサラシ  
 メハ單稅ヲ以テ徵收スヘキ高ハ凡ソ十億三千萬フランクニシテ足ルヘシ  
 今單稅法ヲ以テ此十億三千萬フランクヲ得ヘキヤ否ヤト云ニ之ヲ得ル能ハ  
 サルニ非スト雖未タ以テ容易ナリト云フヘカラス之ヲ實際ニ徵スルニ國民  
 ノ歳入ハ則チ單稅ヲ徵課スルニ至便ナル者ナリト雖歳入稅ヲ以テ十億「フ

シクノ収入ヲ得シハ萬國ニ未タ其例ヲ見サル所ナリ英國ニ於テ歳入税ヲ以テ最大ノ額ヲ得シハ千八百十三年ニシテ當年ノ收入高ハ凡ソ四億フランク(千五百七十九萬五千六百九十一ポンド)ナリ

當時英國ハ不換紙幣ヲ流通シ其價格下落セシ時ナルヲ以テ之ヲ金貨ニ折算スレハ幾許カ其實額ヲ減セサルヘカラス

當時ノ徵課法ニ據レハ土地並ニ動産ヨリ得ル所ノ歳入ハ五十ポンド以上一割ヲ課シ職業上ヨリ得ル所ノ歳入ハ三千七百五十フランク(百五十ポンド)以上亦同率ヲ課シ五十ポンド(千二百五十フランク)以下ハ全ク税ヲ除シ千二百五十フランクヨリ三千七百五十フランクニ至ル迄ハ其高ニ應シテ一割以下ノ税率ヲ課セリ此歳入税ニ於テハ二條ノ注意スヘキ者アリ第一該税ハ特ニグレートブリタン(エングランド、スコットランド)ニ施シアイヤランドニ及ボサス第二グレートブリタン中ト雖小額ノ歳入ハ該税ヲ課セス中等歳入ハ其幾分ヲ輕減セリ故ニ若シ之ヲ一般ニ及ボサハ蓋シ一億五千萬若クハ二億フランクヲ増加セシナルヘント雖遙ニ十億フランクノ下ニアルヤ明カナリ然

リト雖千八百十三年ニ於テ英國ノ富ハ佛國今日ノ富ニ及ハサルヲ遠キ知ルヘシ

今日佛國ニ於テ單税法ヲ設ケハ其收入幾許ヲ得ヘキヤヲ豫算スルカ爲メニ英國輒近ノ實證ヲ見ント欲セハ千八百五十七年ノ歳入税收入高ヲ見ルニ如カス同年英國歳入税ノ收入ハ近年ニ於テ最大ノ額ニシテ凡ソ四億貳千五百萬フランク(千六百九十一萬五千三百三十二ポンド)ニ達セリ其税率ハ三千七百五十フランク以上ノ歳入ニハ六分七五(一ポンドニ付一シルリシク)四ペンス(二千五百フランク)ヨリ三千七百五十フランク迄ハ五分弱(一ポンドニ付十一ペンス)トセリ當年歳入税ノ收入ハ千八百十三年ニ比スレハ少シク多キヲ見ルト雖當時ハ英國一般ニ之ヲ課シ特リアイヤランドヲ除カサリシモノナリ

千八百七十六年ニ於テ佛國ノ富ハ千八百五十七年ニ於ケル英國ノ富ト相去ルヲ遠カラスト云モ敢テ妨ケナカルヘシ若シ百般ノ間税ヲ廢セハ單税ヲ課スルニ小歳入ヲ除キ(余輩ハ後篇ニ於テ小歳入ニ直税ヲ課スルハ遙ニ間税ヨ

リ難シ然ルニ普魯士ノ等級税ニ徴スルニ必シモ施シ難キニアラサルヲ論明  
 スヘシ中歳入ヲ輕減スルノ理ナシ故ニ是等ノ除税減税ノ制ヲ廢セハ英國歳  
 入税ノ收額ハ五割ヲ増加シ少クモ六億二千五百萬乃至六億五千萬「フランク」  
 ヲ得ヘシトナスモ可ナリ如何トナレハ已ニ前篇ニ論セシ如ク小歳入ノ高ハ  
 全國民歳入ノ一大部分ナレハナリ加フルニ一方ニ於テハ百般ノ租税ヲ廢ス  
 ルヲ以テ該例ノ如ク課スルニ六分七五ノ率ヲ以テセス八分トナスモ可ナリ  
 而シテ被税者ハ間税モナク記録税モナク只一ノ歳入税ヲ拂フノミナルヲ以  
 テ課税ヲ免レントヌルノ弊ヲ減シ其申告高ヲ増加スルニ至ルヘシ由是觀之  
 ハ難キハ則チ難シト雖八分ノ單税ヲ以テ一般ノ歳入ニ課シ十億ニ近キ收入  
 ヲ得ルハ能ハサルニハアラサルナリ

永世ノ歳入ト一生ノ歳入資本ノ歳入ト職業上ノ歳入ハ宜ク區別スヘキ者  
 ナリト雖今茲ニ之ヲ分クヌ歳入税ノ篇ニ於テ詳カニ之ヲ論スヘシ  
 千八百七十三年度ニ於テ英國ノ歳入税ハ一分二五「ポンド」ニ付三「ペンス」ノ  
 税率ニシテ二千五百「フランク」以下ハ税ヲ課セス二千五百「フランク」ヨリ七千

五百「フランク」マテハ二千「フランク」ヲ省キテ税セス其收入高ハ一億四千五百  
 萬「フランク」五百七十九萬二千「ポンド」ヲ得タリ故ニ英國ニ於テハ小歳入ヲ除  
 キ中歳入ヲ省減スト雖一分ノ税率ヲ以テ尙凡ソ一億一千六百萬「フランク」ヲ  
 得ヘシ然ラハ則チ佛國ニ於テハ百般ノ歳入一モ免除スル所ナク同時ニ一切  
 他ノ直税間税ヲ廢シ特ニ歳入ニ八分ノ税ヲ課セハ蓋シ十億「フランク」ノ收入  
 ヲ得ヘク以テ假定ノ經費ヲ償フニ足ラン元來租税ノ收入ハ國家ノ富ノ發達  
 ニ從テ大ニ増加スト雖國家ノ經費モ亦共ニ増加ヲ免レサル者ナリ

又單税法ヲ行フト雖歳入税ノ補助トシテ之ヲ存スルニ聊カ經濟上ノ不便ヲ  
 生セサル者アリ即チ遺傳及ヒ贈物ニ課スル者はナリ該税ハ之ヲ輕課シ被税  
 者ノ負債ヲ減シテ之ヲ課セハ至當ニシテ害ナキ者トス殊ニ佛國ニ於テ實施  
 スル所ニ反スト雖被税者ヲシテ爲メニ負債ヲ生セシメス若クハ資本ヲ減セ  
 サラシムルカ爲メニ兩三年ノ猶豫ヲ與ヘハ一層可ナラン千八百六十八年佛  
 國ニ於テ遺傳贈物ニ課セシ各種ノ税ハ壹億壹千六百六十三萬貳千「フランク」  
 ヲ收入セリ凡ソ遺傳物ニ租税ヲ課スル時ハ負債ノ額ヲ減省セサルヘカラス

又方今ノ税法ハ枝族ノ遺傳他人ノ遺傳ニ課スルヲ重キニ過ルヲ以テ多クハ其半ヲ減セサルヘカラスト雖尙蓋シ壹億フランクヲ收入スルヲ得ヘシ如何トナレハ税率ヲ輕フシ仕拂期限ヲ猶豫シ印紙税ノ如キ之ニ附屬セル諸税ヲ廢シ千八百六十八年以後富ノ増加セシ等ニテ蔽匿シテ告ケサルノ弊ヲ減スヘケレハナリ

千八百六十八年遺傳贈物ニ課セシ租税ノ内譯左ノ如シ	
一直接ノ血統ノ贈物	一三一六四〇〇フランク
一直接ノ血統ノ遺傳	二五三四〇〇〇フランク
一枝族ノ贈物	二三〇〇〇〇〇フランク
一枝族ノ遺傳	四九七五二〇〇フランク
一夫妻間ノ贈物	一〇五〇〇〇フランク
一夫妻間ノ遺傳	一一一四二〇〇〇フランク
一他人ノ贈物	一七一五〇〇〇フランク
一他人ノ遺傳	一三一一四〇〇〇フランク

斯ノ如クセハ尙壹億フランクヲ得ヘシ故ニ歳入ニ單税ヲ課シテ大凡ソ九億フランクヲ得ハ以テ假想ノ經費ヲ償フニ足ル又得難キノ額ニアラサルナリ若シ果シテ單税法ヲ實施スルヲ得ハ營業ヲ妨ケス事務ヲ簡易ニシ生産融通ヲ自由ニシ食物ノ税ヲ廢シ間税關稅ノ諸官吏ヲシテ悉ク農工商ニ從事セシムルヲ得テ經濟家營業者等カ切望スル所ノ結果ヲ見ルヲ得ン豈ニ良カラスヤ誰カ此進歩ヲ見ルヲ欲セサルモノアラシヤ若シ佛國ニシテ千七百八十九年以來專ラ平和ヲカメ第十八紀ノ末第十九紀ノ初ニ當リ偏ヘニ國債消却ヲ事トシ(當時佛國政府ノ公債ハ僅ニ五十億フランクニシテ其準備ニ充ツヘキ者トシテ寺院ノ財產ヲ有セリ)他ノ歐洲諸國モ亦能ク仁義ヲ主トシテ兵備ヲ事トスルノ慘狀ナカラシメハ此域ニ至ルヲ見シテ敢テ難キニアラス已ニ此至善至美ノ形狀ヲ往時ニ見ルヲ得ス之ヲ將來ニ見ルヲ得ヘキヤ否ヤハ吾人ノ能ク知ル所ニアラサルナリ然リト雖今日ノ狀ヲ見ルニ尙一層ノ難キヲ覺ユ如何トナレハ今佛國ノ經費ヲ大ニシ單税法ヲ實施スルヲ能ハサラシムル者ハ巨額ノ國債ニアレハナリ

世人或ハ余輩カ此ニ論述スル所ノ者ヲ以テ無用ノ贅言トナス者アラン然リト雖余輩カ此ニ假想スルニ國家ニ公債ナク海陸ノ軍備ヲ要セス政府ノ組織善良ニシテ冗費ヲ減省スル所ノ場合ヲ以テスル者ハ空想ニ過キスト雖又徒勞ニアラサルヘシ如何トナレハ單稅法ハ如何ナル場合ニ於テ實施スルヲ得ヘキヤヲ示スヲ以テナリ若シ果シテ佛國ノ國費地方費ヲ合シテ十二億八千萬フランクニ過キサラシメハ少シク斟酌ヲ加ヘ敢テ不便ナキ二三ノ補助稅ヲ存シテ單稅ノ法ヲ行フヲ得ヘキナリ然リト雖方今ノ如ク國家ノ經費殆ト該額三倍ノ多キニ至テハ決シテ其行フヘカラサルヲ知ルヘシ

今假想ノ世ヲ去リ二十五年來ノ實況ヲ見ルニ歐洲多事ニシテ人爲ヲ以テ國家ノ經費ヲ増シ毫モ經濟ノ理ニ本ツク者ナシ何ヲ以テカ能ク單稅法ヲ實施スルヲ得ンヤ然ルヲ之ヲ行フヘシトナス者ハ獨リ將來ヲ推測シテ豫言スルノ妄想論者ニ過キサルナリ

思フニ單稅法ヲ試ムルヲ得ル者ハ方今蓋シ只瑞士ノ一國アルノミ然ルニ該國ハ數州ヲ以テ成ル者ニシテ國費州費及ヒ地方費ノ全額ヲ知ルヲ得ス故ニ

果シテ之ヲ實施スヘキヤ否ヤヲ斷言スル能ハス白耳義ハ建國以來日尙淺ク未タ一ノ戰亂ヲ經スト雖已ニ單稅ヲ以テ一般ノ經費ヲ償フ能ハサルヤ明カナリ千八百七十四年ニ於テ白耳義政府ノ歲入豫算高ハ貳億三千萬フランクナリ然ルニ政府所有ノ鐵道及ヒ電信料ノ收入八千六百萬フランクハ營業ノ報酬ナルヲ以テ單稅法ヲ行フモ敢テ廢絶スル者ニアラス故ニ之ヲ減スルモ尙政府ノ歲入凡ソ一億四千四百萬フランクトナル又地方ノ經費ハ佛國ノ州郡區ノ費用八億四千七百萬フランクナルヲ以テ之ヲ推算スルニ白耳義ノ人口ハ凡ソ佛國人口ノ七分一ニ當ルヲ以テ其州郡區ノ費用モ亦一億フランクヲ下ラサルヘシ此地方費壹億フランクヲ以テ中央政府ノ歲入壹億四千四百萬フランク鐵道營業電信料ノ收入ヲ除キタル者ニ加フレハ貳億四千四百萬フランクニシテ佛國ニ於ケル拾七億フランクニ均シ然ルニ已ニ講究セシカ如ク官有物及ヒ郵便電信ノ如キ營業ノ性質ヲ有スル數種ノ收入ヲ合スモ佛國ニ於テ單稅ヲ以テ國費地方費トシテ拾貳億六千萬フランクヲ得ルハ容易ニアラサルナリ然ラハ則チ白耳義ニ於テハ假令ヒ之ニ均キ補助收入ヲ加フ

ルモ豈ニ單稅ヲ以テ貳億四千四百萬フランクヲ得可ケンヤ況ヤ白耳義ノ人口ハ四百八拾三萬九千人(千八百六十六年ノ調査)佛國ノ人口ハ三千六百萬人ニシテ七倍半ニ當リ白耳義ノ幅員ハ佛國拾七分ノ一ニ達セス(白耳義ノ幅員ハ貳百九拾四萬五千五百三拾九エクタール)佛國ハ五千貳百八拾五萬七千六百七拾五エクタール)白耳義ノ各人一個ノ富ハ佛國人民ノ富ニ及ハサルヘク白耳義勞力者ノ數ハ割合ニ佛國ヨリ多ク其報酬ハ佛國ヨリ少キニ於テヤ

國ニ巨額ノ負債アリ巨萬ノ軍費ヲ要スル者ハ單稅法ヲ行フ能サルヤ辨ヲ待タサルナリ

單稅ヲ論スル者ハ皆曰ク該稅ハ宜ク直稅タルヘシト然ルニ萬國ノ實歷ヲ見ルニ直稅ヲ以テ小歲入ニ課スルハ甚々難シ中等以上ノ歲入ト雖非常ニ輕課スルニアラサレハ幾許カ租稅ヲ脱スルノ患アリ佛國人民ノ全歲入ヲ以テ貳百五拾億フランクニ達ストシ單稅ヲ以テ三拾五億フランク若クハ只三拾億フランクノ收入ヲ得ント欲セハ國民ヲシテ各歲入ノ一割四分若クハ一割五

分ヲ拂ハシメサル可ラス如何トナレハ國民ノ中租稅ヲ納ムル能ハサルカ若クハ納ムルヲ欲セサル者アルハ常ニ免レサル所ナレハナリ往年亞米利加合衆國ニ於テ歲入稅ヲ課シ五分ヨリ七分半一割ニ至ル迄ノ率ヲ以テ得タル所ノ者ハ僅ニ金貨ノ價格貳億五千萬フランクニ過キサリシニアラスヤ今若シ佛國ニ於テ一割四分若クハ一割五分ノ稅ヲ課セハ必ス騙詐百出假令ヒ政府ハ憲兵及ヒ收稅督促吏ヲ置テ其奸ヲ防カント欲スルモ遂ニ必要經費ノ額ヲ得ル能ハサルヘシ方今ノ世態ハ業種多キカ爲メニ民產定マラサルカ爲メニ商工日ニ發達スルカ爲メニ國民カ歲入ノ實額ヲ蔽匿スルコト頗ル易シ若シ人民カ詐譎ヲ行フコト甚シカラサラシメント欲セハ稅率ヲ輕フスルヨリ善キハナシ都テ他ノ間稅直稅國稅地方稅ヲ廢スト雖八分ノ稅ハ未タ以テ輕シトナスニ足ラサレハナリ

又國費ノ大ナル國ニ於テ單稅法ヲ行フヘカラサルニ一他ノ理アリ即チ賦課ヲシテ平均ナラシムル能ハサルコト是ナリ凡ソ租稅ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ幾許カ弊害ナキヲ得ス譬ヘハ歲入稅ヲ課スルニ永世ノ歲入ト一生ノ歲

入ヲ分チ資本ヨリ生スル歳入ト營業ヨリ得ル歳入ノ別ヲナシ各稅率ヲ異ニシ理論上ニ於テハ至公至平ノ徵收法タルモ實際ニ於テハ種々ノ不平均ヲ免レサルモノナリ如何トナレハ被稅者ノ申告ハ精確ナラス政府ノ推定ハ誤謬ヲ免レス或ハ稅吏ニ疎漏ナキヲ保セサレハナリ故ニ一箇特別ノ場合ヲ舉レハ各種ノ租稅皆不公平ナキ能ハス是レ則チ假令ヒ道理上ニ於テハ如何ナル長稅ト雖輕課セサルヘカラサル所以ナリ思フニ國費地方費共ニ非常ノ小額ニシテ四分乃至五分ノ稅率ヲ以テ能ク之ニ給スルヲ得ハ歳入ニ單稅ヲ課スルノ法行フヲ得ヘク又稍平均ナルヲ得ン七分若クハ八分ノ稅ニ至テハ稍已ニ重シ是等ノ稅率ヲ以テスルモ徵收ノ間決シテ不平均ヲ免ル能ハスト雖被稅者ヲシテ偏重ノ弊ニ堪ヘサラシムルニ至ラサルヘシ譬ヘハ被稅者ノ中或ハ其負擔スヘキ二倍ノ稅ヲ課セラルト假想スルニ(如此キハ必ス免レサル事ナリ其收歛セラル、所尙八分若クハ一割ニ過キス重キモ尙一割四分若クハ一割六分ニ過キサルヘシ勿論負擔ヲ倍セラル、ハ不幸ナリト雖斯ノ如クナレハ堪ヘ難キニハアラス若シ之ニ反シテ國民ノ歳入ニ單稅率一割四分若ク

ハ一割五分ヲ課スルニ當リ課テ倍收ノ不幸アラハ其負擔三割ノ重キニ至ラシ豈ニ堪ユヘキ者ナランヤ

アダム、スミス氏ヲ首トシテ諸ノ經濟家多クハ以爲ラク若シ徵收ノ法煩雜ニシテ非常ノ不便ヲ與フルニアラサレハ巨額ノ國費地方費ヲ要スル時ニ當テ複稅ハ租稅ノ不平均ヲ防クノ一具ト云フヘシ如何トナレハ各稅徵課ノ誤リ悉ク一人ニ集ル者ニアラス一稅ヲ過徵セラルレハ蓋シ他ノ稅ニ於テ幾許カ之ヲ避ケ輕重相平均スルヲ得レハナリト曰ク然リ然リト雖往年アーサ、ヨング氏方今ニ在テハ英國ノ大藏卿ソル、コルンウォール、ルウイス氏ノ如ク稅種益多ケレハ稅法益善長ナリト云フニ至テハ其當ヲ得ル者ニアラス純然タル單稅法ト無限ノ複稅法ノ間ニ自ラ中庸ノ存スルアリ方今ノ開明諸國ハ皆大ニ數種ノ稅ヲ布カサル者ナシト云モ敢テ過チナカルヘシ歐洲大陸ノ諸國ニ於テハ皆然リ殊ニ佛國ヲ其シトナス英國ノ如キモ四十年以來大ニ關稅法ヲ改正シ僅々タル稅額ヲ得ル所ノ諸品ノ稅ヲ廢シ特ニ煙草、葡萄酒、蒸酒、茶、ノ四品ニ稅ヲ課シ稍々財政ノ宜キヲ得ルニ近シト雖尙一層關稅法ヲ簡易ニスル

ヲ得ヘク又ナサ、ルヘカラサル者ニシテ是レ亦多種税國タルヲ免レサルナ  
 リ方今ノ實況ニ於テ余輩カ望ム所ノ者ハ多種税ニアラスシテ簡單ナル複税  
 ニアリ英國ハ方今頗ル財政ヲ改良セリト雖千八百七十六年ニ於テハ未タ至  
 善ノ域ニ達セサルカ如シ殊ニ地方ニ至テハ不完全ナル一甚シ  
 フルードン氏嘗テ單税ヲ駁シテ云ヘルアリ凡ソ租税者皆不正タリ假令ヒ理  
 ニ於テ不正ナラサルモ之ヲ施スニ至テハ不正ヲ免レス是故ニ單税ヲ行フ時  
 ハ總テ不正ヲ一ニ集合スル者ナリ複税トスレハ各税普通ノ害相分レ税種益  
 多ケレハ其害益分レ從テ減少スヘシト氏カ此言ヲ出スヤ曩ニ累進税ヲ稱シ  
 テ民政遊戯或ハ兒戲財政トナセシト同一ノ精神ト云フヘシ  
 斯ノ如ク單税ヲ批議スル者少カラスト雖フイシオクラツト黨ノ論者ハ獨リ  
 之ヲ主張セリ該黨ノ論者ハ如何ナル主義ニ據テ單税ヲ唱フルヤヲ知ルハ敢  
 テ難キニアラス其說以爲ラク純歲入ヲ得ル者ハ獨リ土地ノ財產アルノミ故  
 ニ租税ヲ課スルニ只地租ノ一ヲ以テスヘシト論者ハ何ヲ稱シテ純歲入ト云  
 フカ後生ノ解スルニ苦ム所ナリ如何トナレハ其巨擘ナルケス子一氏ハ工業

者ヲ目シテ不生産ノ民トナスト雖是レ氏ノ失言ニシテ該黨ノ人未タ必シモ  
 製鐵ノ業各種ノ器械ハ國民ニ用ナシ錦衣絨服ハ獸皮ヲ纏フニ如カストナス  
 カ如キ愚昧ノ士ニアラサレハナリ該黨ノ人モ皆工業ノ利益ハ屢農業ノ利ニ  
 勝ルヲ知ル故ニ「フイシオクラツト」黨ノ言ハ直ニ其語ヲ執テ眞意トナスヲ得  
 ヘカラサル者アリ元來該黨ノ人ハ曖昧ノ言奇異ノ語ヲ好ムノ弊アリ其事ダ  
 ル實ニ奇異ナリト雖亦或ハ學者ノ免レサル所ナリ彼輩カ純歲入ト云フハ蓋  
 シ土地ハ耕植費ト之ニ用ヒタル資本ノ通利ノ餘ニ土地ノ肥瘠ト往年土地ノ  
 爲メニ費シタル資本ノ效驗ニ由テ他ノ營業ニ於テ得サル所ノ剩利ヲ生スル  
 所ノ者ナリト云ント欲スルニ過キサルヘシ近世ノ經濟家ハ此餘剩ヲ稱シテ  
 地代ト云フ凡ソ地代ハ人口増殖シ開化上進スル國ニ於テハ常ニ増加スルノ  
 勢アリ故ニ地主ノ歲入ハ勞セスシテ増加スル者ノ如シ此理ハ則チ「フイシオ  
 クラツト」黨カ暗ニ覺リシ者ニシテ第十九紀ノ初ニ至テ英國ノ經濟學士リカ  
 ード氏ニ由テ初テ論明セラル、所ノ者ナリ氏ノ說タル實際ニ於テハ十分ノ  
 效驗ヲ見ハシ理ニ於テハ聊カ間然スル所ナク三十年來農業ノ進歩ハ著シト



雖地主ノ歳入ハ地代ノ眞理ニ從ハサルカ如シ是レ他ナシ地代増加ノ勢ハ減少ノ勢ニ由テ其效ヲ失ヒ耕植ノ變更ハ年ノ豐凶營業ノ變遷ニ由テ影響ヲ受ケ地主ノ歳入一様ナラス其盛衰ハ他業ト異ナラス今日ニ於テハリカード氏カ思惟セシ如ク地主獨リ利益ヲ有スルニ至ラサルナリ

實際ノ景況ハ兎モ角モ純歳入即チ地代ノ理ハ確乎動カスヘカラサル者ナリ「フイシオクラツト黨」カ土地ニ單稅ヲ課セント欲スルハ耕植ノ資本勞力ニ報井タル後ノ餘剩ハ國民ノ共有產トシテ政府ニ收入スルモ敢テ妨ケサル者ナリト云フニアルハ諸書ニ照シテ明カナリ「フイシオクラツト黨」ノ熱心家ナルレ、メルシエ、ア、ラウイエル氏ノ如キハ政府ハ國民ト土地ヲ共有スルノ權アル者トセリ近世ニアリテハロツシ氏ヲ首トシ地代ヲ以テ租稅ノ基礎トナスニ最モ適當ナリト云フ者少ナカラス甚シキハ地代ヲ以テ政府ノ專有トナスモ敢テ妨ケル所ナシト云フモノアリ

世斯ノ如キ説ヲ唱フル者アルヲ以テ余輩ハ今ヨリ其當否ヲ講究セン凡ソ國家ノ經費僅少ニ止マル時ハ政府ハ只全國ノ地代ヲ以テ其有トセハ歳出ヲ償

フヲ得ヘシ斯ノ如クシテ政府ハ自ラ地主トナルモ耕植ノ業ハ依然トシテ借地農ノ從事スル所トナルヲ敢テ現時ト異ナルヲナカルヘシ

然ルニ該説ヲ行ハント欲セハ現今ノ地主ニ相當ノ償補ヲ與ヘサルヘカラサルヤ明カナルヘシ今日ノ地主ハ土地ヲ所有スレハ耕植ノ資本勞力ノ報酬ノ餘ニ地代ヲ得ルノ目的アレハコソ土地ヲ買ヒシ者ナリ若シ其餘剩ヲ得ル能ハサレハ誰カ貴價ヲ出シテ之ヲ購フ者アランヤ然ルニ地主ハ現行法律ノ保護ヲ受テ永世其財產ヲ所有スルヲ得ヘキヲ信シテ之ヲ購ヒシ者ナルカ故ニ其全財產ハ勿論假令ヒ其小部分タリトモ均ク他ノ財產ニ負擔セシメサル者ハ相當ノ償補ヲ與ヘスシテ政府ノ有トナスヲ得サルトリ由是觀之ハ土地ハ天然ノ肥瘠ニヨリテ餘剩ヲ生スト雖何ソ他ノ歳入ニ稅スルヲ止メテ專ラ地代ヲ收メ或ハ獨リ地代ニ重ク稅スルノ理アランヤ

殊ニ地代ト往昔土地ノ爲メニ費シタル資本ノ利益トハ經濟上ニ於テ區別ヌト雖實際之ヲ別ツヲ得ヘキモノニアラス佛國ノ如キハ蓋シ三四千年前已ニゴール人民ノ植民スル所トナリ千四五百年前土地所有ノ制已ニ定リ或ハ一

種族ニ屬シ或ハ各人一個ニ屬セリ

テ、ラヅエリ―氏ノ説ニ據レハ各人一個カ土地ヲ所有スルハ僅ニ數百年以來ノ制度ナリ其以前ハ土地ノ所有ハ重ニ各村ニ屬セシ者ナリト云フ

封建ノ制廢セラレテヨリ以來殊ニ此百年間土地ノ改良ニ資本ヲ費セシ者ハ巨大ニシテ知ルヲ得ヘカラス堤防ヲ築キ樹木ヲ植エ地質ヲ肥シ水道ヲ通シ水ヲ放テ田ヲ開キ道路ヲ築テ運輸ヲ便ニスル等ハ皆其利ヲ永遠ニ期スル者ニシテ方今耕植ノ資本勞力ノ報酬ノ外尙餘剩ヲ得ル者ハ是等ノ功最モ多クニアルヘシ然ルニ地代ヲ以テ一ニ天惠ナリトシ地主ヲシテ得セシムヘカラストナスハ決シテ當ヲ得ル者ニアラサルナリ今若シ詳カニ是等ノ事實ヲ探究セハ天惠ト云フヘキハ特ニ地代ノ一小部分ニシテ其大半ハ皆古人ノ遺惠ニシテ祖先ヨリ傳ヘシ者ナリ若クハ之ヲ購求セシ者ナルヲ見ルヘシ

凡ソ營業ハ皆多少ノ天惠ヲ有スルモノニシテ獨リ土地ノミニアラサルナリ例ヘハ製造業ノ如キハ大ニ地位ニ由テ營業ノ成否ヲ決ス故ニ地位ハ時トシテ一種特占ノ利タリ然ルニ地位ノ利ハ不慮ノ變更ニ由テ變シ天惠モ亦某植

物ノ興廢ニ從テ増減スヘシ方今ノ勢ヲ見ルニ世運ノ進歩スルニ從テ土地ヲ所有スルハ他ノ營業ヲナスト其情勢益相類ス土地ニ於テモ其價格ト生産力ノ多少常ニ變動スルヲ甚シ假令ヒ土地ハ全ク價格ヲ失フニ至ラサルヘシト雖未タ必シモ常ニ其價格ヲ騰貴スルニ至ラス若シ荷モ人跡ノ至ル所ハ人民之ニ居ヲ占メ耕植ニ適スル所ハ悉ク之ヲ開クニ至ラハ然ル後土地ノ價格ハ増加シテ止マサルニ至ラン其之ヲ見ルハ未タ旦夕ノ事ニアラサルナリ

斯ノ如ク論究セハ政府カ地代ノ全額ヲ專有シ若クハ地代ニ課スルニ割合ニ重キ稅ヲ以テスルノ理ナキヤ明カナラン若シ人アリ天惠ノ土地ニ於ケルハ他ノ營業ヨリ大ナリト云ハ、余輩ハ之ニ答ヘテ云ハン天惠ハ百業ノ助手ニシテ獨リ土地ニノミ存スル者ニアラサルナリト

然リト雖思フニ、フイシオクヲツト黨ノ論者ハ土地ニ單稅ヲ課シ政府ヲシテ地代ノ全額若クハ其大半ヲ掠奪セシメント欲スルニアラサルヘシ如何トナレハ該黨ノ論者ハ土地ノ所有者ヲ究迫セシメント欲スルニアラスシテ却テ其繁榮ヲ希望スル者ナレハナリ

「フイシオクラツト」黨ノ信スル所ハ凡ソ租税ハ其類ノ如何ヲ問ハス皆遂ニ地主ノ負擔スル所トナルヘシト云フニアリ例ヘハ消費税ノ如キ該黨ノ説ニ據レハ被税品ノ價ヲ騰貴スル能ハスシテ其生産ヲ減縮スルノ效驗アリ故ニ葡萄酒税ヲ以テ勞力者ノ負擔スル所トナルト稱スルハ當レリト云フヘカラス該税ヲ以テ消費者ニ負擔セシメント欲シテ葡萄酒ノ價ヲ騰貴スル時ハ前日ト同量ノ酒ヲ賣ルヲ能ハサルカ故ニ製造高ヲ減シ葡萄酒ノ生産ヲ減シ其地ヲ以テ他ノ薄利ナル耕植ニ用ヒサルヘカラス若シ之ヲ欲セサレハ其税額ヲ減シタル價ニテ賣ラサルヘカラス由是觀之ハ該税ヲ負擔スル者ハ遂ニ葡萄酒ノ所有主ニアラスヤト「フイシオクラツト」黨ハ此理ヲ固守シ百般貨物ノ税例ヘハ羊毛税煙草税ノ如キハ勿論諸製造品製造家若クハ資本家ニ課スル所ノ税モ亦皆遂ニ地主ノ負擔スル所トナルヘシトセリ而シテ資本家ニ課スル者カ何ヲ以テ地主ノ負擔トナルヤヲ辨シテ曰ク租税ヲ資本家ニ課スレハ利子ノ割合税額ト均ク騰貴スヘシ然ルニ世ノ負債者ハ重ニ地主ナリ故ニ其税ヲ負擔スル者ハ遂ニ地主ニアリト是レ則チ「フイシオクラツト」黨ノ論スル所ニ

ノ租税ノ負擔配賦ヲ説クニ理論上ニ於テハ甚タ明カナリト云フヘシ斯ノ如ク總テ租税ハ食品若クハ製造ニ用フル粗生品ノ生産ヲ減縮シ或ハ其價ヲ騰貴スルノ效驗ヲ有スル者ニシテ假令ヒ之ヲ課スルハ資本家勞力者財產家ニアルモ到底食品粗生品ノ生産者ナル地主ノ負擔ニ歸スル者トナスカ故ニ「フイシオクラツト」黨ハ其中間ノ納税者ヲ省キ寧ロ直接ニ地主ニ課セント欲スル者ニシテ決シテ理ナキニアラサルナリ實ニ諸間税ハ徵收費多ク從テ生スル所ノ費用モ亦少ナカラズ民ニ取ル所自ラ大ナラサルヲ得ス若シ果シテ「フイシオクラツト」黨ノ説ノ如クナラハ地主ハ只ニ悉ク政府ノ歲入ヲ給スルノヨナラス商賈勞力者ノ如キ中間者カ一時租税ヲ拂フ爲メニ其利子ヲモ負擔スル者ナリ是レ則チ第十八紀ノ經濟家ハ政府カ間税ヲ廢シテ土地ニ單稅ヲ課シ諸ノ附屬費ヲ避クルハ地主ノ利ナリト稱セシ所以ナリ

右ノ「フイシオクラツト」説ハ頗ル世人ヲ迷ハシムル者ニシテ方今尙國會議員ノ中ニ於テ往々葡萄酒税「アルコール」税砂糖税ハ勿論蓋シ煙草税ト雖亦地主ノ負擔スル所ナリト信スル者少カラズ然リト雖此輩ハ未タ是等ノ間税ヲ廢

シテ土地ニ直税ヲ課セントスルノ議ヲ發スルニ至ラス而シテ又此輩ハ第十  
 八紀ノ經濟家ニ比スレハ推理ニ暗ク之ヲ論スルヲ巧妙ナラス方今少シク「フ  
 イジ」オクラツト「ノ説ヲ折衷シテ之ヲ再唱スル者アリ即チ不動産ニ單稅ヲ課  
 セント欲スル者はナリ亞米利加合衆國ニ於テハ此説ヲ唱フル者頗ル多シ製  
 造家ナルメニエー氏ハ熱心該稅ノ説ヲ唱フ請フ今ヨリ其言ヲ講究セン  
 メニエー氏ノ唱フル所ハ實際「フイジ」オクラツト「ノ説ニ異ナラス唯其異ナル  
 所ハ「フイジ」オクラツト「黨ハ土地ニ單稅ヲ課セント云ヒメニエー氏ハ不動資  
 本即チ土地家屋製造所等ノ如キ其形ヲ變セスシテ利益ヲ生スル所ノ財產單  
 稅ヲ課セント欲スルニアリ而シテ氏ハ以爲ラク美術ノ事佛國ニ於テ年ニ盛ナ  
 リ之ニ稅セハ頗ル收入ヲ得ヘシト是ヲ以テ集講室ノ如キモ之ニ加ヘテ稅ス  
 ヘシトセリ然ラハ則チ單稅ノ基礎ハメニエー氏ノ論スル所ト「フイジ」オクラ  
 ツト「黨カ唱ヘシ所ト殆ト相同シメニエー氏ノ法ハケス子一氏及ヒ其黨論ニ  
 比スレハ稍廣シト雖亦却テ少シク精確ナラス如何トナレハメニエー氏ハ力  
 ヲ極メテ不動資本流動資本ノ別ヲ明カニセントシ不動資本ノ義解ヲナス

頗ル奇巧ナリト雖實際ニ於テハ往々別チ難キ者アレハナリメニエー氏ノ意  
 ハ「フイジ」オクラツト「黨ノ土地ニ於ケルカ如ク都テ租稅ハ其種類ノ如何ヲ問  
 ハス不動資本ノ生産力ヲ減殺スル者ニ其負擔ハ皆遂ニ不動資本ニ歸スル  
 者トナスカ如シ氏ノ説ニ從ヘハ租稅ヲ負擔スル者ハ其之ヲ拂フ所ノ勞力者  
 若クハ商賈ニ非ス租稅ヲ課スル時ハ勞銀増加シ若クハ生産品ノ需要ヲ減シ  
 一般ノ生産費ヲ増加スヘキカ故ニ之ヲ負擔スル者ハ遂ニ製造家若クハ地主  
 ニアリトス又氏ノ言ニ曰ク今日租稅ヲ拂フ者ハ消費者ノ如キ者ニシテ多ク  
 ハ貧民ナリ而シテ實際之ヲ負擔スル者ハ富民ナリト由是觀之ハメニエー氏  
 ハ間稅ヲ拂フ者ハ一般ニ公衆ナリト雖之ヲ負擔スル者ハ獨リ不動資本ノ所  
 有者ニアリトナスヤ明カナリ然ラハ則チ若シ中間ノ被稅者ヲ廢シ直ニ實際  
 ノ負擔者ニ租稅ヲ課セハ收稅費ヲ減スルヲ得ヘク不動資本ノ所有者モ亦均  
 ク利セラルヘシ如何トナレハ舉動ノ自由ヲ増加シ又租稅徵收ノ費用ヲ減ス  
 ルヲ以テ負擔ヲ輕減スルヲ得レハナリ加フルニ事務ノ取扱ヲ簡易ニスルカ  
 爲メニ公衆ハ暫時租稅ヲ拂フ迷惑ヲ消滅シ煩雜ノ勞ヲ省キ消費者モ亦利益

ヲ被ルヘシ

若シ該税ノ真意ヲ玩味セハ「フイジオクラツト」黨ノ説ト異ナル其間疑ヲ容レサルナリ是故ニ論者ハ敢テ之ヲ明言セスト雖暗ニ「フイジオクラツト」黨ノ説ニ服スルカ如シ

第十八紀ニ當リ「ヴォルターヤ氏ハ「ロム、オー、カラント、エー、キユ」ト題セル一書ヲ著シ深ク「フイジオクラツト」黨カ計畫セル單税ノ法ヲ駁セリ全篇四十「エー、キユ」即チ百二十「フランク」ノ歳入ヲ有スル所ノ一土アリ其不幸ヲ一學者ニ語ルノ主意ニシテ「デ、レ、メルシエ、デ、ラ、リ、ヴィエ、ル、氏」カ唱ヘン土地ニ單税ヲ課スルノ法行ハレタリト見做シ同氏カ用ヒタル曖昧模糊ノ語ヲ借テ之ヲ嘲笑セシ者ニシテ概シテ滑稽寓言ナリト雖其意ハ大ニ見ルヘキ者アリ故ニ左ニ其摘要ヲ舉クヘシ

士曰ク余ハ一箇ノ土地ヲ有シ地代トシテ年々四十「エー、キユ」ノ歳入ヲ得ヘシ若シ租税ノ負擔ナカリセハ敢テ左マテニ活路ニ困シムヘキニアラス執政者ハ無事ニ若シ政府ノ威力ヲ頼テ殘虐ヲ恣ニスルカ如シ其意以爲ラク

政府ハ余ノ土地ヲ共有スル天然ノ權理アリ故ニ余カ今日食スル所ノ一半ハ政府ノ所有ナリト嗚呼政府胃囊ノ大ナル實ニ驚クニ堪ヘタリ然ラハ政府余カ所有地ヲ全有スルノ權アリト云フモ五十歩百歩ノ論ナルヘシ

検査官ハ余カ十二「フランク」ノ税ヲ拂ヒ余ニアリテハ已ニ甚々重ク若シ柳條ノ籠ヲ製シテ生計ヲ補フ能ハサレハ余カ生ヲ送ル能ハサルヲ知ルニアラスヤ何ヲ以テカ突然急ニ二十「エー、キユ」ヲ以テ王ニ捧クルヲ得ンヤ

新執政者ノ説ニハ租税ハ專ラ土地ニ課スヘシ如何トナレハ萬物皆土地ヨリ生セサルハナシ雨水ト雖元ト土地ヨリ生ス故ニ租税ヲ負擔スヘキ者ハ特リ土地ノ生産物アルノミトナス

幾日ノ戦ニ一官吏余カ家ニ來リ軍費トシテ麥三「サンチエ」豆一俵其價都テ二十「エー、キユ」ナル者ヲ求メリ此戦タル徒ニ國家ノ損失ニシテ毫モ得ル所ナキ者ナリシ當時余ハ麥モナク豆モナク又金銀モナカリシ故ニ官吏ハ余ヲ捕ヘテ獄ニ繋ケリ

後余ハ顔色形容憔悴枯槁シテ見ル影モナキ有様ニテ獄ヲ出テ知人某ニ會セ

リ某ハ壯類肥容揚々トシテ六龍ノ車ニ駕シ侍從六人ヲ役シ給スルニ各余カ  
 歳入ノ一倍ヲ以テシ某ノ執事ハ二千フランクノ俸給ヲ得窃ニ掠ムル所亦毎  
 年數千フランクニ至リ某ノ妻カ費ス所ハ六月間ニ四萬エーキエノ巨額ニ達  
 セリ余ハ某ノ富未タ余ニ及ハサリシ時已ニ某ヲ知レリ某余ヲ慰メテ自ラハ  
 四拾萬フランクノ歳入ヲ有スルコトヲ語レリ余某ニ問フニ余ハ百二十フラン  
 クノ歳入ヲ有シテ軍費ノ爲メニ其半ヲ拂フヘキヲ命セラレタリ然ラハ貴兄  
 ハ二十萬フランクヲ拂ヒシヤヲ以テセリ

某曰ク余何ソ政府ノ費用ヲ負ハンヤ余ハ「カヂーズ」及ヒ「スーラツト」ニ於テ  
 八百萬フランクヲ得タル所ノ叔父ノ遺産ヲ受ケシ者ニシテ尺寸ノ地ヲモ  
 有セス余ノ財産ハ悉ク證書類ニシテ政府ニ負債スル所ナシ兄ハ是レ地主  
 ナリ故ニ其歳入ノ半額ヲ政府ニ納ムル者ナリ若シ大藏卿カ余ヲシテ國家  
 ノ費用ヲ補ハシメント云フカ如キ「アラハ」愚ト云フヘシ算法ヲ知ル者ノ  
 能ク爲ス所ナランヤ凡ソ百物皆土地ヨリ生スレトモ貨幣ト手形ハ只ニ交  
 換ノ證書ニ過キス余ハ百殺牛羊ノ如キ汚穢物ヲ弄スル者ニアラス只其代

表ナル金銀ヲ弄スル者ナリ若シ已ニ是等ノ物品ニ單稅ヲ課シ又余ノ貨幣  
 ニ稅セハ是レ一物ニ再課スル者ニアラスヤ兄ハ四十「エーキエ」ノ純收入ア  
 リ宜ク之ヲ出シテ國家ニ盡スヘシ而シテ時ニ來テ余カ僕婢ト共ニ一飯ノ  
 飢ヲ凌ケ

是レ則チヴオルテ「ヤ」氏カ絶世ノ卓見懿識ヲ以テ「フイジ」オクラツト「黨」カ土  
 地ニ單稅ヲ課セント云ヒ近年類似説ノ不動資本ニ單稅ヲ課セントスルノ非  
 ヲ論破セシモノナリ

然ルニ「フイジ」オクラツト「黨」ハヴオルテ「ヤ」氏ノ駁論ヲ以テ淺見薄識トナシ  
 之ニ答論セシ者アリ其言ニ曰ク

凡ソ租稅ハ其徵課法如何ヲ問ハス悉ク土地ノ生産物ノ負擔スル所トナル  
 特リ地租ノ他稅ニ異ナル者ハ徵收費ヲ減スルヲ得ヘク商業ヲ妨ケス工業  
 ヲ害セス煩雜ヲ生セサルニアリ如何トナレハ地租ハ地主ノ純收入ニ比例  
 シテ百般生産物ノ負擔ヲ均一ニスルヲ得レハナリ  
 是レ論者カ持論ヲ述フルニ過キス左ニ舉クル所ハ則チヴオルテ「ヤ」氏ノ言

ヲ駁セシ者ニシテ其言タル頗ル奇巧ニシテ多少眞理ニ適スル所ナキニアラ  
スト雖亦偏見ヲ免レサル者ナリ曰ク

此篇ハ余輩カ前ニ掲ケシヴォルターヤ氏ノ摘要ヲ云フ單稅法ヲ駁シ該法  
ヲ行フヘカラサルニ條ノ理アリトナス者ナリ即チ第一若シ單稅ヲ以テ特  
ニ土地ニ課スレハ證書類ヲ有シテ歲入ヲ得ル者ハ租稅ノ負擔ヲ免ルヘク  
第二外國貿易ヲ以テ富ヲ致ス者モ亦均ク賦稅ヲ免ルヘシトナス是ナリ請  
フ之ヲ辨セン試ニ某財產家アリ其資本ハ貨幣ニシテ年々五分ノ利子ヲ得  
タレトモ租稅トシテ其五分ノ一ヲ徵收セラレシカ故ニ其純歲入ハ僅ニ四  
分ナリシトセン若シ一朝稅法ヲ改メ其租稅ヲ廢セハ某ノ純歲入ハ五分ト  
ナルヘシ然ルニ前日其名ハ五分ノ利子ナリシト雖實際四分ナリシハ資本  
家ノ競争ニ由テ定リシ者ナルカ故ニ其稅ヲ廢シ實際五分ノ利子ヲ得ヘキ  
ニ至レハ又競争ヲ以テ名實共ニ四分ノ利子ニ低下スヘシ之ニ反シテ新稅  
ヲ設置セリトシ特ニ之ヲ土地ニ課シ毫モ他ニ及ホサレハ金利ハ依然ト  
シテ變動ナカルヘシ然ルニ若シ其一部分ヲ以テ資本家ニ課セハ金利必ス

騰貴セン故ニ資本家ヲシテ租稅ヲ拂ハシムルモ拂ハシメサルモ其實際ノ  
負擔ハ毫モ異ナル所ナカルヘシ勿論資本家ニ課スル所ノ租稅ヲ變シテ地  
租トナス時ハ實際ノ負擔者モ一時ノ負擔者モ數年ノ間共ニ利ヲ被ルヘシ  
ト雖地主ハ他ノ租稅法ニ於テ免ルヘカラサル弊害ヲ免ルヲ以テ其利スル  
所ハ一層大ナルヘシ

第二條ニ於テハ試ニ一商アリ其輸出品ニ輸出稅ヲ拂ヘリトセン今一旦輸  
出稅廢セラレテ地租トナルヲアラハ該商ノ利益増加スヘシ然ルニ其増加  
セル利益ヲ全收セスシテ可ナルカ故ニ商賈ノ間ニ競争ヲ生シ輸出品ノ原  
價騰貴シテ該商ノ利益ハ前日ト異ナラサルニ至ルヘシ之ニ反シテ輸入稅  
ヲ廢スルモ競争ニ由テ輸入品ノ價下落シ商賈ノ利益ニ異ナルヲナカルヘ  
シ由是觀之ハ如何ナル場合ニ於テモ商賈ノ利益ニ變動ナク實際常ニ租稅  
ヲ負ハサルナリ

右ノ說ハ蓋シコンドルセー氏ノ筆ニ成ル者ニシテ論理ニ於テハ頗ル巧ニシ  
テ敢テ欠ク所ナキカ如シ然ルニ百事未タ必シモ氏ノ論スルカ如クナラサル

ヲ如何ンセン

資本ニ税スルモ歳入ニ税スルモ實ニ利子ヲ騰貴スルノ傾向アリ故ニ動産税ノ事タル頗ル縝密ノ論題タリ俄國ニ於テ戰亂後嘗テ動産ノ歳入ニ三分ノ税ヲ課シテ證書類ノ價下落セシメアリ然リト雖之ヲ以テ未タ遽ニ利子必ス騰貴スヘント斷言スルニ足ラサルナリ元來流動資本即チ土地若クハ製造所等ニ投セスシテ常ニ市場ニ流動スル所ノ資本ノ歳入ニ税スル時ハ其税額ニ應シテ利子ヲ騰貴スル勢アルハ免レサル所ナリト雖只ニ勢ノ傾向ニシテ十分ニ其成績ヲ見ルヲ得ヘキ者ニアラス況ヤ即時ニ其效驗ヲ見ルニ於テヤ通例此傾向ノ現ハルハ徐々トシテ且ツ其一部分ニ過キサル者トス如何トナレハ資本家ハ假令ヒ租税ノ全額ヲ負ハサルモ幾分カハ之ヲ負ヒ又之ヲ永遠ニ負ハサルモ暫時ハ之ヲ負フヲ以テナリ譬ヘハ利子ノ割合四分ナルニ當リ政府カ資本ニ一分ノ税ヲ課セリトテ全國ノ利子忽チ一般ニ騰貴シテ五分トナルトナカルヘシ此時ニ當リ貸手ハ必ス其負擔ヲ避ケンコトヲカムヘント雖四分ノ利子一朝變シテ五分トナル時ハ借手減シテ資本ノ需要ヲ減スヘシ或

ハ云ハン然ル時ハ貸手モ亦減スヘント曰ク然リ内國ニ於テ新税ノ爲メニ利子ノ減少ヲ見ンヨリ寧ロ其資本ヲ外國ニ移サント欲スル者アルヘシ然ルニ此事タル常ニ非常ノ事ニシテ之ヲナス者ハ獨リ才識アル資本家若クハ冒險者ニ過キス衆人多クハ利子ノ少キモ之ヲ遠キニ致サンヨリ寧ロ近キニ置カントコトヲ欲スルモノナリ由是觀之ハ新税ヲ資本ニ課スルモ急ニ利子ヲ騰貴シテ税額ト均キニ至ラサルヘシ蓋シ此時ニ於テ利子ヲ騰貴スルコトアルヘシト雖決シテ租税ノ全額ニ達セス其負擔ハ必ス貸手借手ノ間ニ分タルヘシ其資本税ヲ廢スル時ニ於ケルモ亦然リ利子ノ下落必シモ租税ノ額ト均シカラサルヘシ必スヤ貸手借手互ニ利ヲ争ヒ遂ニ少クモ暫時ノ間ハ雙方ノ間ニ利ヲ分ツニ至ルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ

經濟ノ現象ハ天理ニ左右セラル、物理現象ノ天理ニ從フカ如ク容易ナラサルナリ經濟ノ現象ハ多少人心ノ制御ヲ受ク故ニ往々專ラ競争ニ因テ左右セラレ常ニ天理ノ效驗ヲ見難キ者アリ

「アイデオクラット黨單稅論」一大途課タルヤ彼輩ハ假令ヒ百般ノ消費稅ヲ



廢シテ專ラ地租ヲ課スルモ廢稅ノ全額若クハ殆ト其額ニ均ク百貨ノ價ヲ騰貴シ地主ハ敢テ損スル所ナシト信スルニアリ若シ一國孤立シテ毫モ外國ト交通セサル時ハ久キヲ經テ或ハ斯ノ如キ景況ヲ見ルヲ得ン試ニ日耳曼ノ經濟家デチユモン氏カ想像セシ如ク一國孤立シテ毫モ外國ト交通セサル者ナリトセン然ル時ハ悉ク消費稅ヲ廢シテ地租トナスモ地主ハ之カ爲メニ苦マサルヲアルヘシ實ニ消費者ノ財力ハ必シモ變動セサルヘキカ故ニ人民ハ消費稅廢止後モ從前買ヒ價レタル價ニテ物品ヲ買フヲ得ヘク又買ハサルヘカラスシテ物品ノ需要敢テ變動ナカルヘシ又消費稅廢シ土地單稅トナスモ新稅ヲ以テ悉ク消費者ニ負擔セシムルヲ得レハ地主ノ利益ヲ變セサルヘキカ故ニ物品ノ供給モ亦變動ナカルヘシ斯ノ如クナレハ地主ハ稅法改革ノ爲メニ敢テ苦ヲ受ケス消費者ノ位置モ昔日ト異ナルヲナカルヘシ如何トナレハ其形情同キ時ハ直接單稅ノ賦課易ク徵收費少キハ間接稅ノ比ニアラサレハナリ只地主ハ蓋シ時トシテ一時ノ困苦ヲ免レサルヲアルヘシ例ヘハ凶年ニシテ收穫ヲ失フカ如キ是ナリ

然ルニ方今ノ世態ニアリテハ決シテ一國ヲ視テ以テ孤立セル者ト爲スヘカラス百年以來殊ニ此二十年來外國貿易大ニ擴張シ資本ノ來往頗ル繁シ今日ニアリテ國家ヲ以テ孤立セル者ト假想スルカ如ク妄誕無用ナル者アラザルナリ凡ソ諸國ノ財政ハ各其法度ヲ異ニシ之カ爲メニ實際ニ影響スル所少カラス

消費稅廢シテ土地單稅トナスモ外國ノ輸入品ニ租稅ヲ課シ内國地主ノ新負擔ヲ償補スルニアラサレハ内國地主ハ其新負擔ヲ以テ消費者ニ負ハシメ前日ト均ク利益ヲ得ルヲ能ハサルヘシ如何トナレハ外國地主ノ負擔ハ決シテ内國地主ノ如ク重キノ理ナケレハナリ

例ヘハ若シツイシオグワット黨ノ說ニ從ヒ佛國ニ於テ酒類ノ輸入稅小賣稅等ヲ廢シ之ニ均キ直稅ヲ以テ葡萄酒ノ所有主ニ課スル時ハ此輩ヲシテ從前ノ位地ヲ保タシムル爲メニ土地ニ單稅ヲ課セサル國ヨリ輸入スル所ノ葡萄酒ニ同額ノ租稅ヲ課セサルヘカラス然ラサレハ外國ノ葡萄酒ハ低價ニ賣ラレハキカ故ニ佛國ノ葡萄酒主ハ悉ク新稅ヲ負擔スヘシ是レ啻ニ酒稅ニ於ケ

ルノミナラス甜菜砂糖稅煙草稅等凡ソ百ノ農産物ノ稅ニ於ケル皆然リ是故ニ農産物ノ稅ヲ廢シテ地租トナス時ハ外國ノ同物品ニ輸入稅ヲ課スルニアラサレハ新稅ノ負擔ハ悉ク内國ノ地主ニ歸スヘシ

都テ是等ノ理ニ由テ之ヲ見レハ到底土地ニ單稅ヲ課スルヲ得ヘカラス況ヤ巨額ノ國費地方費ヲ要スル國ニ於テヲヤ或ハ云ハン内地ノ地租ヲ償補スルニ足ル所ノ輸入稅ヲ存シテ内國ノ諸間稅ヲ廢スルモ可ナリト此制タル佛國革命ノ租稅法ニ相類スル者ニシテ獨リ内國ノ地主ニ課スルニ比スレハ其害少カルヘシト雖亦頗ル困難ヲ免レサルヘシ如何トナレハ諸間稅ヲ廢シテ專ヲ地租ヲ課スル時ハ稅率増加セサルヲ得スシテ賦課平均ヲ失ヒ彼ヲ剝テ此ヲ富マスノ危ヲ侵ス者ナレハナリ方今ノ複稅法モ亦配賦ノ不平均ヲ免レサル者ナリト雖單稅ニシテ人民歲入ノ一大部分ヲ徵收スル時ハ其不平均益甚シク一方ノ民ヲ塗炭ニ若メ一方ノ民ヲ裕ニスルノ結果ヲ生スルニ至ラン

元來租稅負擔ノ歸スル所ハ頗ル深密ニシテ殆ト明解ニ若ム所ノ者アリ然ルト雖經濟ノ理タル能ク其效驗ヲ瞬時ニ見ルヘキ者ニアラス舊制ノ效驗消シ

テ新制ノ效驗ヲ生スルニ至ルマテノ間必ス常ニ數歲月ヲ要セン若シ之ヲ服膺シテ忘ルナクンハ共ニ租稅負擔ノ理ヲ談スヘキナリ

世往々以爲ラク凡ソ百ノ租稅皆數歲月ヲ過クレハ正平ニ歸セン如何トナレハ社會ノ構造ハ自然ノ宜キニ歸スル者ナレハナリ譬ヘハ消費稅ヲ課スレハ數歲ノ後早晚カ勞銀ヲ増加スルノ效驗アルヘク資本ノ歲入ニ稅スレハ利子ノ騰貴アルヘク土地ニ稅スレハ地價ヲ減シ新ニ土地ヲ買フ者ヲシテ相當ノ歲入ヲ得ヘカラシムルニ至ルヘシト曰ク然リ新稅設置ノ初ニ當テハ不當ナルモ數年ノ後ハ殆ント正平ニ歸スル者少ナカラス如何トナレハ其弊ヲ受クル者或ハ消滅シ或ハ勞銀ノ増加若クハ利子ノ騰貴等ニ由テ償補ノ路ヲ得ルニ至ルヘケレハナリ然リト雖此平均ヲ得ルニ至ルハ決シテ一朝一夕ノ事ニアラス故ニ其間一時ノ困苦ヲ受ケ時トシテハ補フ能ハサル損害ヲ被ル者少カラス

是故ニ稅法ヲ一變シ新制ヲ設置スル時ニ當テハ宜ク意ヲ加ヘ決シテ輕舉スヘカラス譬ヘハ單稅法ヲ以テ急ニ複稅ニ更ヘ若クハ遽ニ直稅法ヲ以テ直間

混交ノ法ニ改ムルカ如キ財政法ノ大變革ヲナスハ新ニ激烈ナル弊害ヲ以テ  
 已ニ殆ト消滅シテ覺エサル所ノ弊害ニ換フル者ナリ故ニ斯ノ如キ改革ハ宜  
 ク之ヲ慎重ニシ之ヲ漸次ニスヘシテツカル氏嘗テ云ヘルアリ人身解剖ノ試  
 験ハ之ヲ生牀ニ施スヘカラスト氏カ此言ヲ發セシハ其場合ヲ得タリト云難  
 シト雖亦其語意ノ見ルヘキ者アリ余ハ將ニ言ハントス生牀取扱ノ制ヲ變ス  
 ル時ハ假令ヒ良法ヲ以テ弊制ニ換フルモ一時ニ全制ヲ廢置スヘカラスト  
 余輩カ此ニ討論スル所ノ者ハ土地ノ單稅ニアリト雖方今佛國ニ於テ往々主  
 張スル所ノ資本ノ單稅亞米利加ニ於テハ不動資本稅ノ名ヲ以テ盛ニ唱フル  
 所ノ單稅ニ於ケルモ同一理ナリ此資本單稅ノ事タル頗ル輿論ヲ煽動スルノ  
 勢アリ請フ今ヨリ之ヲ論究セン

直稅ヲ課スルニ資本ニ課センカ將々歲入ニ課センカ資本トハ國民ノ貯蓄セ  
 シ富ヲ云ヒ歲入トハ勞力ノ報酬營業ノ利益(即チ資本ノ普通利子ヲ減シタル  
 餘ノ利益)諸職業ノ手數料心付ケ等定額ノ俸給及ヒ公債證書貸附金等一切資  
 本ノ利子ヲ云フ

或ハ之ヲ資本ニ課セント云ヒ或ハ之ヲ歲入ニ課セント云ヒ抗論紛々殊ニ近  
 年ニ於テ最モ甚シ世ノ急進論者ハ寧ロ資本ニ課スヘント思ヘルカ如シ余輩  
 ハ至公至平ノ心ヲ以テ先ツ論者ニ一步ヲ假ヤン論者ハ資本ニ課スヘント云  
 フニ政府ヲシテ人民ノ資本ノ一部分ヲ沒收セシムヘントナスニアラス實際  
 之ヲ拂フハ多ク其資本ヨリ生セシ所ノ歲入ニシテ只資本ヲ以テ賦稅ノ基礎  
 トナスヘシト云フニアリ資本ヲ全沒スヘカラスト又之ヲ消滅スヘカラスト假令  
 ヒ其一部分ト雖資本ヲ減縮セシムヘカラストハ論者ノ明言スル所ナリ宜ク  
 其意ヲ輔ケテ公明正大ニ之ヲ論スヘシ何ソ隙ヲ探リ非ヲ擊ツヲノミ之レ力  
 メンヤ

資本ニ課スヘシトナス所ノ論者ハ尙フイシオクラツト黨カ土地ニ於ケルカ  
 如ク以爲ラク都テ間稅ヲ負擔スル者ハ一般ニ資本ニアリ就中不動資本ニア  
 リ如何トナレハ間稅ハ農工產物ノ消費ヲ減シ一國生産ノ費用ヲ増加シ國家  
 ノ生産ヲ妨クル者ナレハナリ然ラハ則チ實際間稅ノ負擔者ハ資本ニアルヲ  
 以テ寧ロ其中間ノ納稅者ヲ廢シ徵收費ヲ減スルノ善キニ如カサルナリト又

曰ク租税ハ各人民ノ身體財産保護ノ保険料ナルカ故ニ資本ヲ以テ凡テ租税ノ基礎トナスハ理ニ於テ當然ナリト論者ハ又資本ニ税スル時ハ其資本ノ使用如何ヲ問ハス同額ノ資本ヲ有スル者ハ皆負擔ヲ同フスヘキヲ以テ諸税ノ中最モ負擔ノ平均ヲ得ヘキ者ナリト云ヒ或ハ歳入ニ税スル時ハ不公平ノ害アリトシ數條ノ例ヲ舉テ之ヲ證シ資本税説ヲ扞護ス其言ニ曰ク方今集書室ノ如キ金剛石ノ如キ美術ニ關スル物品ノ如キ財産ハ課税ヲ免カレ市府町村ニ於テ巨價ノ土地ヲ有スル者ハ殆ト毫モ税ヲ負ハス動産ノ歳入ニ税スレハ土耳其埃及ノ公債證書ヲ有スル者ハ巴里府ノ公債證書若クハ「クレヂフオンシエ」ノ證券ヲ有スル者ニ比ズレハ三四倍ノ重キヲ加フ是レ高價ノ證券ヲ有スル者ハ低價ノ證券ヲ有スル者ヲ苦メテ其利ヲ恣ニスル者ト云フヘシ其不公平ナル亦甚シカラヌヤト又或ハ云フ資本税ハ資本ノ流通ヲ促シ之ヲシテ有利ニ就カシメ營業ノ發達ヲ助ケ未タ經營中ニアリテ資本トナラサル所ノ財産ニ賦セス又職業ヲ以テ生計ヲ營ム者ニ課セス故ニ實ニ協力ノ意ニ合フ者ナリト其言皆一理ナキニアラスト雖未タ以テ難スヘキ者ナシト云フヘカ

ラス或ハ又以爲ラク國民ノ資本ヲ知ルハ歳入ヲ知ルヨリ易シ資本ハ判然見易シト雖歳入ニ至テハ只豫算スルヲ得ヘキノミト此説タル常ニ專ラ不動資本即チ土地家屋製造所等ノ如キ一切不動産ニ税シ流動資本即チ商業手形銀行手形公債證書貸金證書等一切ノ動産ハ之ヲ税セサルヘシト云フ者ノ口ニ出ツル者ナリ而シテ其不公平ノ失アルヲ以テ通辭ヲ設ケテ曰ク流動資本ハ其實不動資本ノ代表ナリ譬ヘハ鐵道ノ株券及ヒ諸會社ノ株券ハ該産所有ノ證書ニシテ其財産ノ代表ニ過キサルカ如シト是等ノ資本税論者ノ説ハ未タ以テ余輩ヲ信服セシムルニ足ラス曩ニ「フィジオクラット」黨ノ説ヲ論究スルニ當リ凡ソ百般ノ租税ハ其直税ト間税トヲ問ハス悉ク不動資本ノ負擔ニ歸スルトナスハ資本税論者ノ租税負擔ノ説ナルヲ陳セリ此説タル頗ル過實ノ言ヲ免レサル者ト云フヘシ如何トナレハ此事タル只孤立ノ國ニシテ毫モ外國ト交通セス物品ノ輸出入ナキ地ニ於テノミ始テ實見スルヲ得ヘケレハナリ其外國ト貿易ヲナシ物品ヲ輸出シ得ヘキ場合ニ於テハ生産者カ内國ノ間税ノ全額ヲ負擔スヘシト云フヲ得サルヘシ加